

「受刑者に対する釈放時アンケート」について（平成 28 年度分）

刑事施設の運営の実情に対する国民の理解を深めることを目的として、平成 28 年度に実施した「受刑者に対する釈放時アンケート」の集計結果を公表しますので、お知らせします。

1 内容

行刑改革会議の提言を受け、行刑行政の透明化、処遇環境の充実化等を推進するための一方策として、平成 17 年 4 月から、出所受刑者を対象として釈放時アンケートを実施しています。

釈放時アンケートは、受刑者の釈放時の感想等を集計し、刑事施設の適正な運営を図るための資料として活用するとともに、その結果を公表し、刑事施設の運営の実情に対する国民の理解を深めるための資料として活用するものです。

2 調査期間

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日

3 対象者

21,364 名

※ 上記の期間中に、刑事施設を釈放となった受刑者

4 有効回答数（回答率）

20,708 名（96.9%）

（男子：18,703 名、女子：2,005 名）

※ 対象者のうち、アンケートの実施を拒否した者及び傷病等のためアンケートの実施が困難な者は除いた。

※ 1 項目でも有効な回答があれば有効回答数に計上している。

5 結果

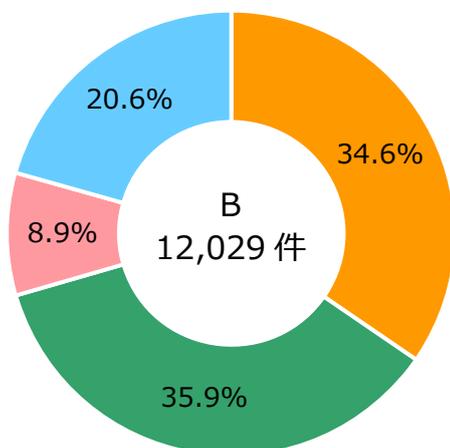
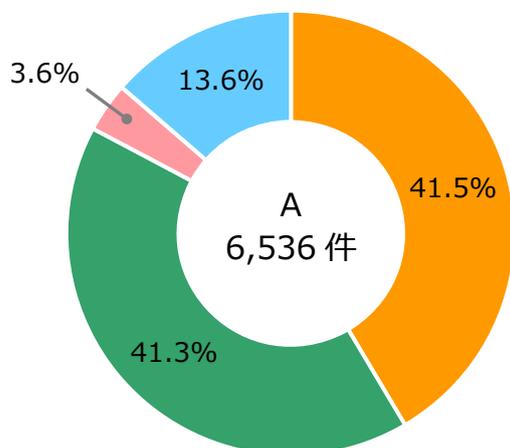
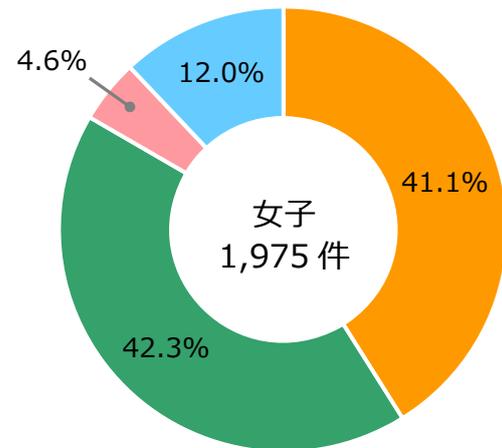
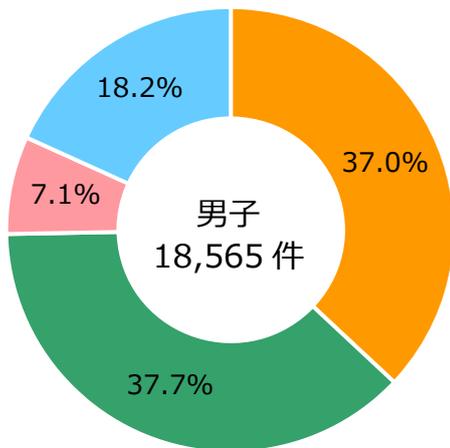
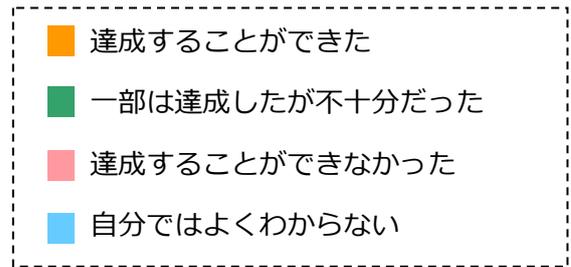
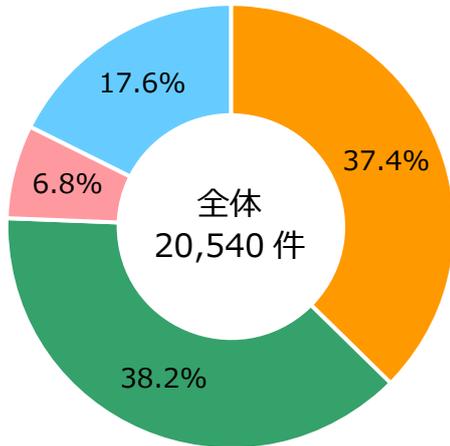
アンケート集計結果は次のとおり。

なお、アンケート結果の図表の構成比は四捨五入したために、構成比の和は 100.0% にならない場合がある。

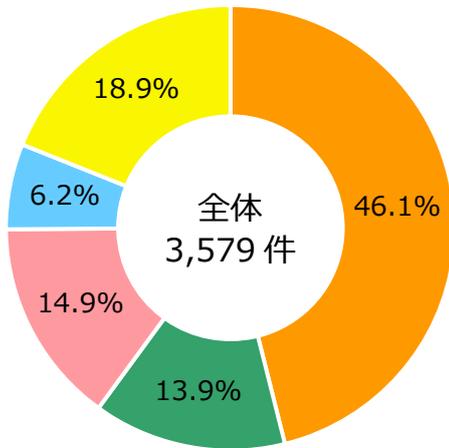
<注> 本集計結果において、「A」は「男子」のうち犯罪傾向の進んでいない者、「B」は「男子」のうち犯罪傾向の進んでいる者、「W」は「女子」のことである。

1. 今回の受刑における矯正処遇の目標について

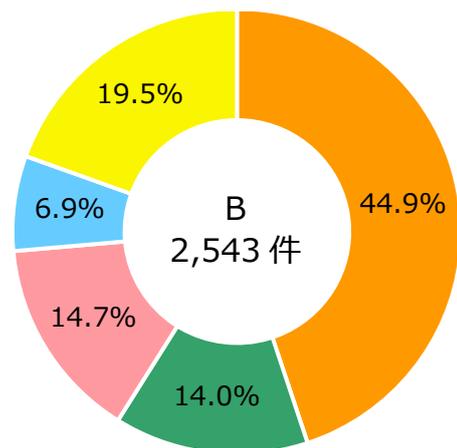
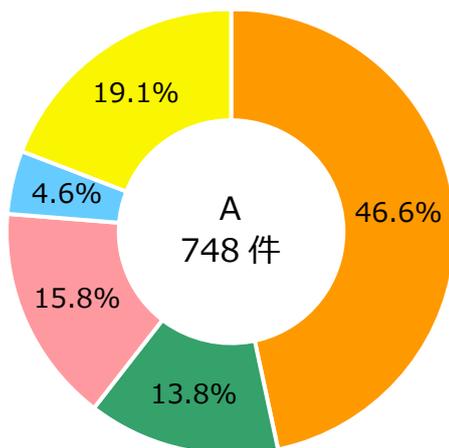
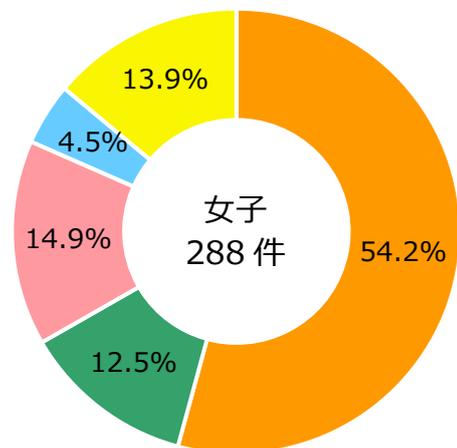
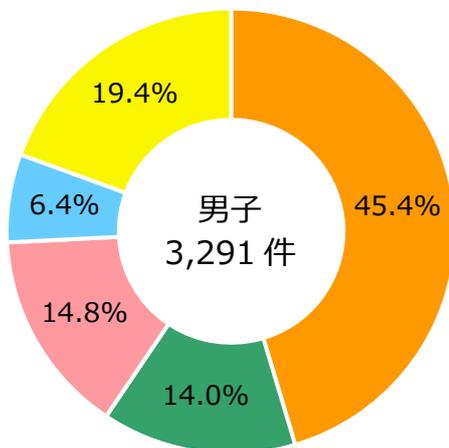
(1) 受刑生活を通じて、自分に定められた目標を達成することができましたか。



(2) (1) で「達成することができなかった。」と答えた人に聞きます。その理由として考えられるものはどれですか。



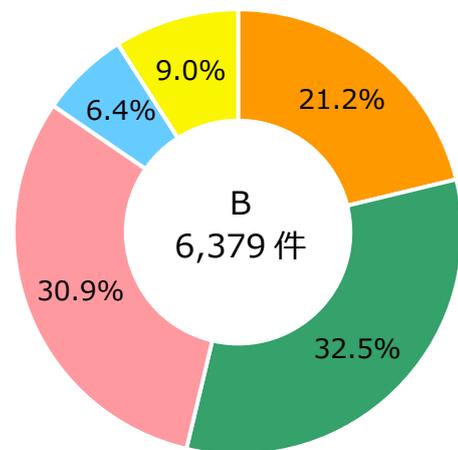
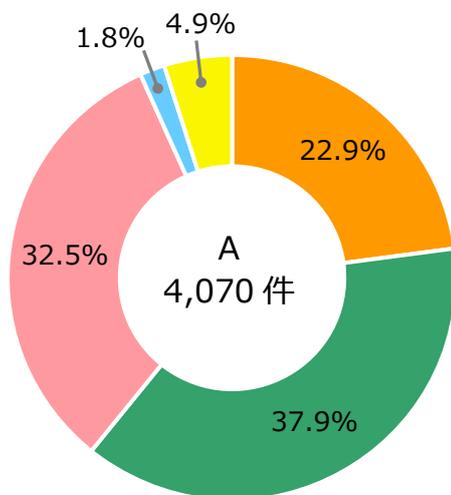
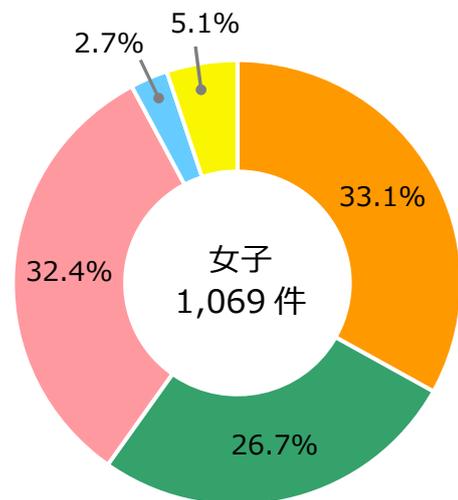
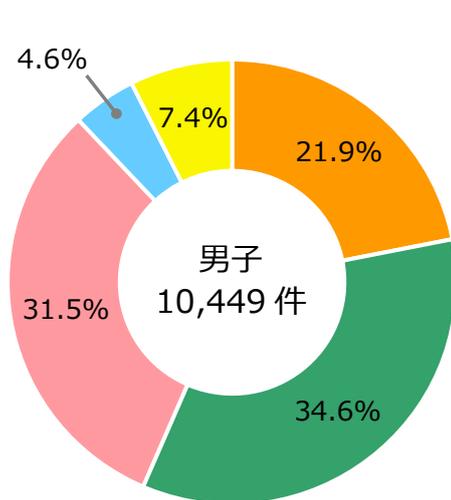
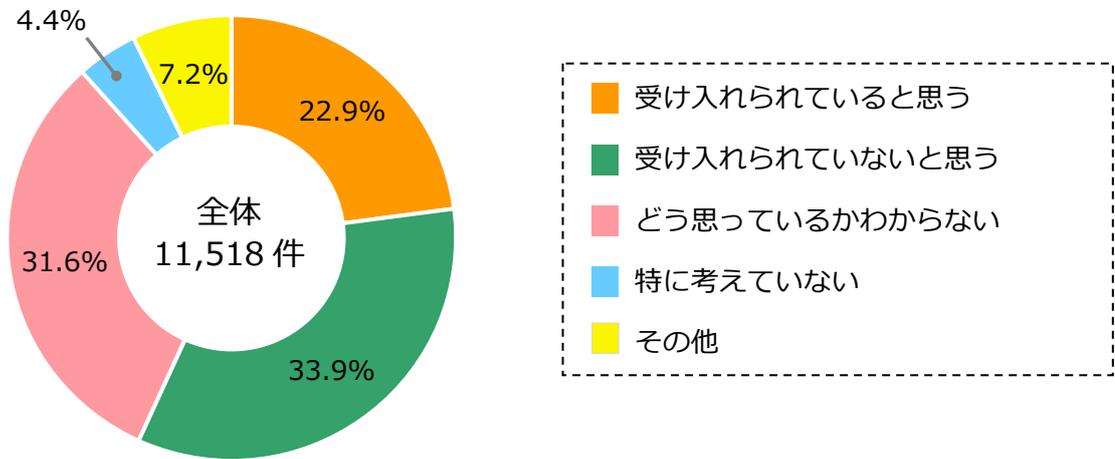
- 達成しようという自分の気持ちや努力が足りなかった
- 受刑生活を送る中で、目標のことを忘れることが多かった
- 目標をどうやって達成すればよいか分からなかった
- 目標が自分に合っていなかった
- その他



矯正処遇の目標について、「達成することができた」又は「一部は達成したが不十分だった」とする回答は、男子が74.7%、女子が83.4%であり、処遇指標毎に見るとAが82.8%、Bが70.5%であった。「達成することができなかった」と回答した理由については、いずれの類型においても過半数が「達成しようという自分の気持ちや努力が足りなかった」と回答した。

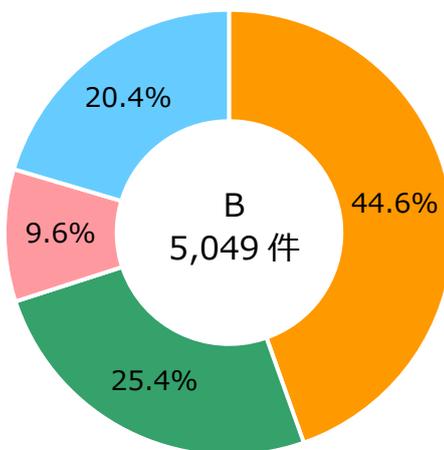
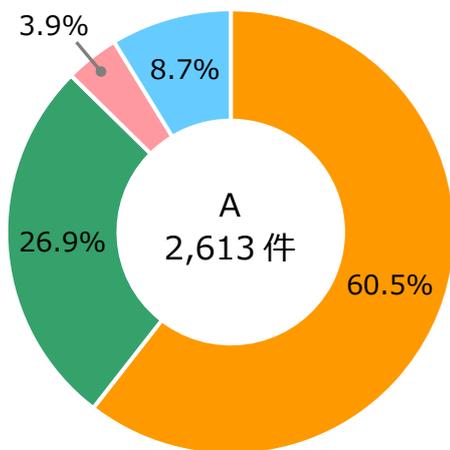
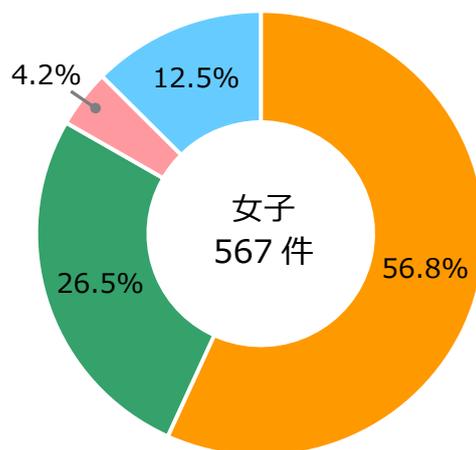
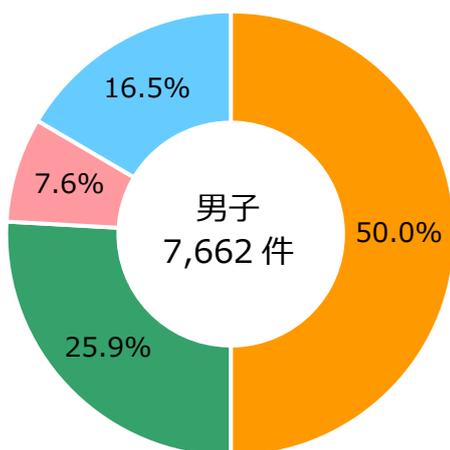
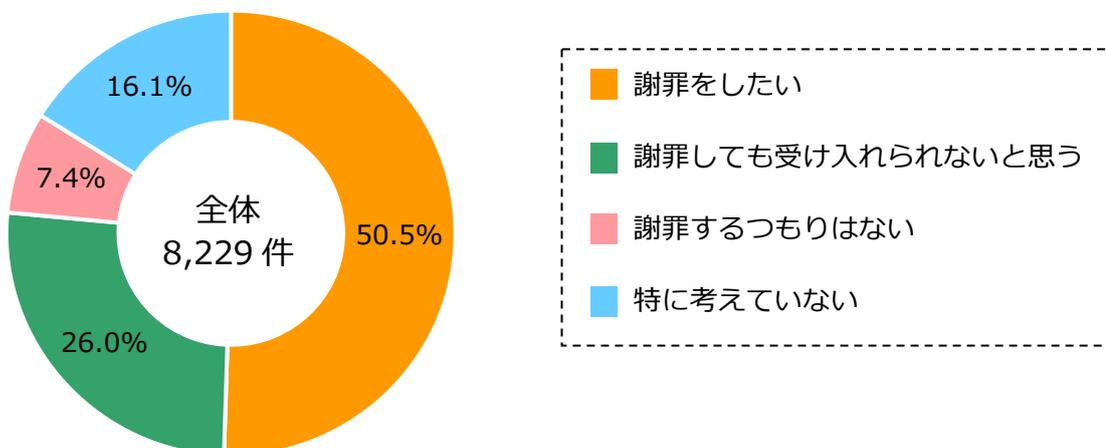
2. 今回受刑することになった犯罪に被害者（その家族を含む。）がいる人

(1) 被害者に謝罪や被害弁償（慰謝料の支払いを含む。）等をした人に聞きます。
被害者はどのように感じていると思いますか。

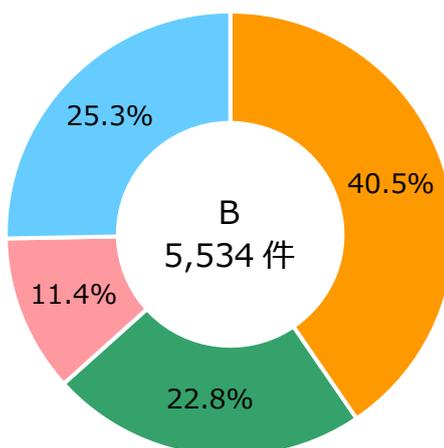
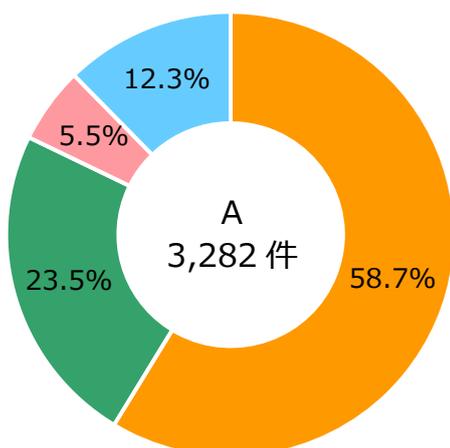
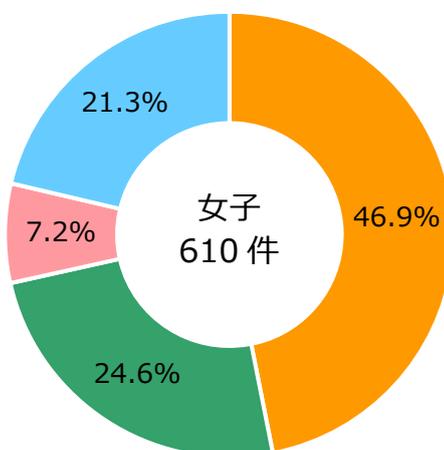
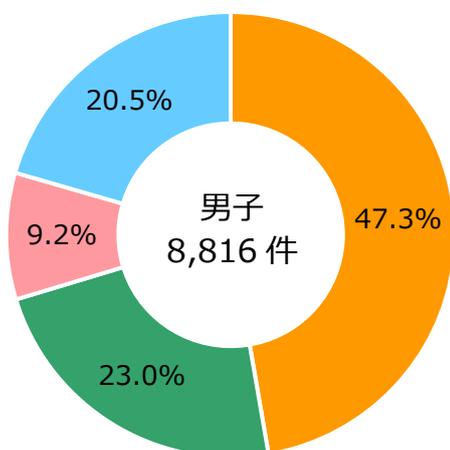
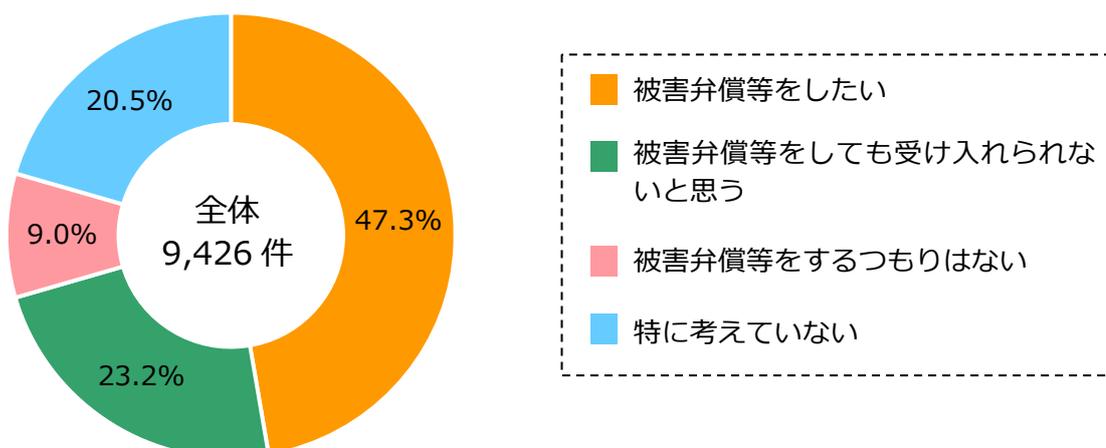


(2) 被害者に謝罪や被害弁償等（慰謝料の支払いを含む。）をしていない人に聞きます。
謝罪、被害弁償等について、どのように考えていますか。

ア) 謝罪について



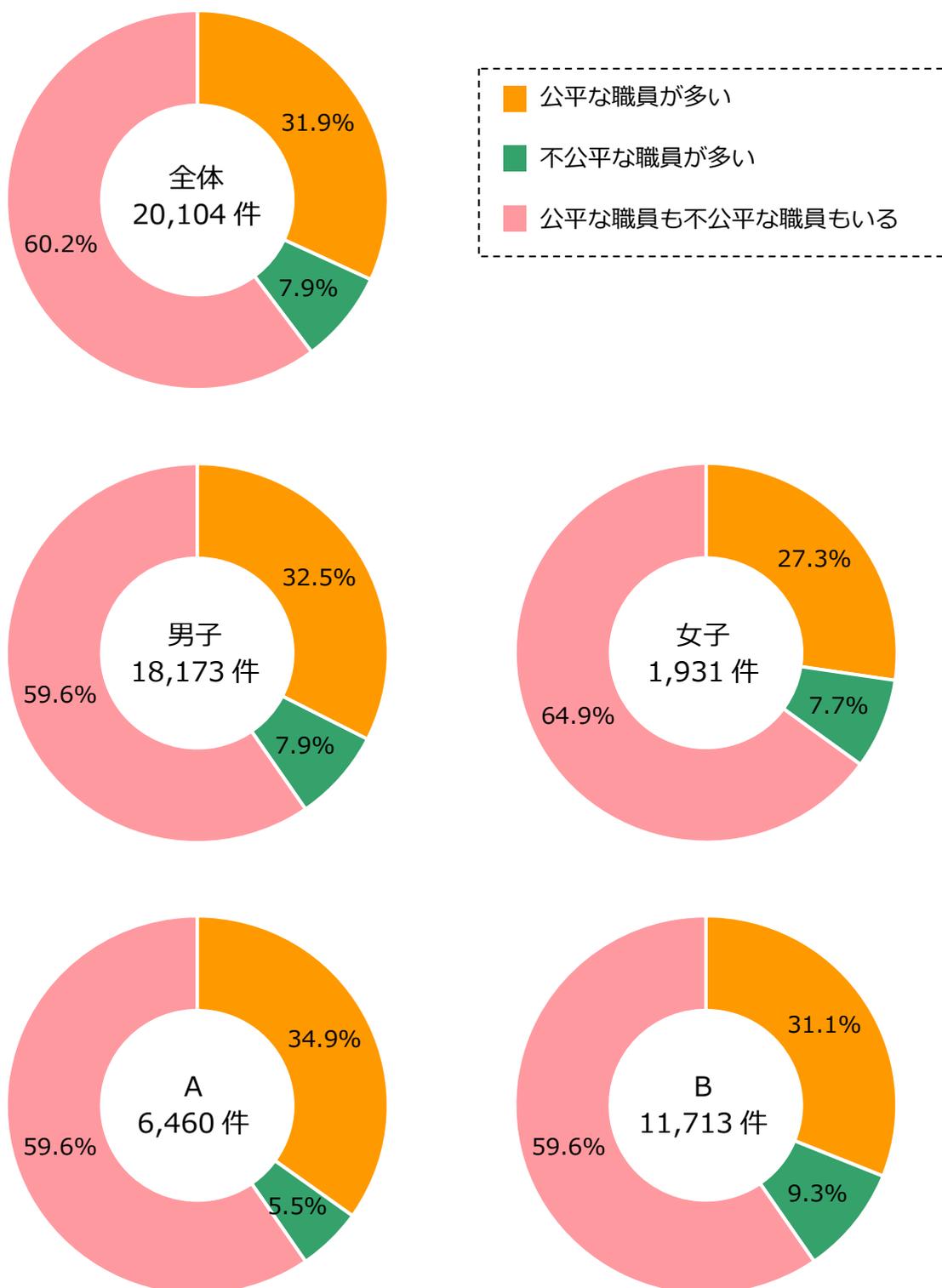
イ) 被害弁償等（慰謝料の支払いを含む。）について



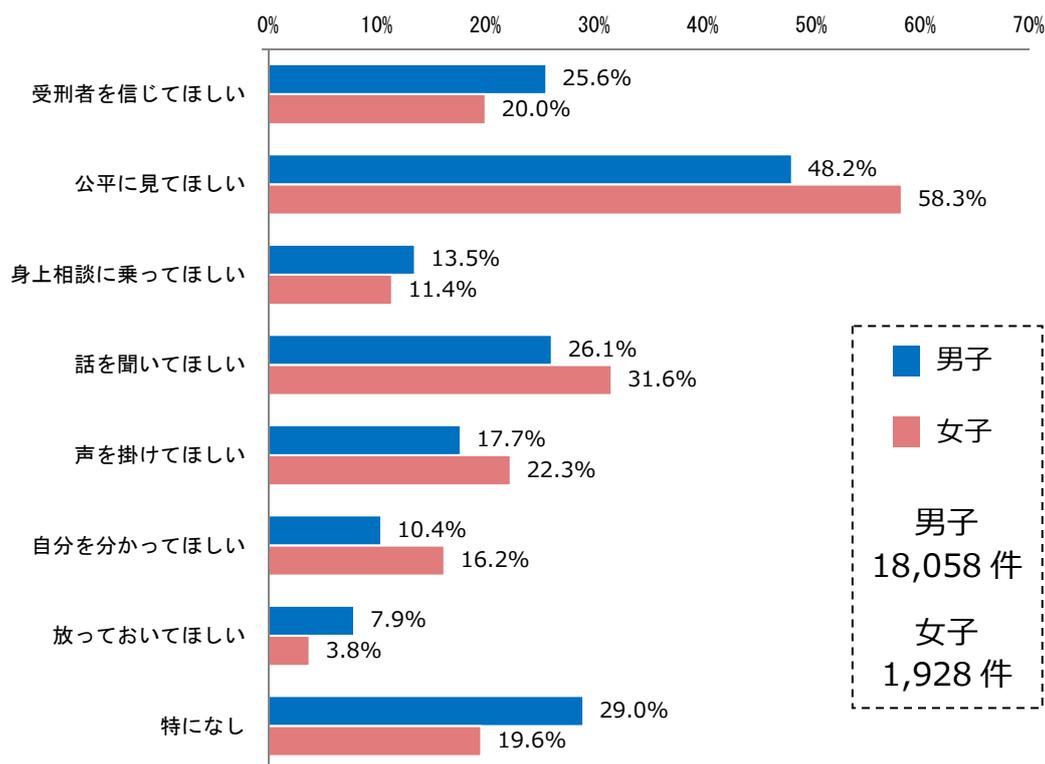
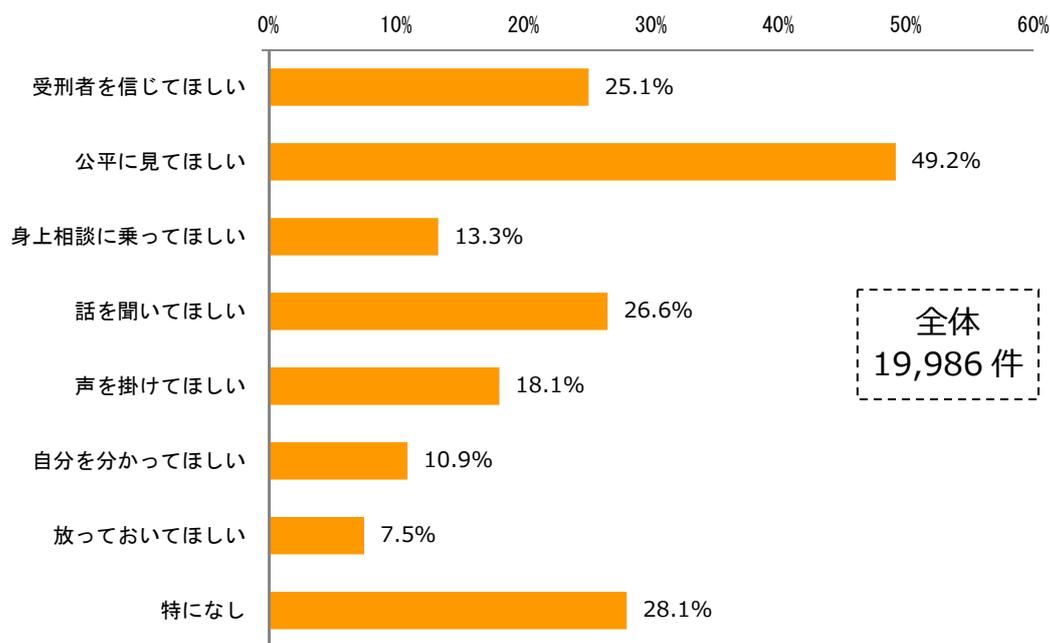
被害者に謝罪や被害弁償等をした者に対し、被害者の感じ方を質問したところ、女子以外の各類型において、「受け入れられていないと思う」が「受け入れられていると思う」を上回った。また、被害者に謝罪や被害弁償等をしていない者に対し、謝罪や被害弁償等について質問したところ、いずれの類型においても「謝罪（被害弁償等）したい」又は「謝罪（被害弁償等）しても受け入れられないと思う」と回答した者が約6～8割を占めた。

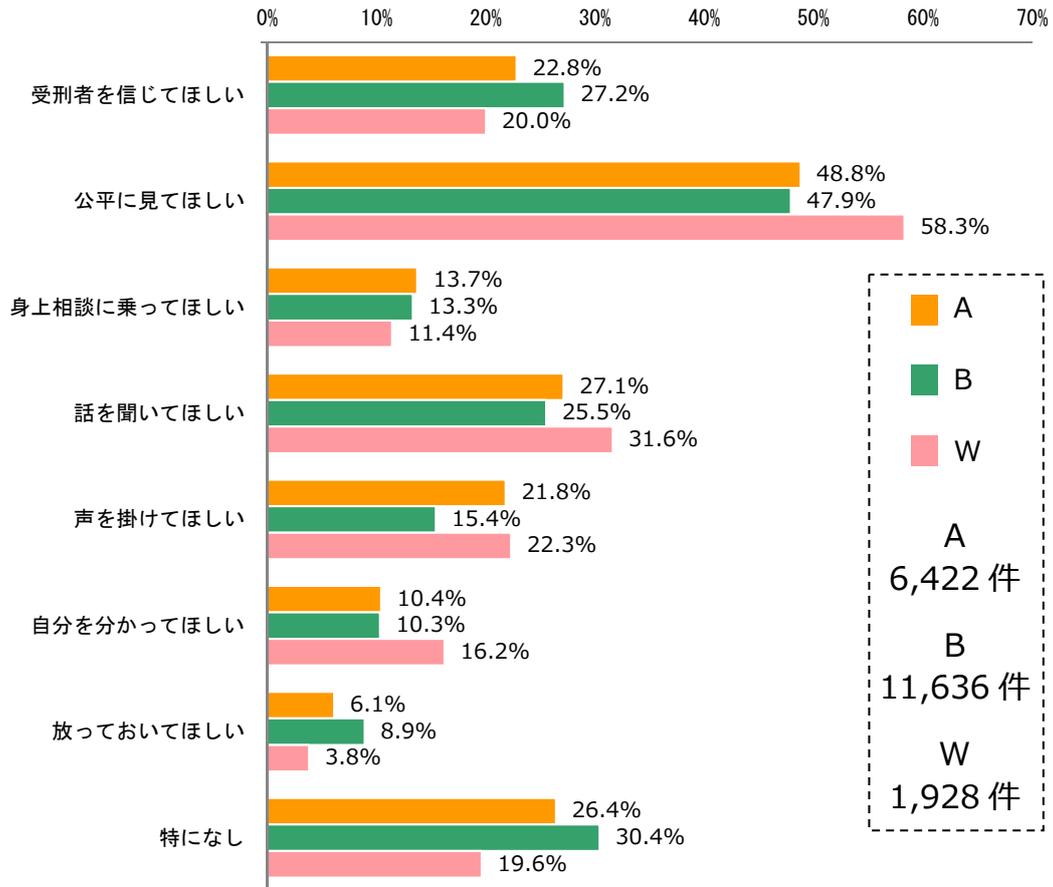
3. 職員について

(1) 職員全体の公平さについてどのように感じましたか。



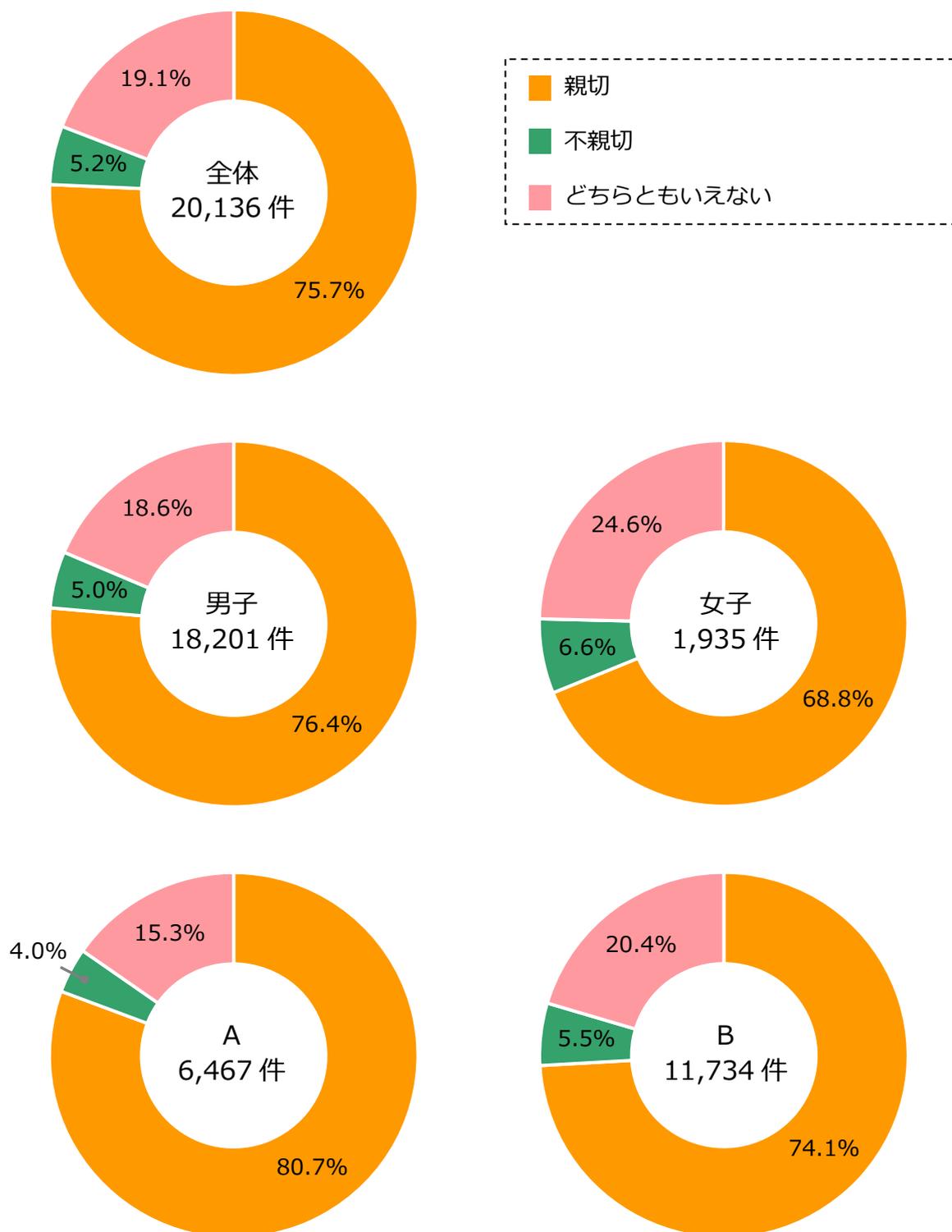
(2) 職員に望むことはどれですか。【2つまで選択】



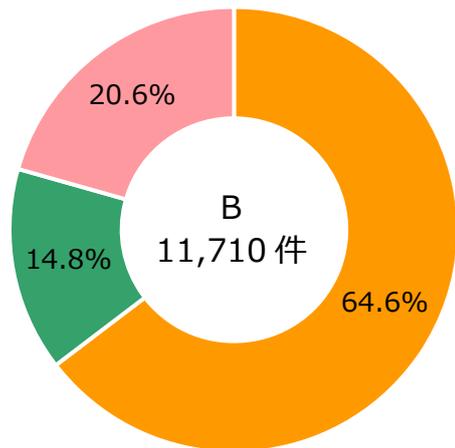
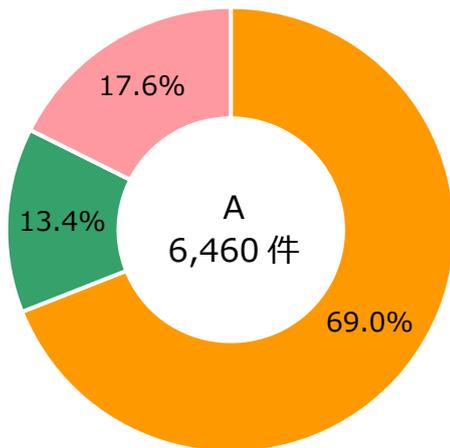
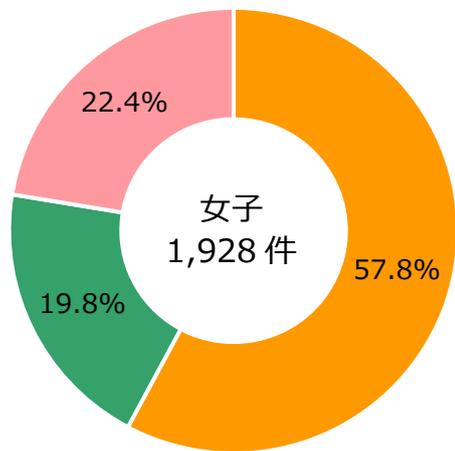
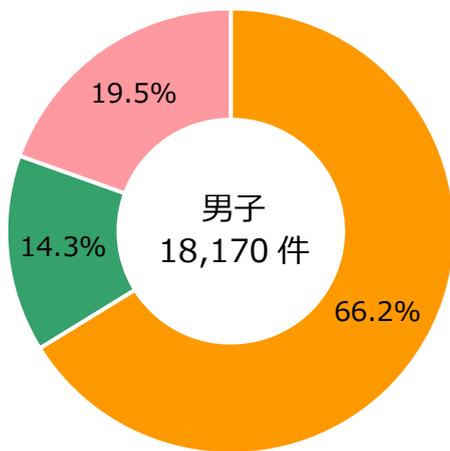
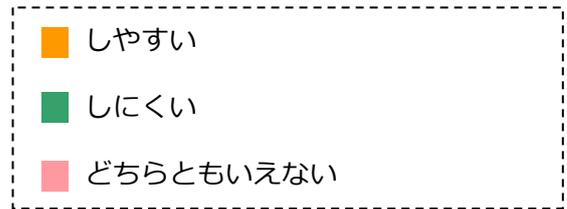
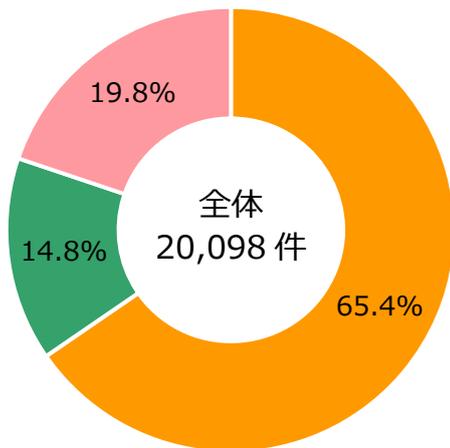


(3) あなたを一番長く担当した職員についてどのように感じましたか。

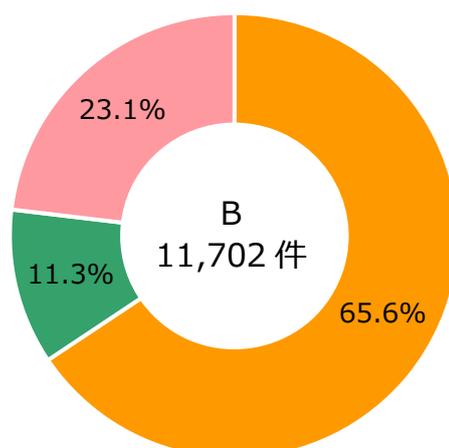
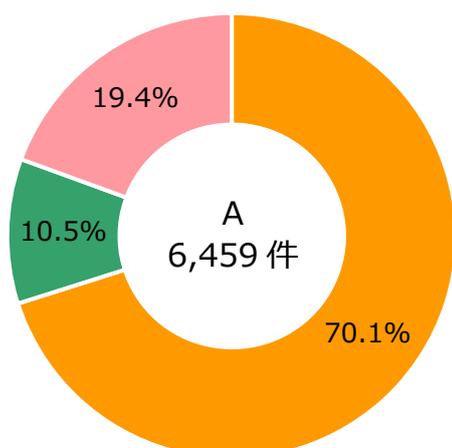
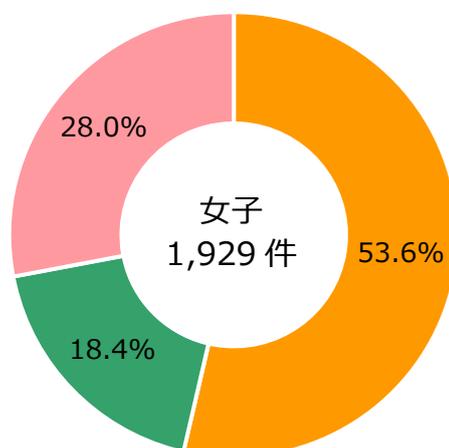
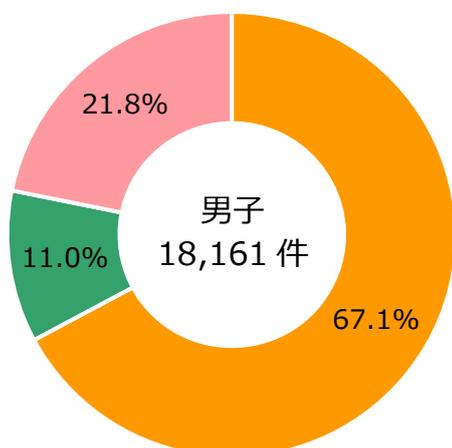
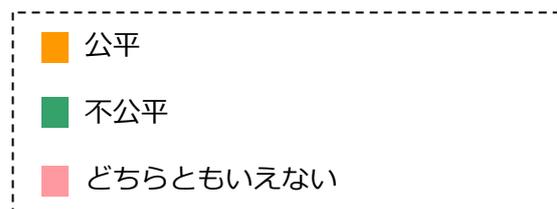
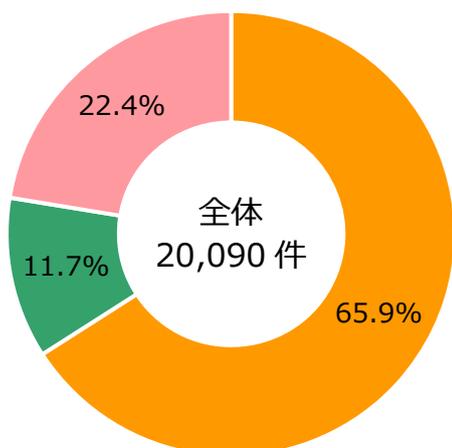
ア) 親切さ



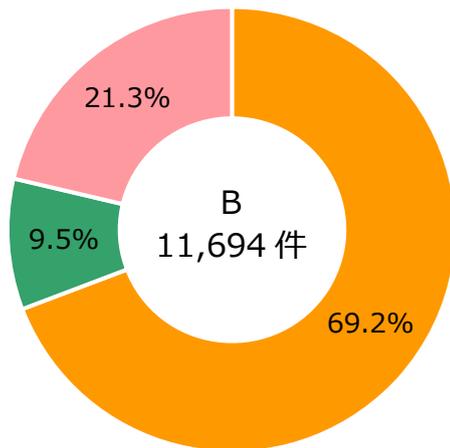
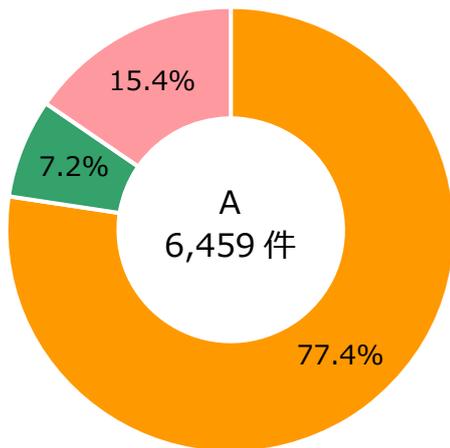
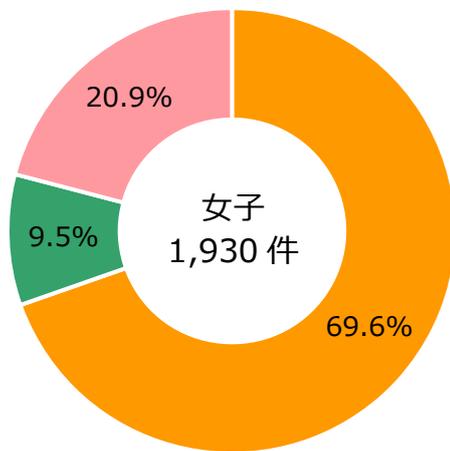
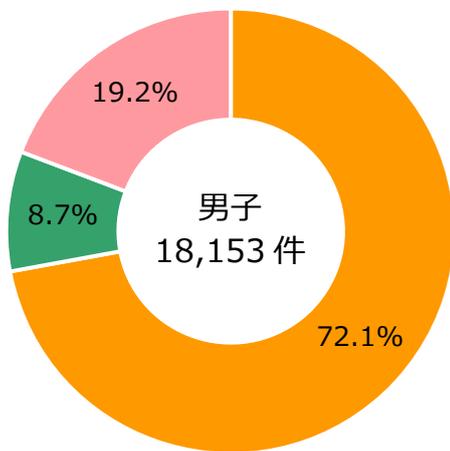
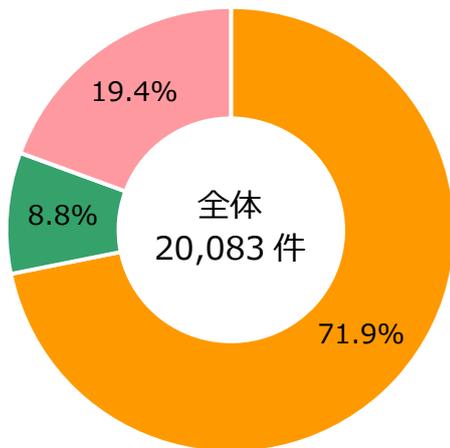
イ) 相談しやすさ



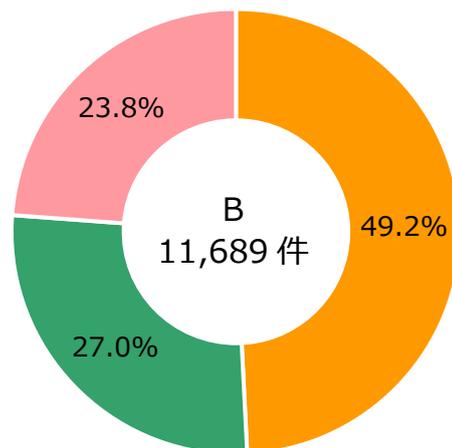
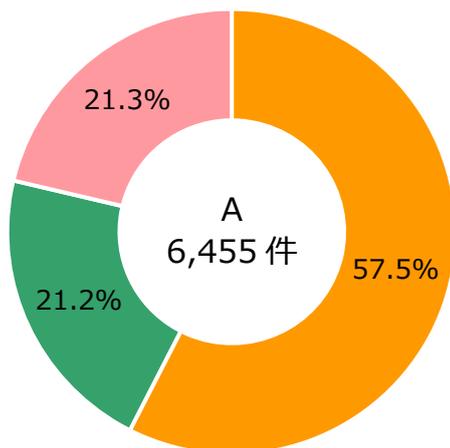
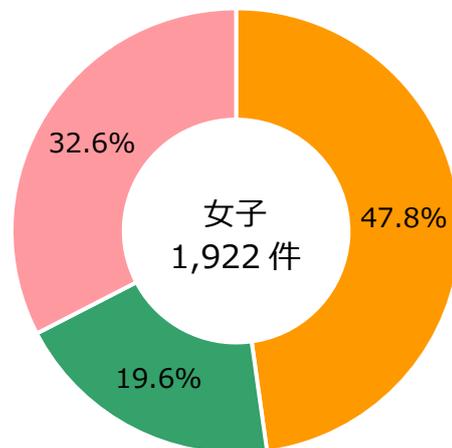
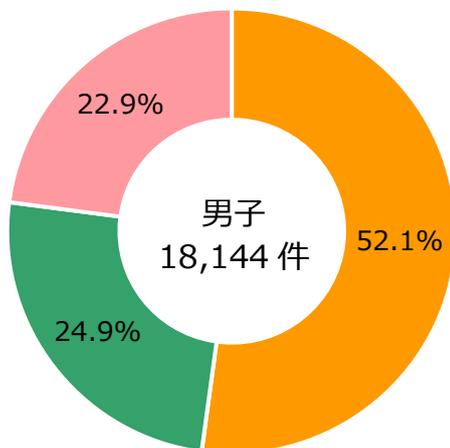
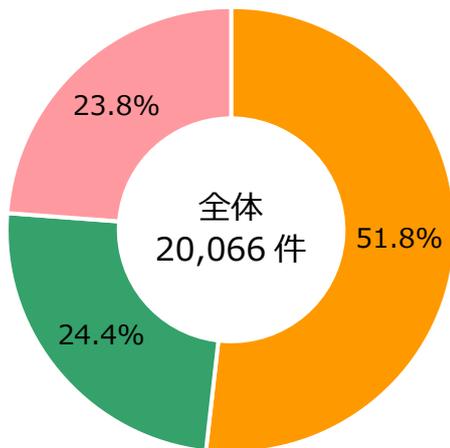
ウ) 公平さ



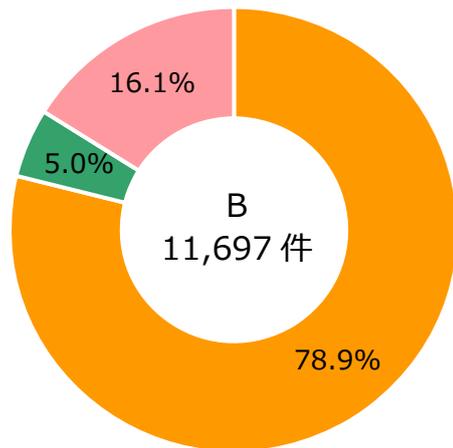
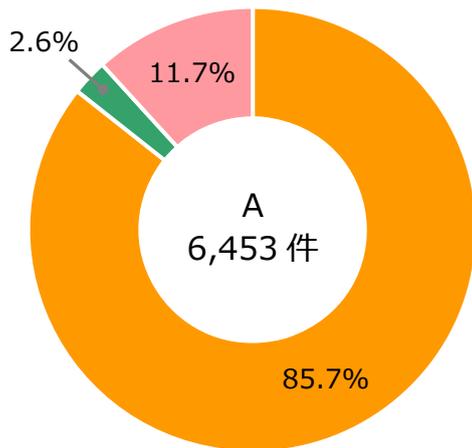
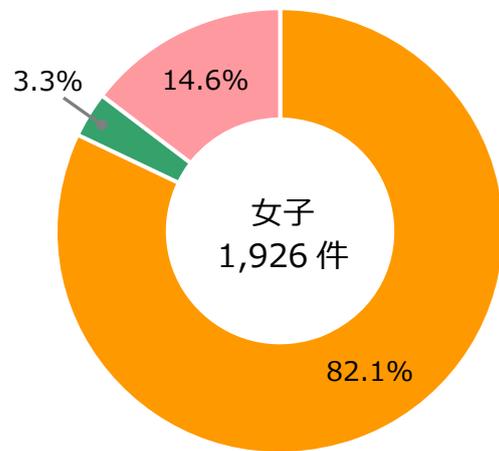
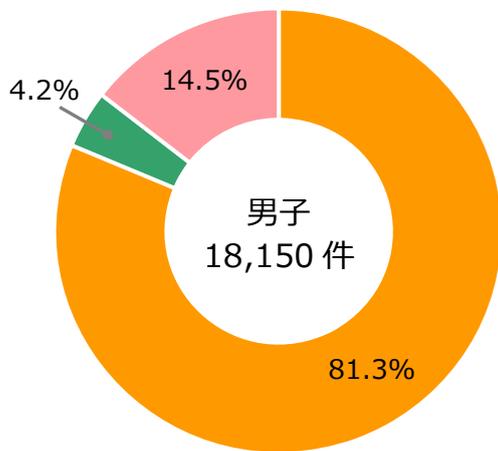
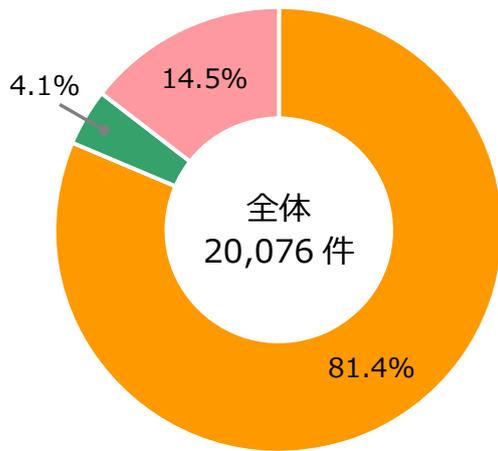
工) 信頼感



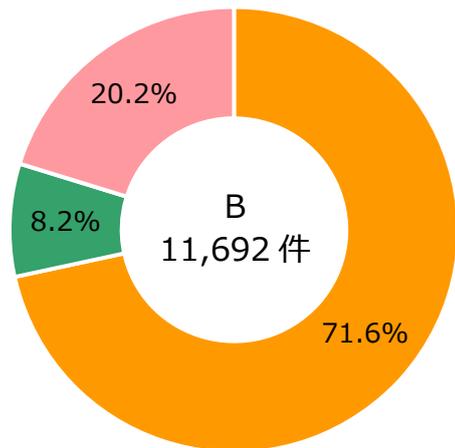
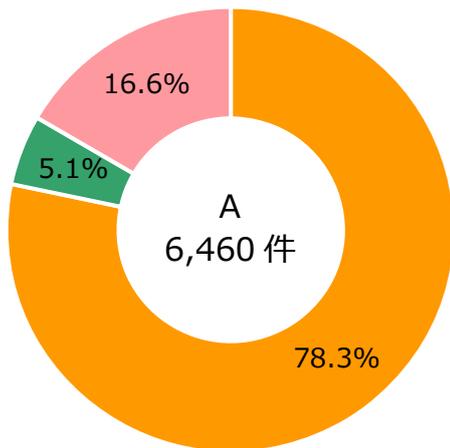
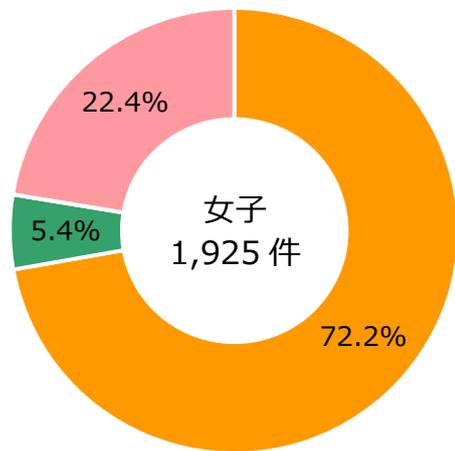
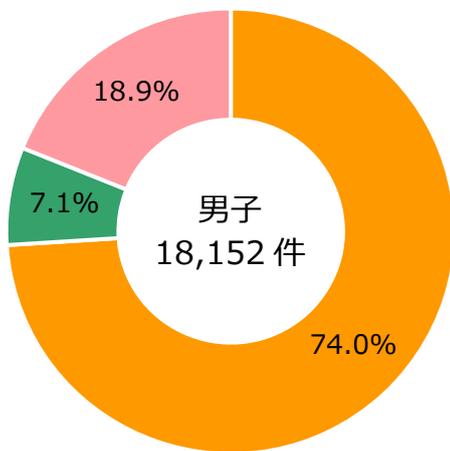
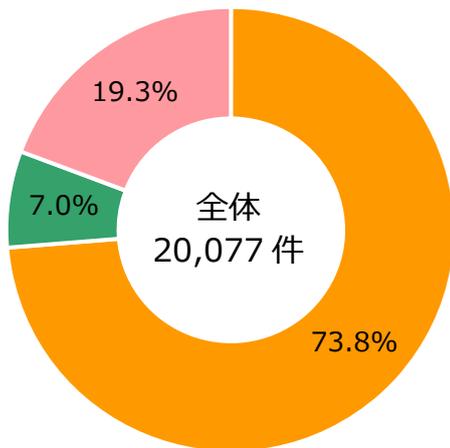
才) 考え方



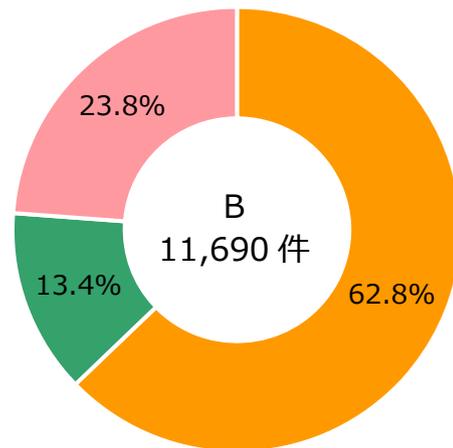
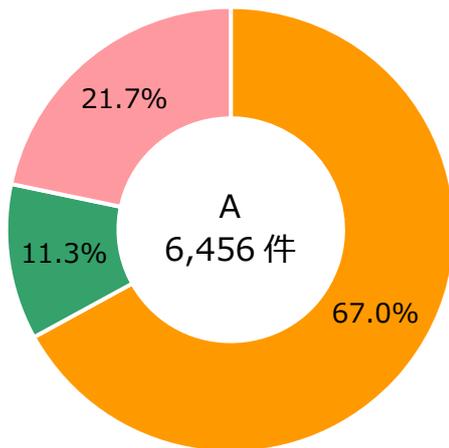
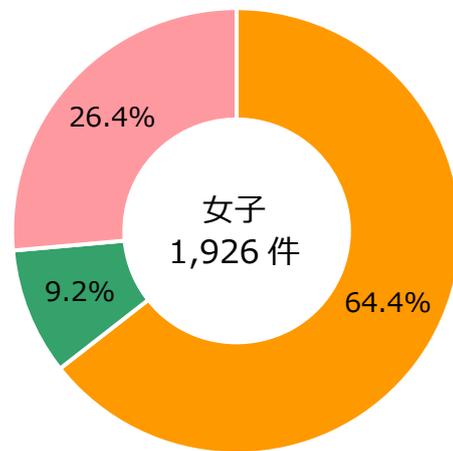
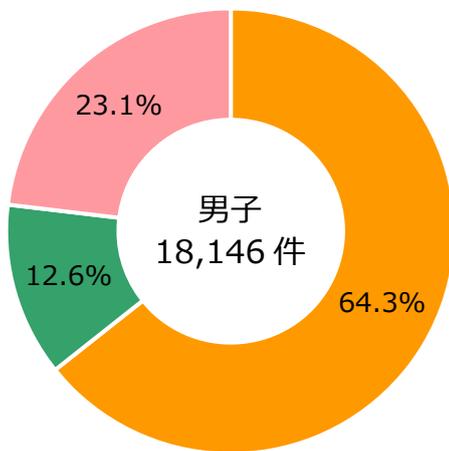
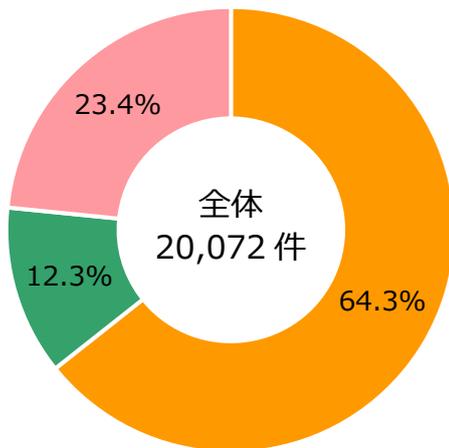
力) 勤務姿勢



キ) 態度



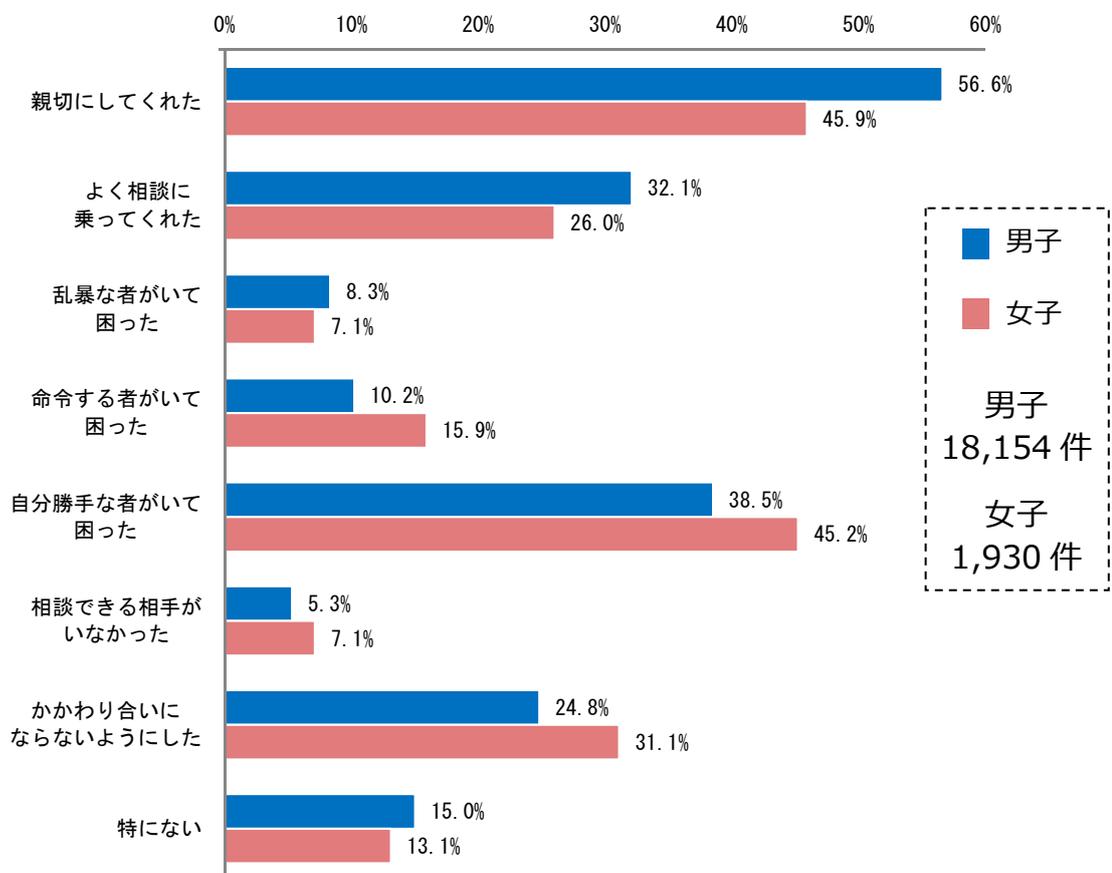
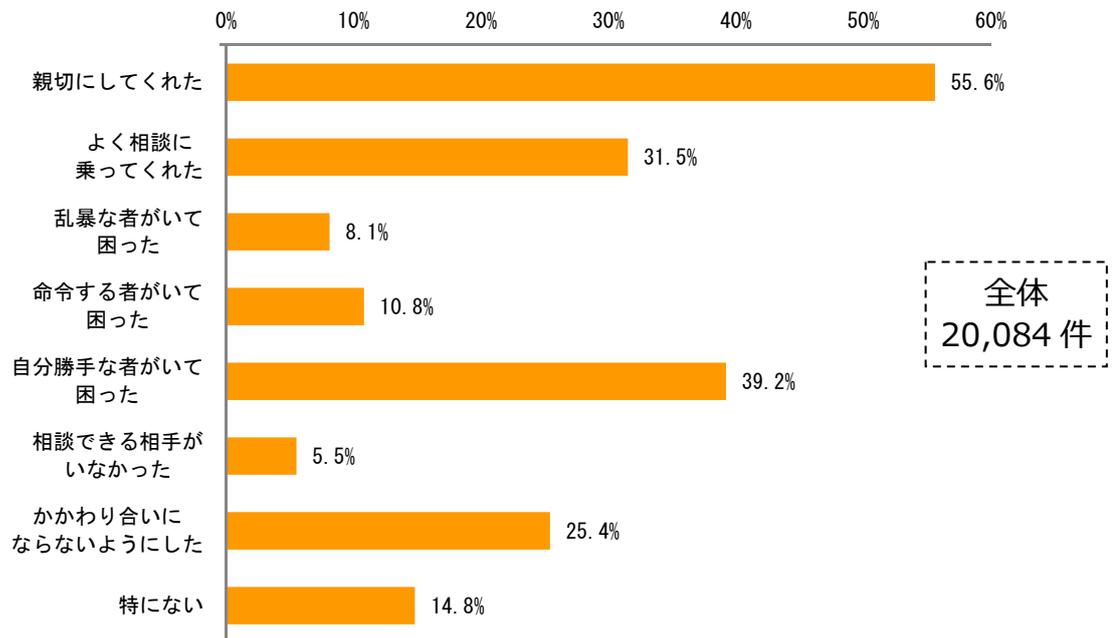
ク) 言葉遣い

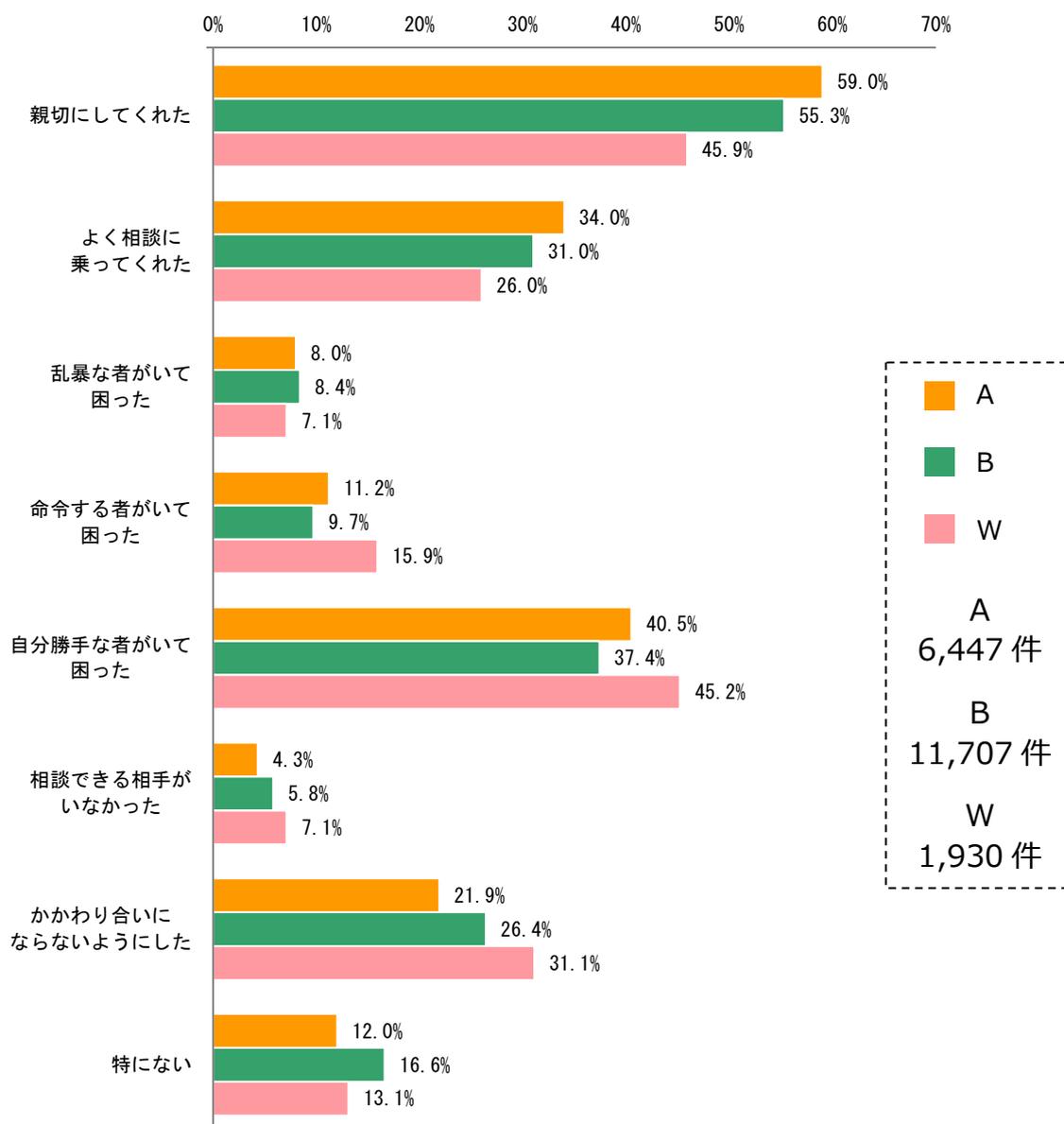


職員全体の公平さについて、「公平な職員が多い」と回答した者の割合は、約3割であるが、自分を一番長く担当した職員については、約6割の者が「公平」と回答している。職員に望むこととしては、いずれの類型においても「公平に見てほしい」が約5割と最も多く、次いで「話を聞いてほしい」、「受刑者を信じてほしい」とする回答が多かった。

4. 他の受刑者に対して

他の受刑者に対してどのように感じましたか。【2つまで選択】

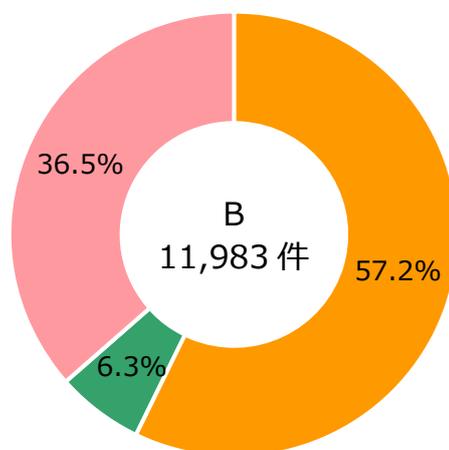
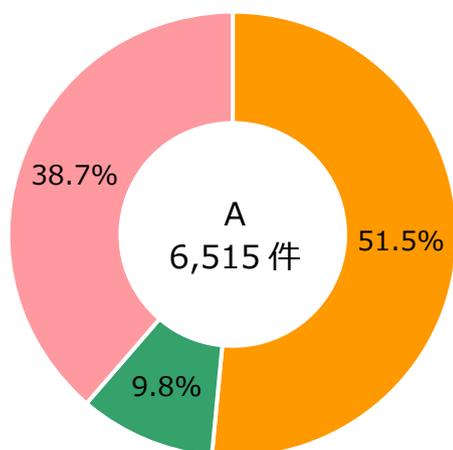
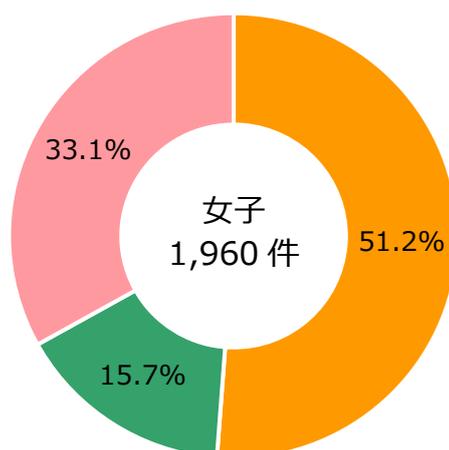
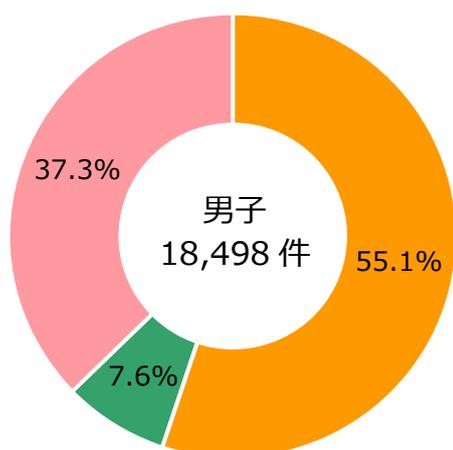
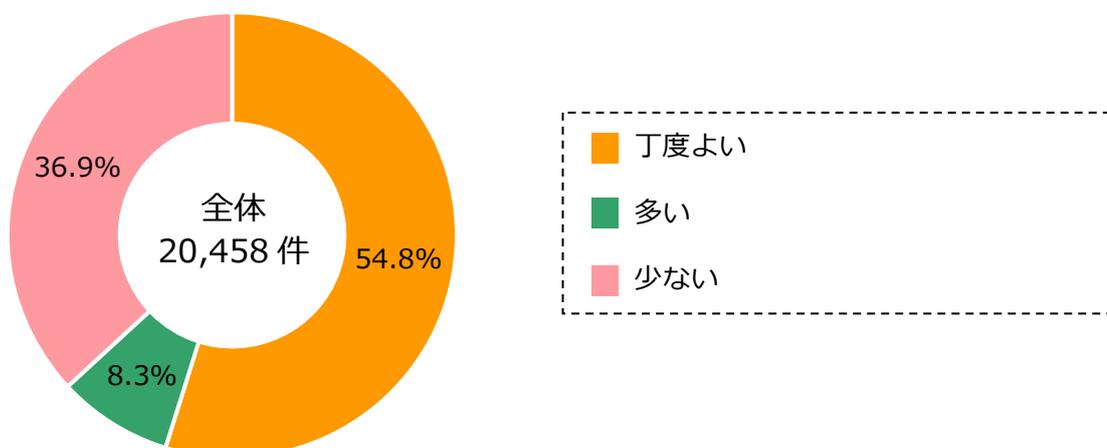




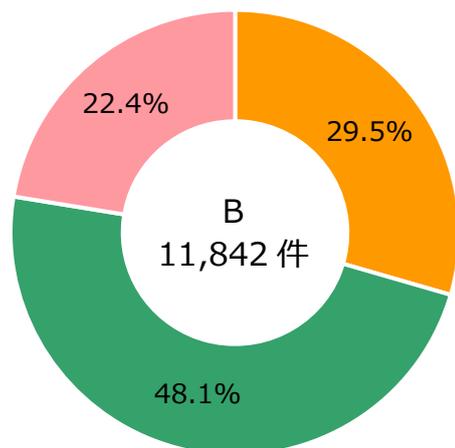
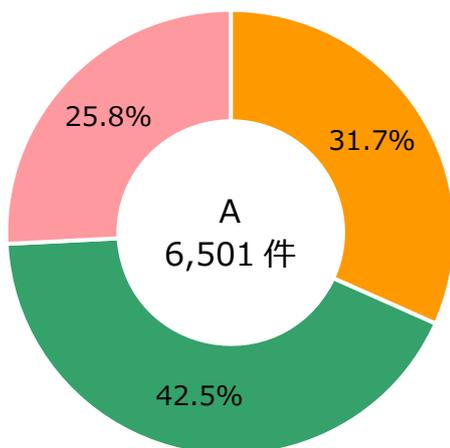
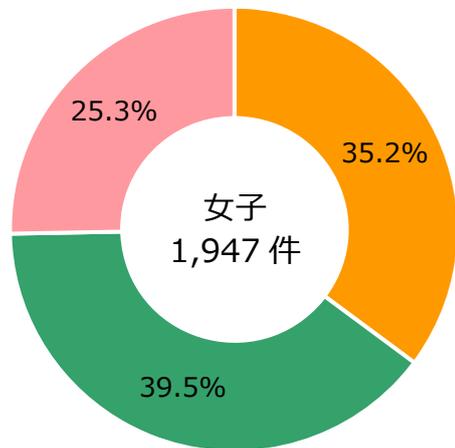
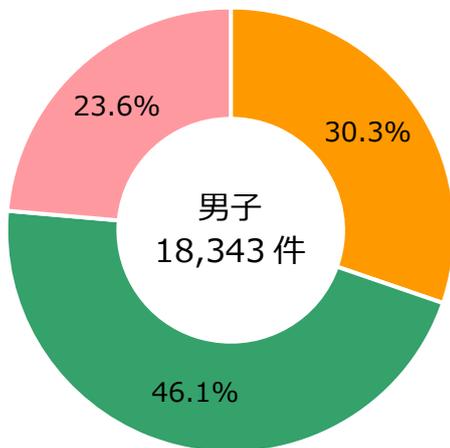
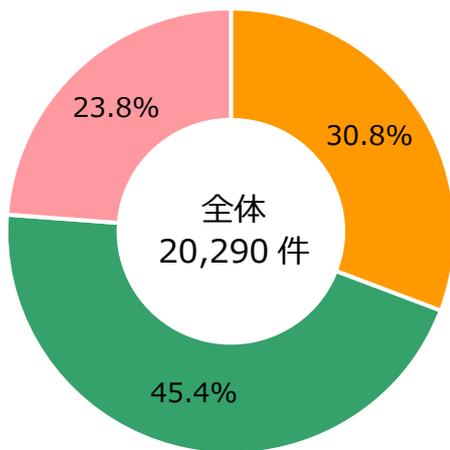
同じ施設における他の受刑者の印象については、いずれの類型においても「親切にしてくれた」との回答が最も多く、約半数の者がその旨回答している。一方で、約4割の者が「自分勝手な者がいて困った」と回答した。

5. 食事関係について

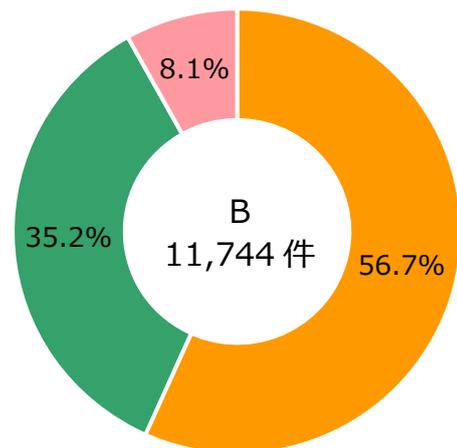
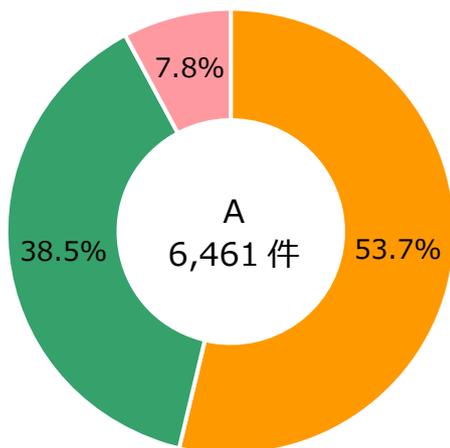
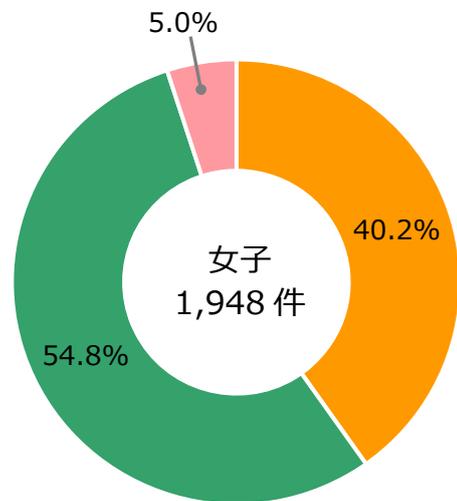
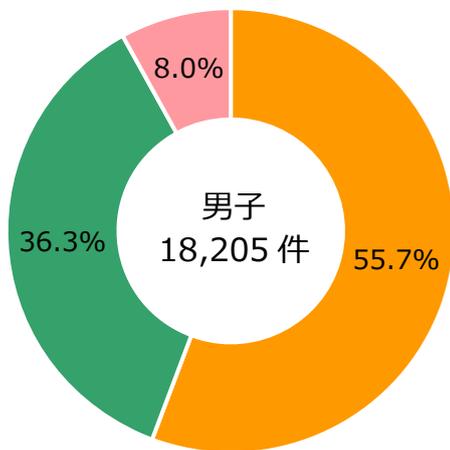
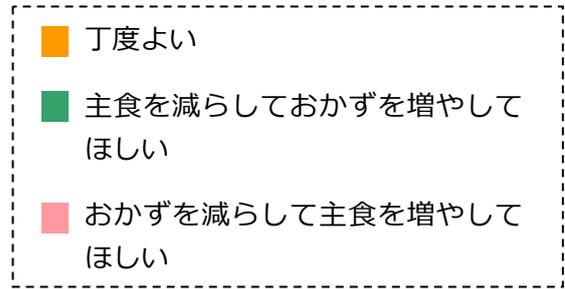
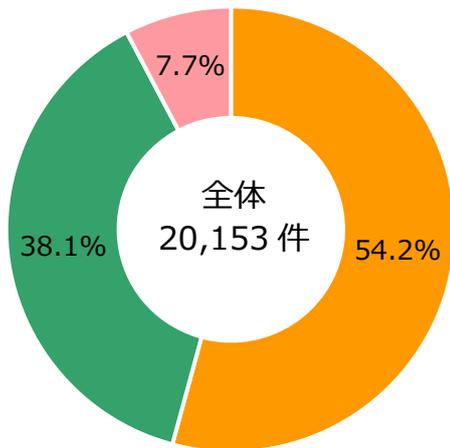
(1) 食事の量



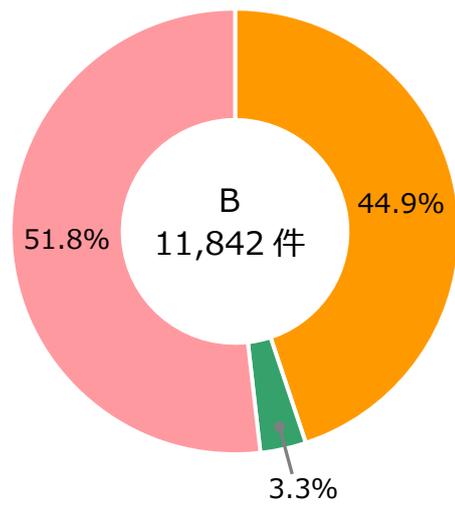
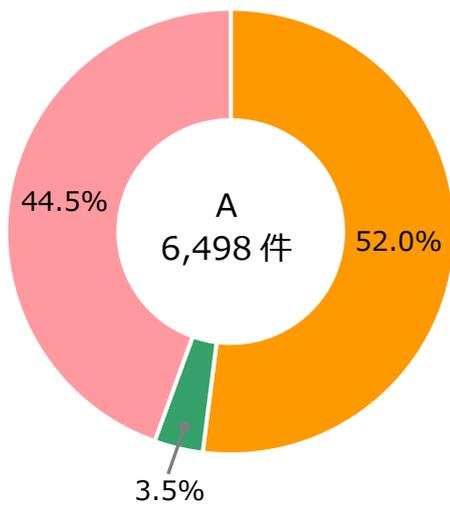
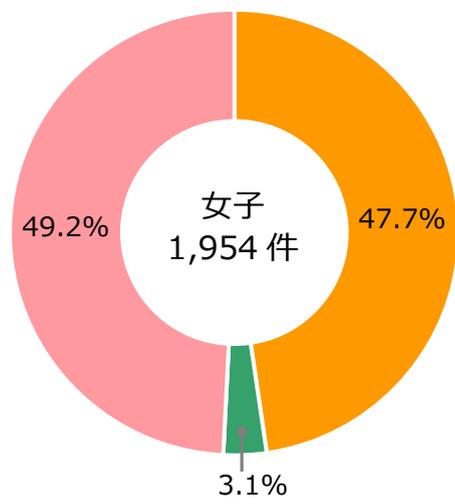
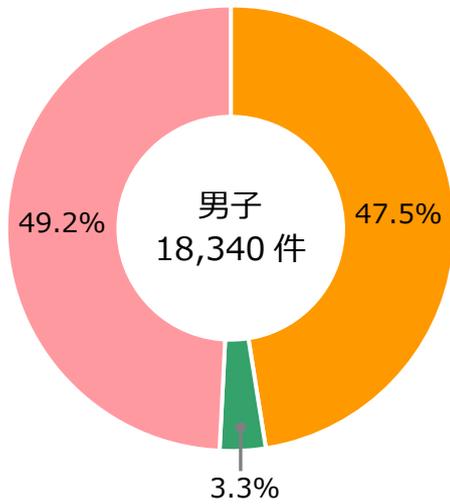
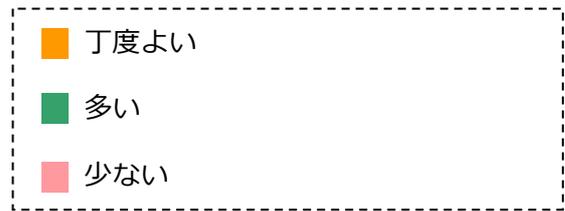
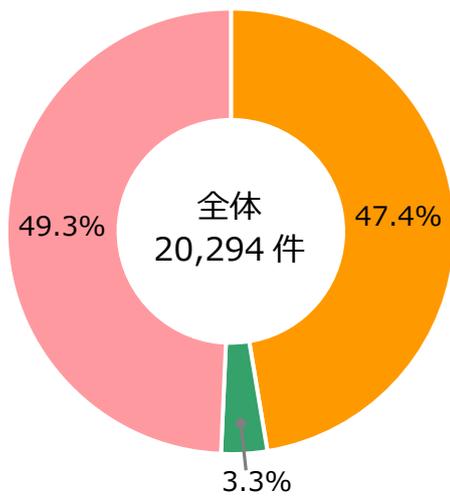
(2) 食事の質



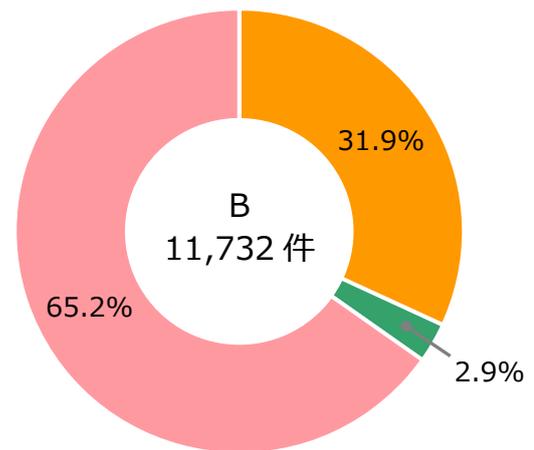
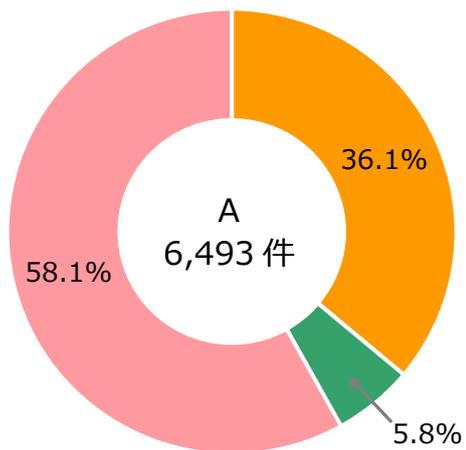
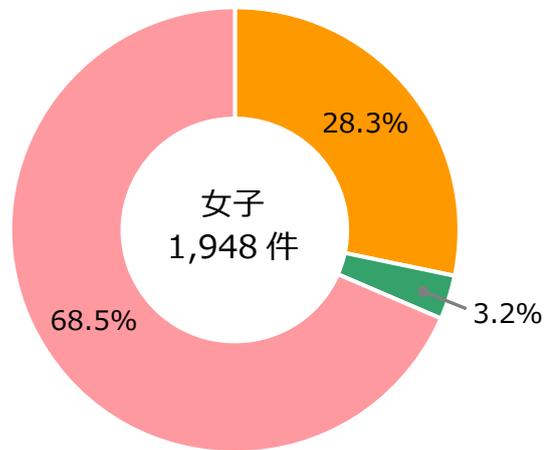
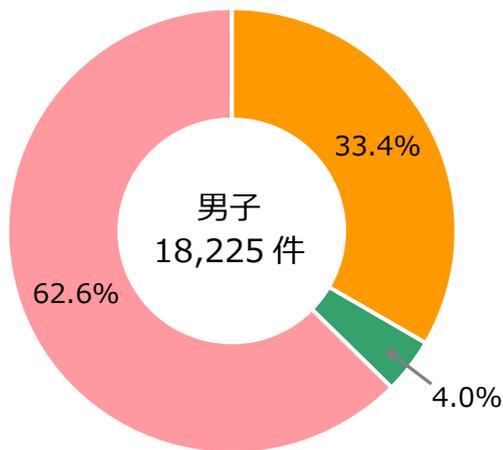
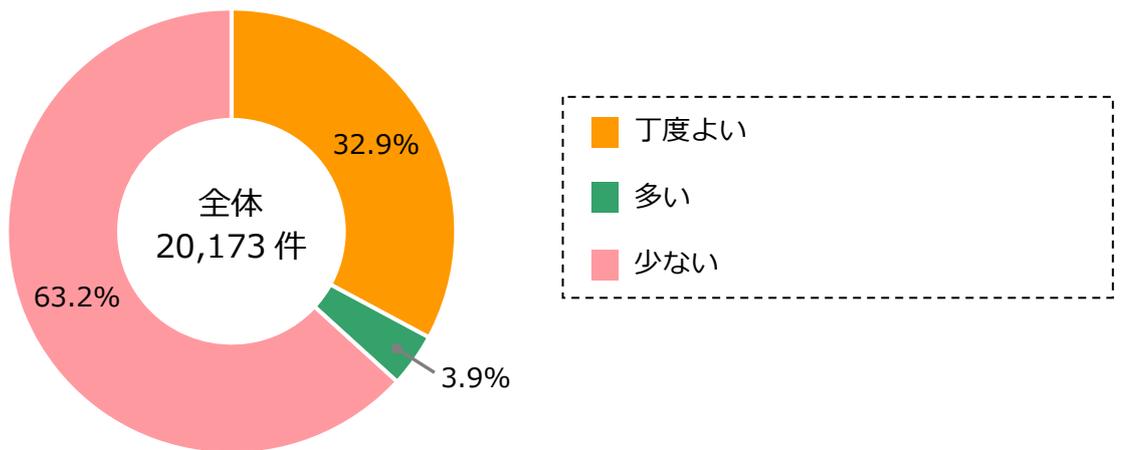
(3) 主食（ごはんやパン）とおかずのバランス



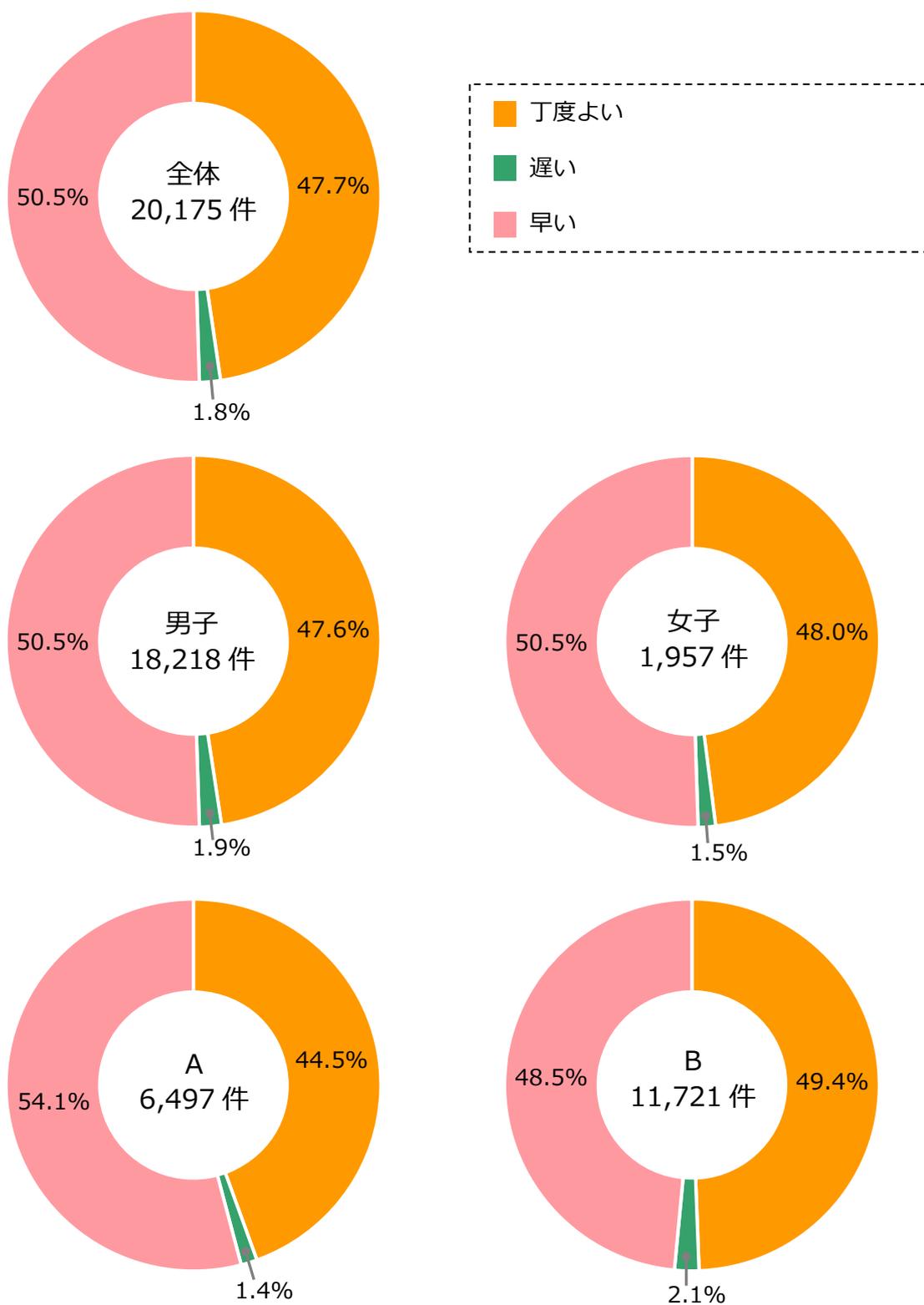
(4) 献立の種類



(5) パン食の回数



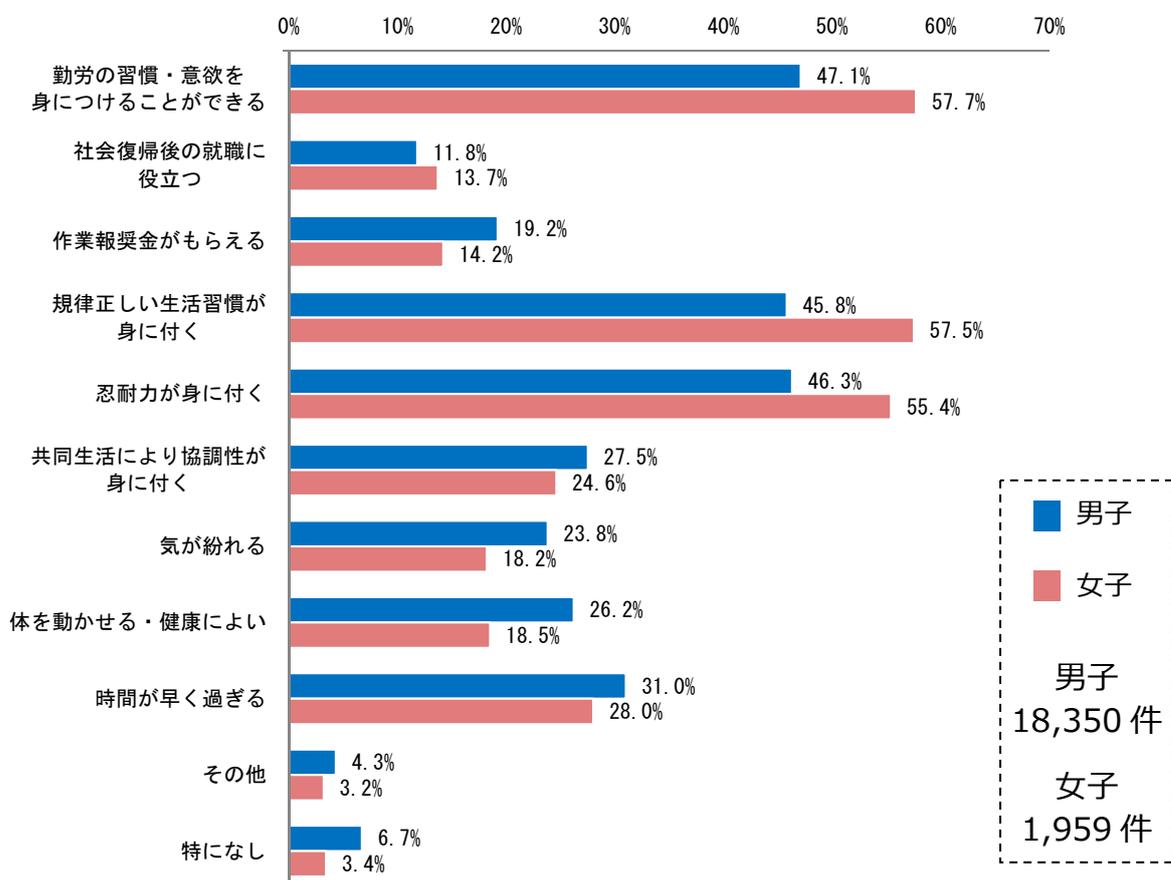
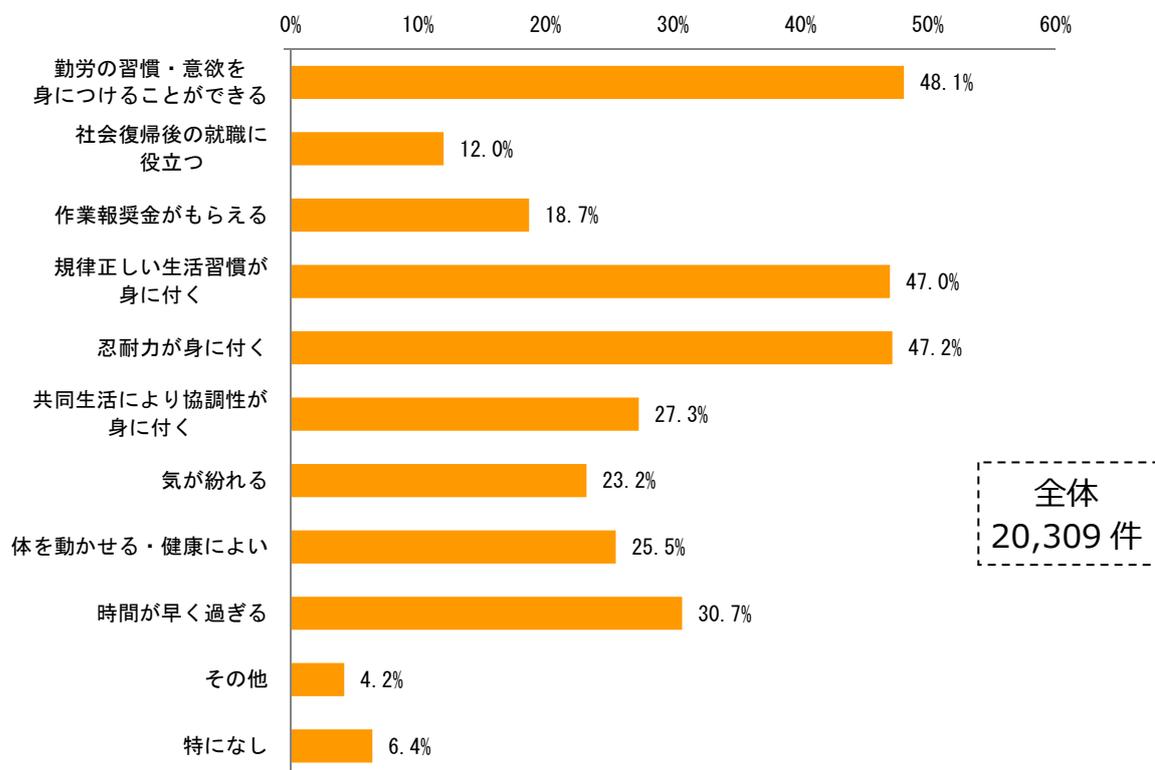
(6) 夕食の時間帯

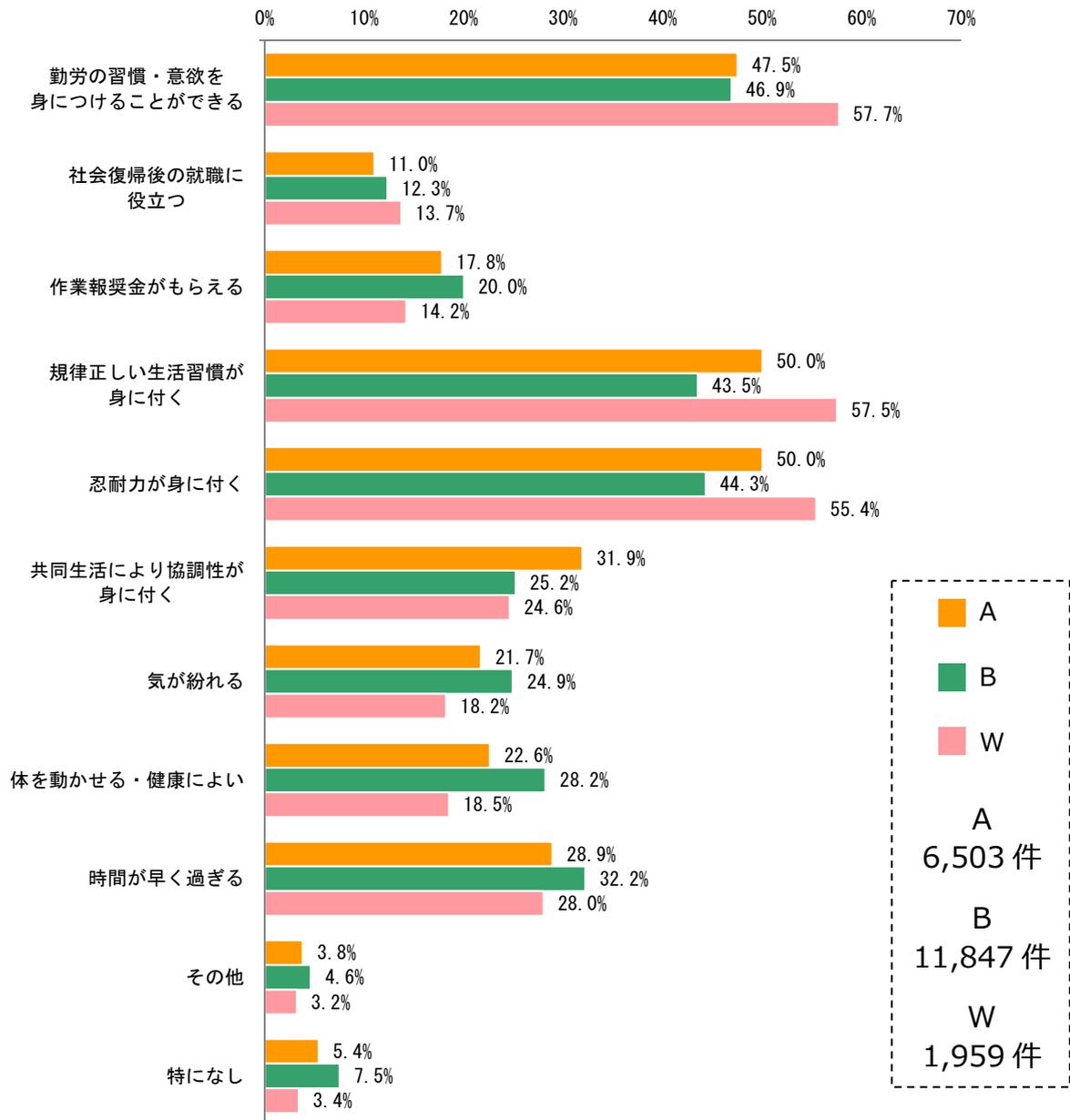


刑事施設内の食事に関して、食事の量、食事の質、主食とおかず、献立の種類及び夕食の時間帯については、「丁度よい」（「良い」又は「特に何も感じない」）と約半数の者が回答している一方で、「パン食の回数」は約6割の者が「少ない」と回答した。

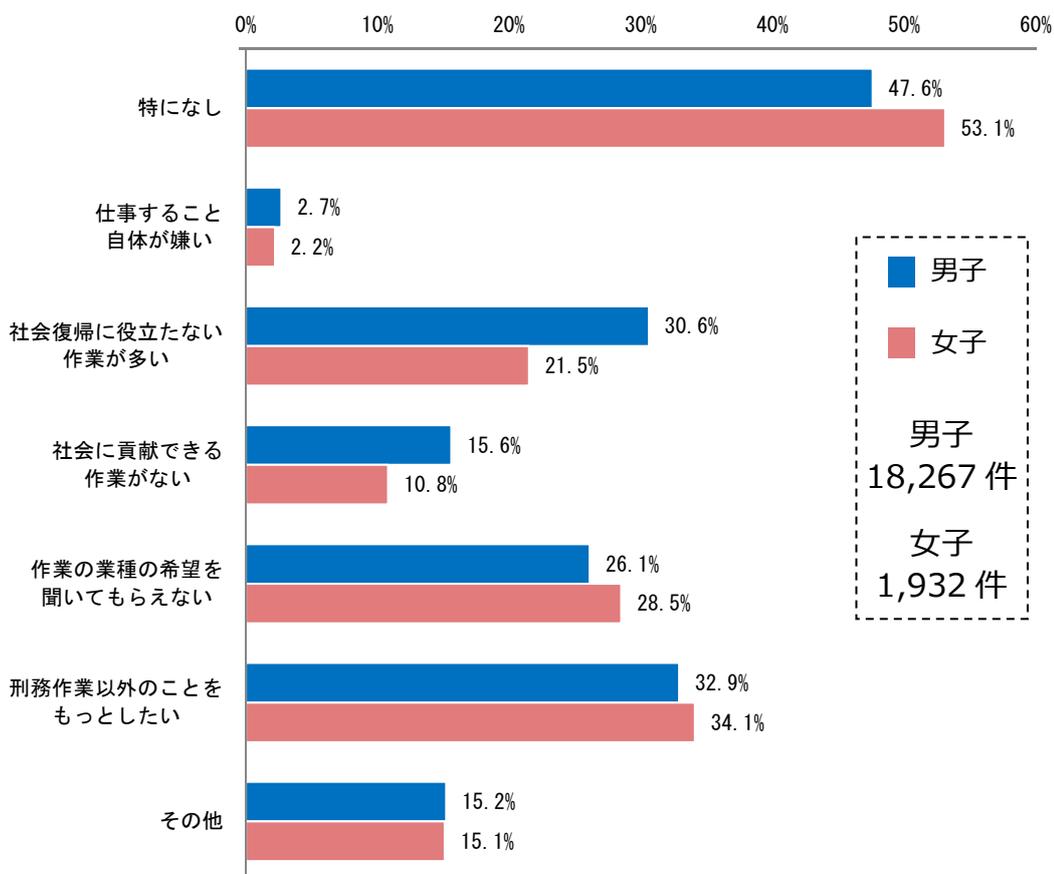
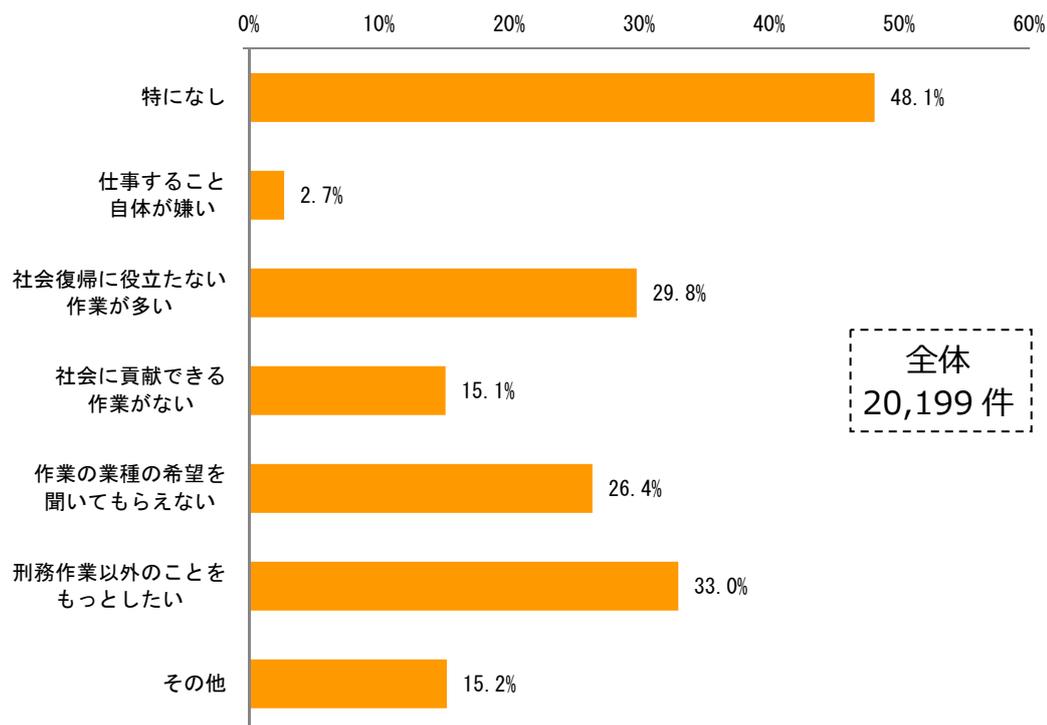
6. 刑務作業について

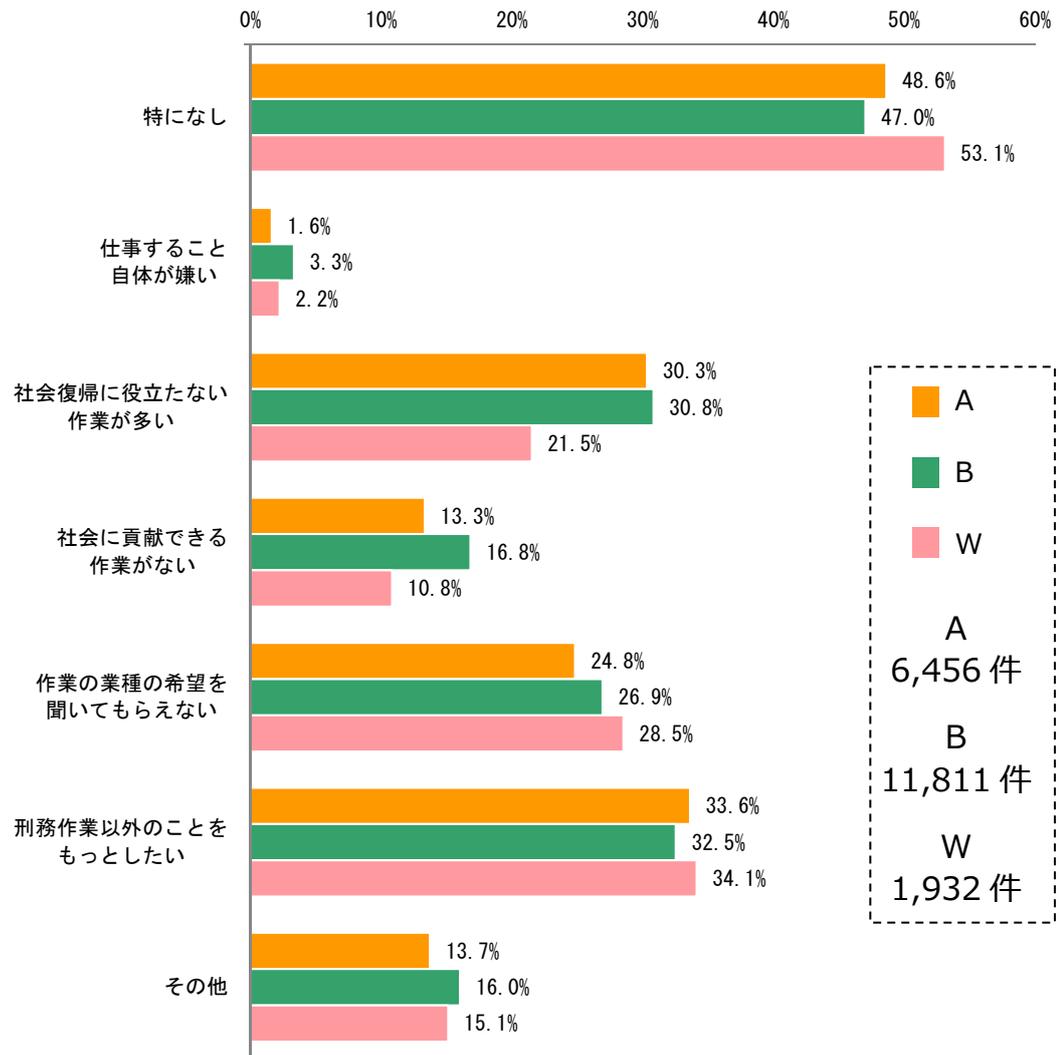
(1) 作業をして良かったことはどれですか。【3つまで選択】



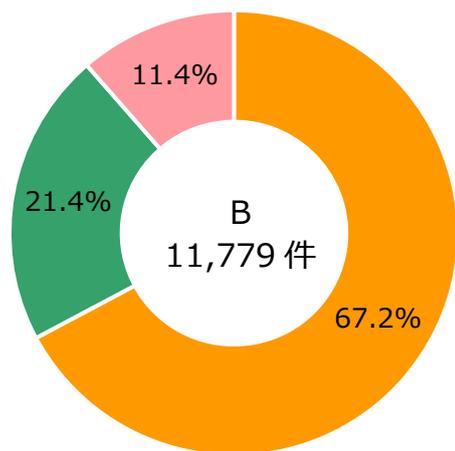
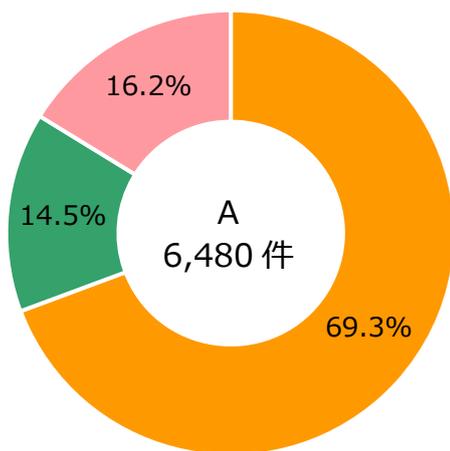
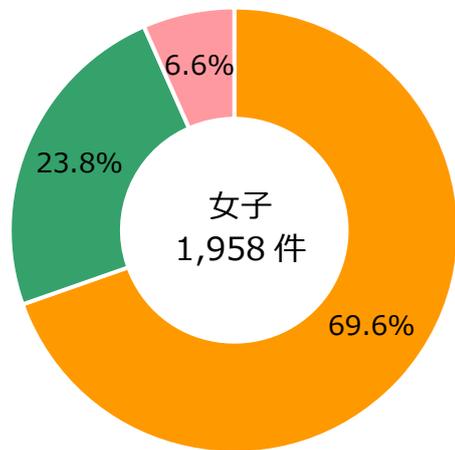
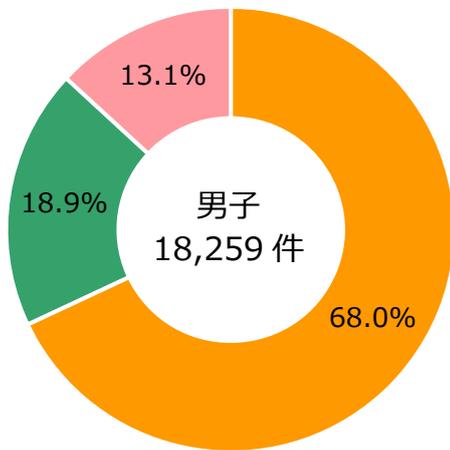
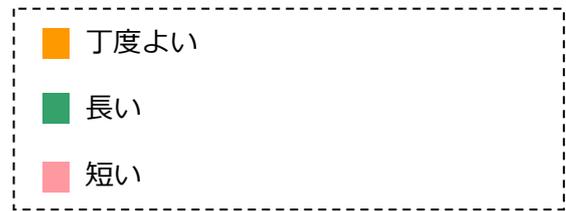
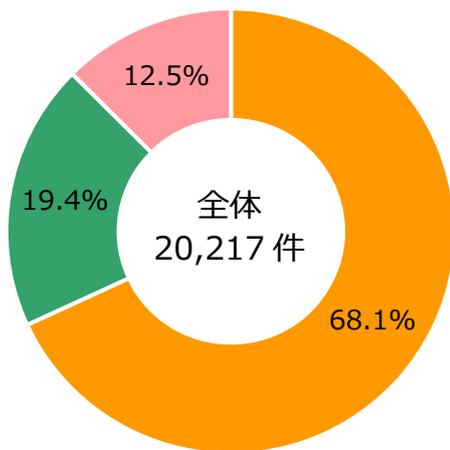


(2) 作業に関して不満な点はどれですか。【2つまで選択】

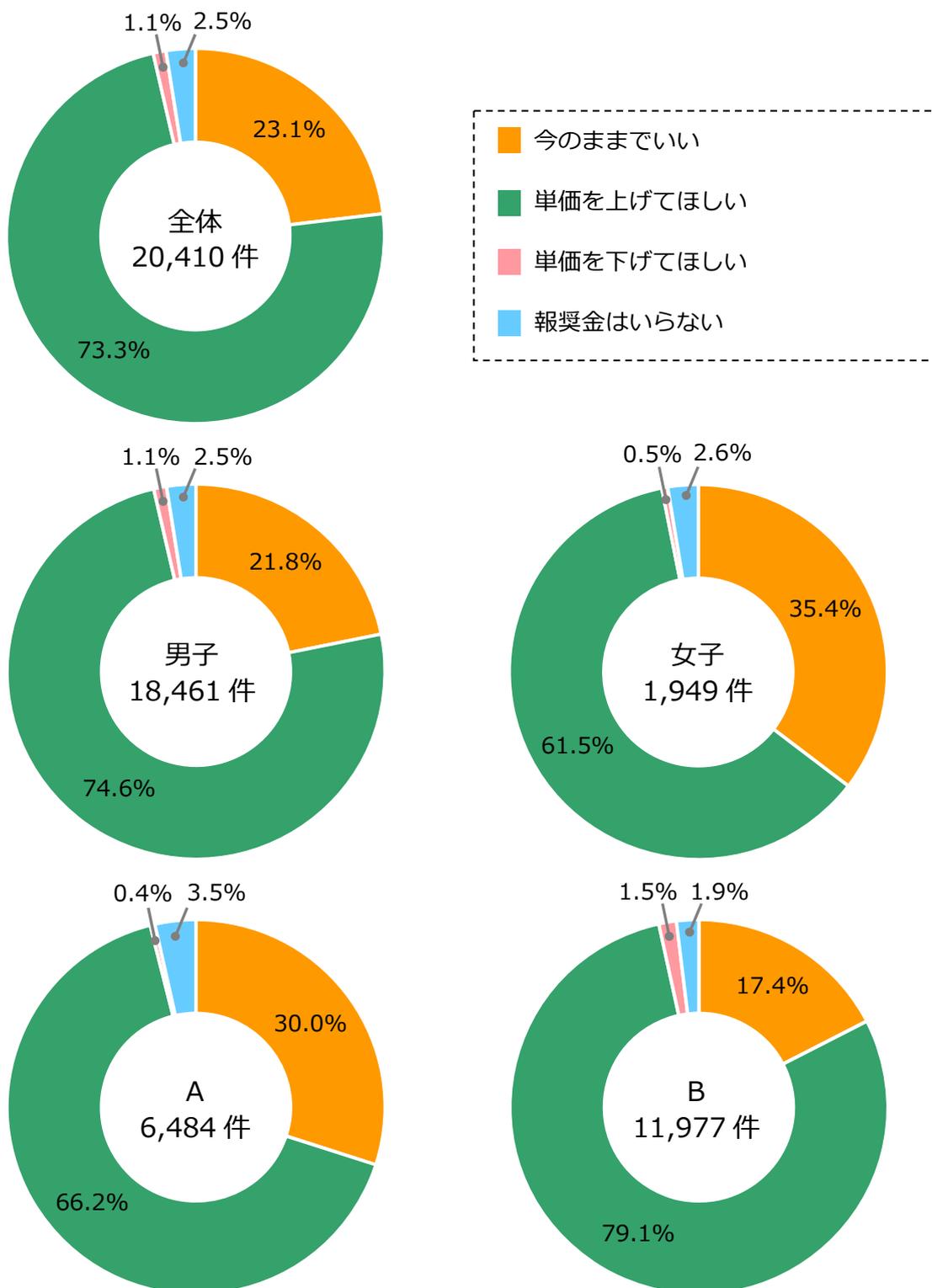




(3) 作業時間についてどう思いますか。



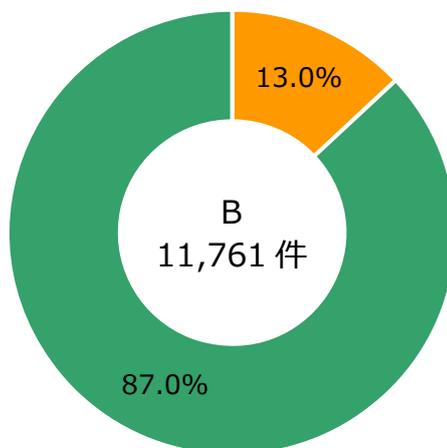
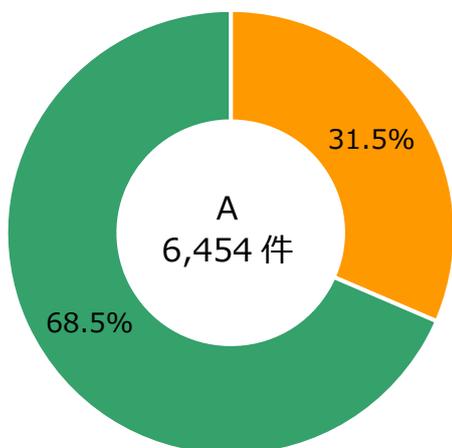
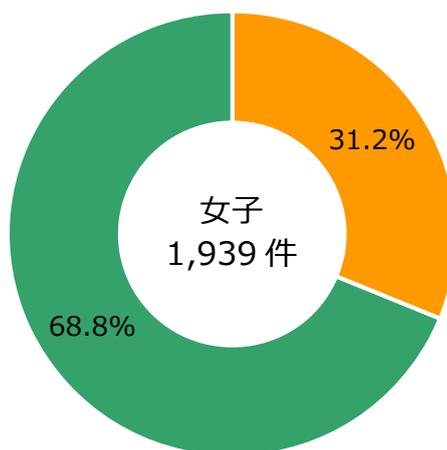
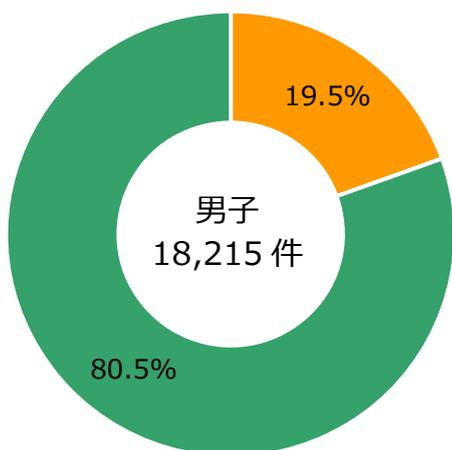
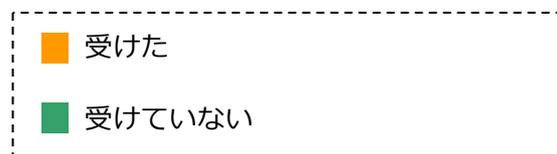
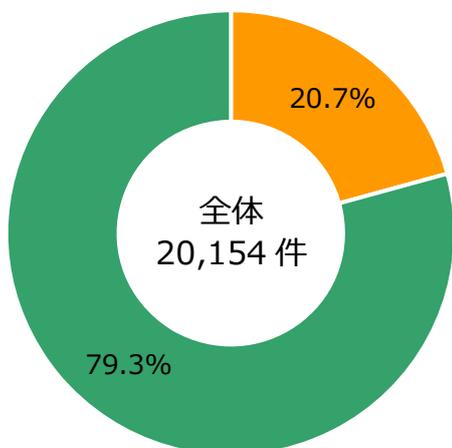
(4) 作業報奨金についてどう思いますか。



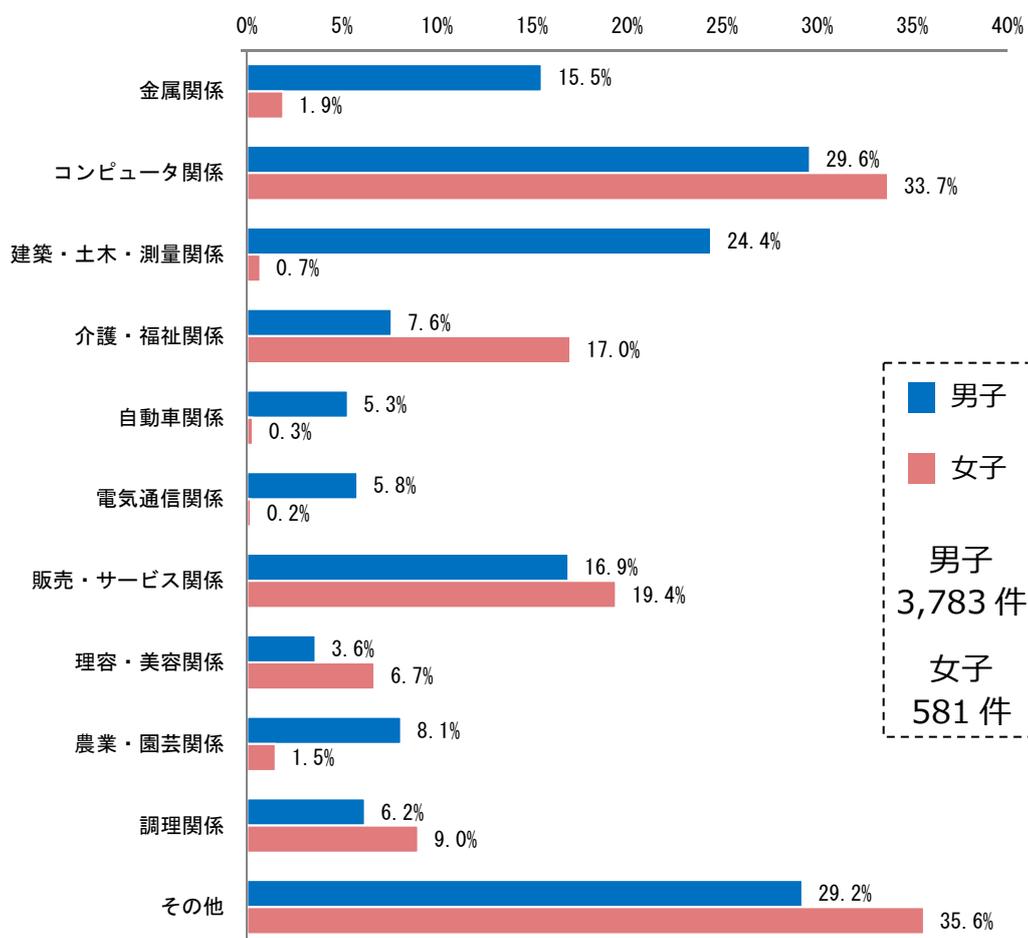
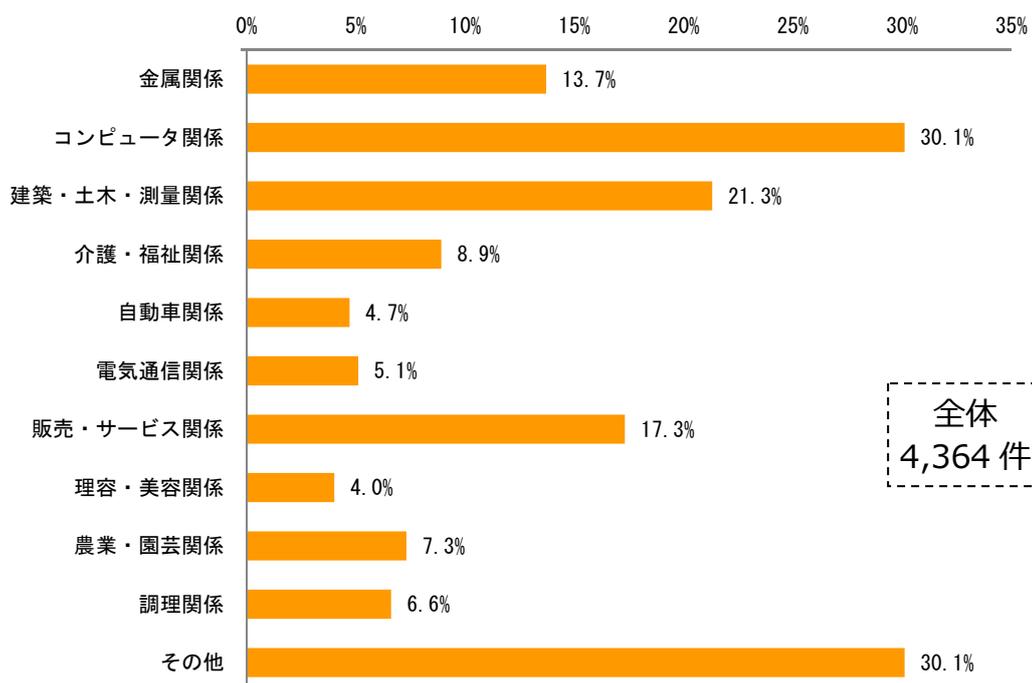
刑務作業について、作業をして良かったことについては、いずれの類型においても「勤労の習慣・意欲を身に付けることができる」、「規律正しい生活習慣が身に付く」及び「忍耐力が身に付く」がそれぞれ約半数を占めている。作業に関して不満な点については、「特になし」と回答する者が約半数を占める一方、いずれの類型においても、約3割の者が「刑務作業以外のことをもっとしたい」と回答があったほか、次いで、男子では「社会復帰に役立たない作業が多い」、女子では「作業の業種の希望を聞いてもらえない」と回答をする者が多くいた。

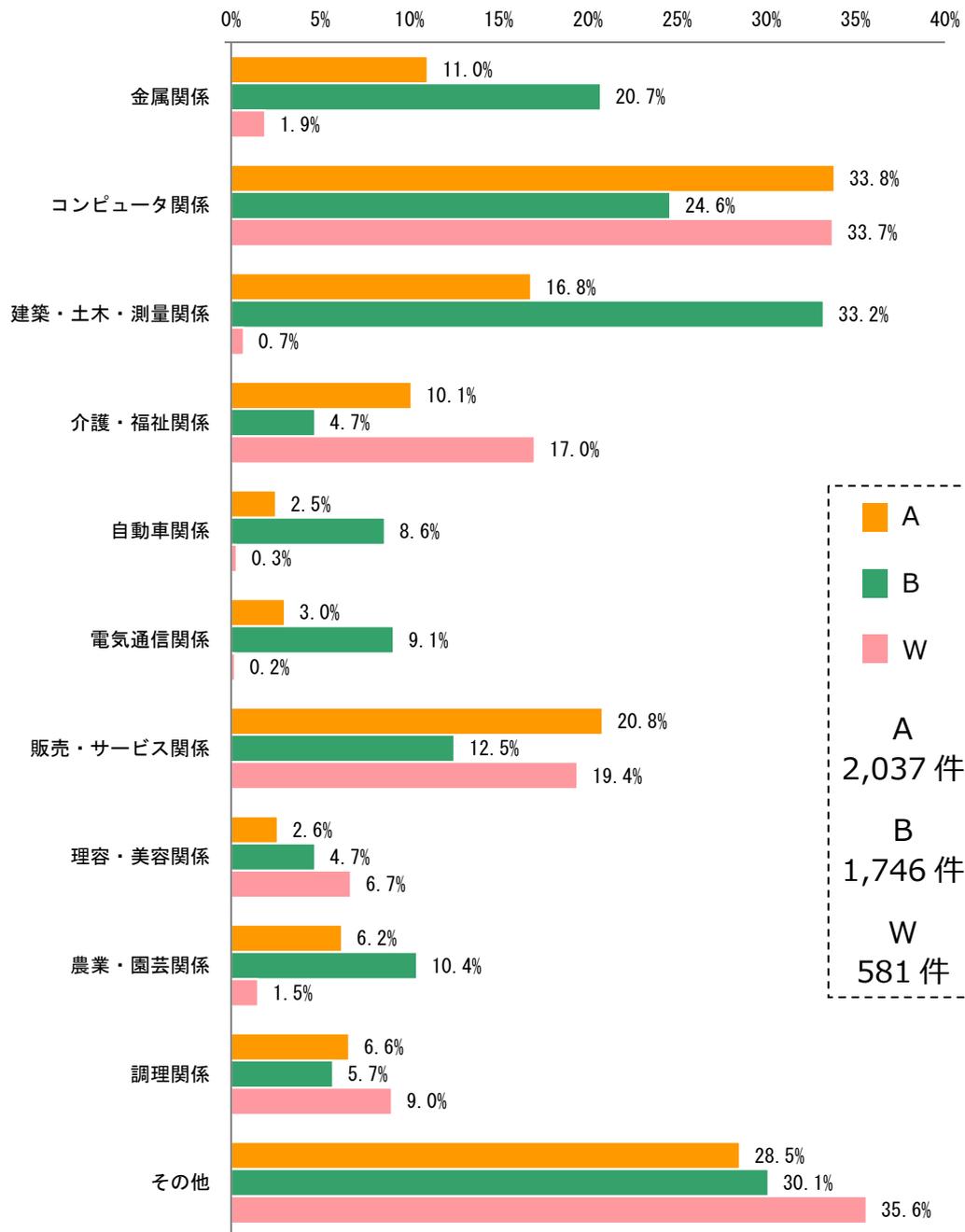
7. 職業訓練関係について

(1) 職業訓練を受けましたか。

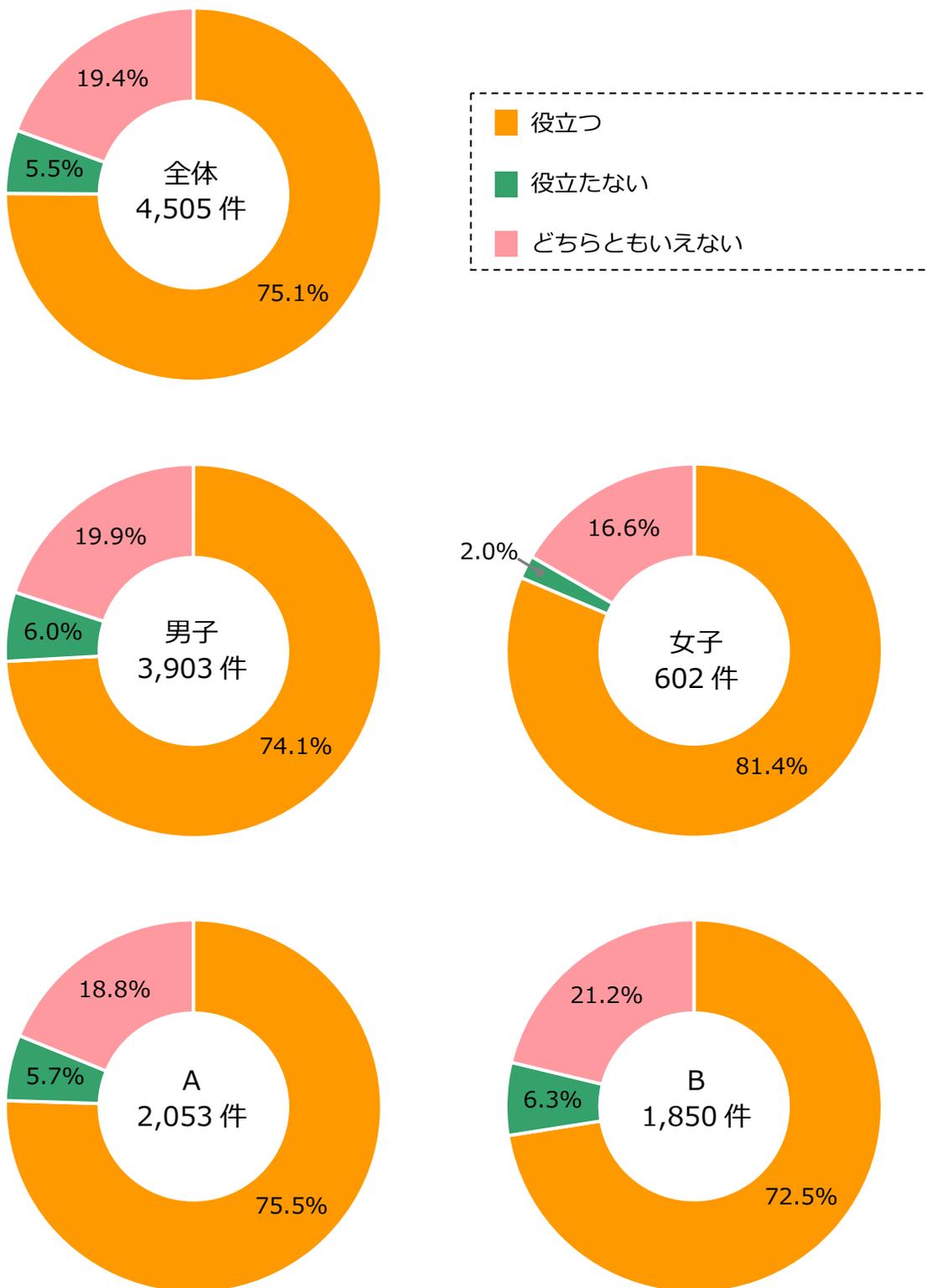


(2) (1) で「受けた」と答えた人に聞きます。何の職業訓練を受けましたか。
【3つまで選択】

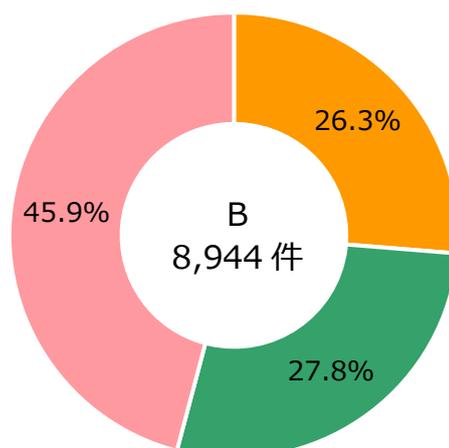
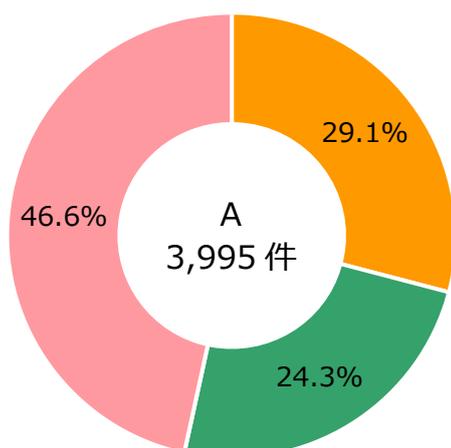
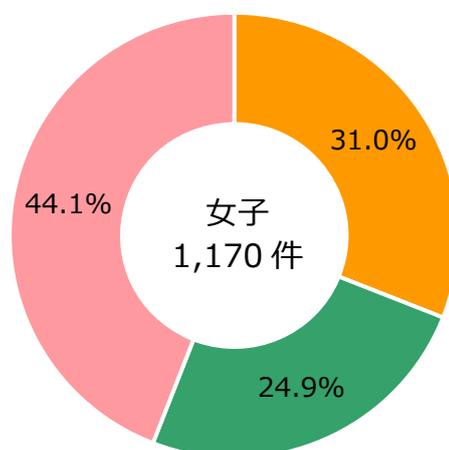
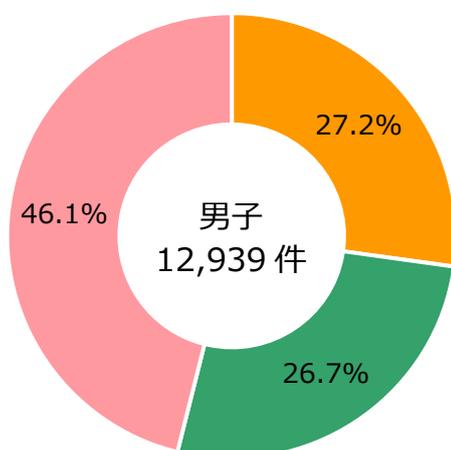
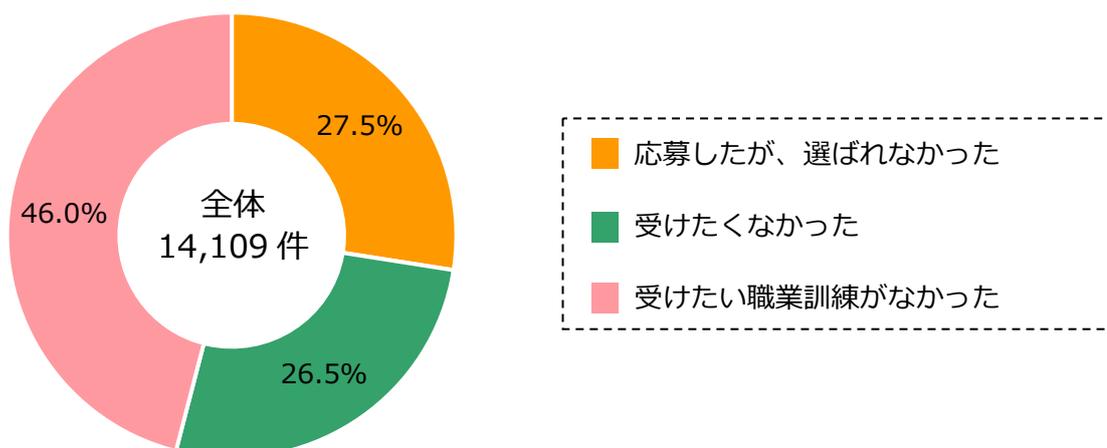




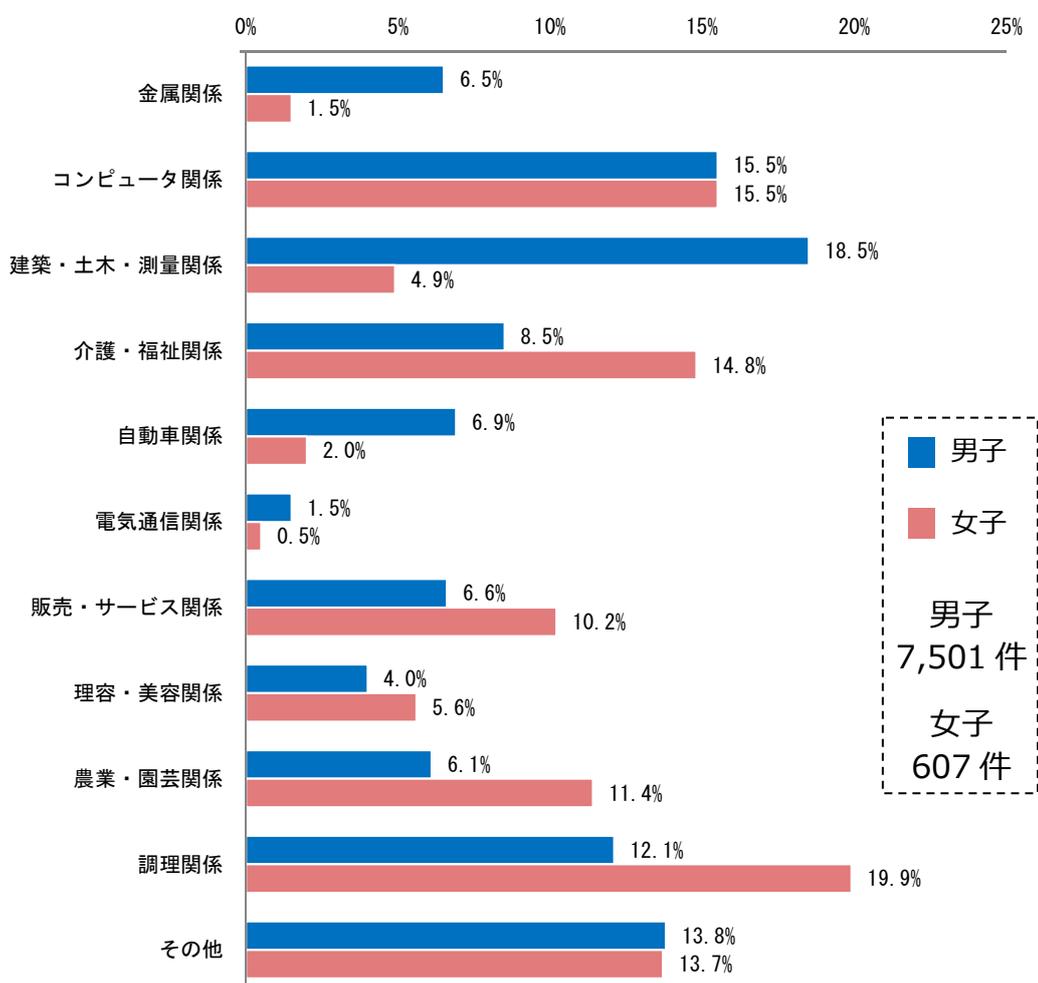
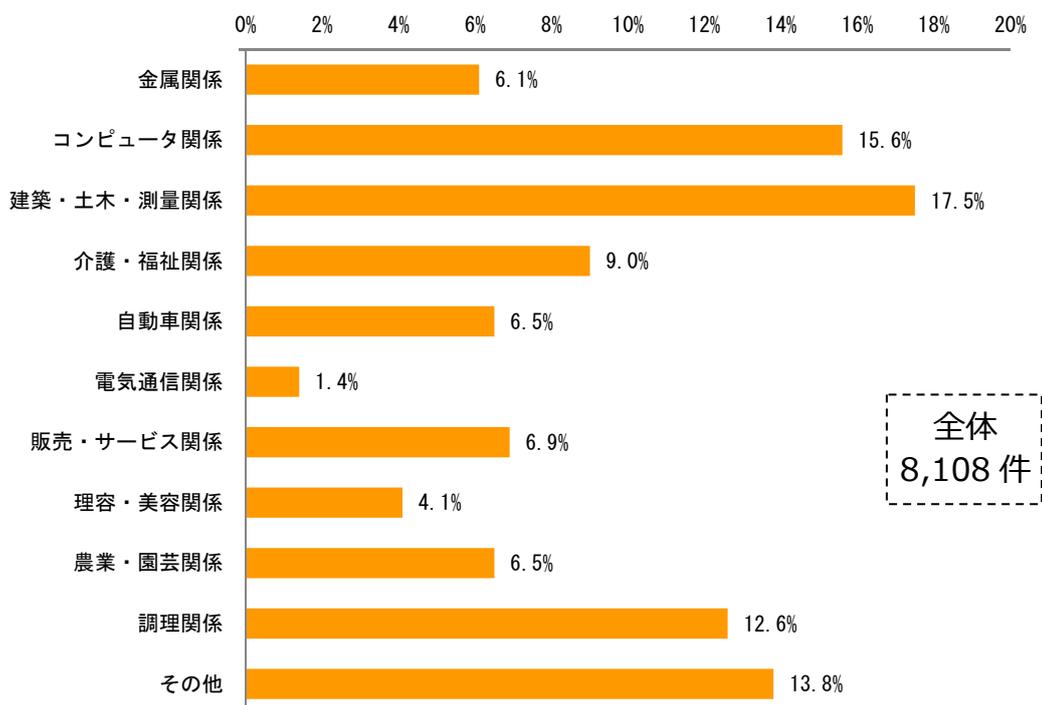
(3) (1) で職業訓練を「受けた」と答えた人に聞きます。社会復帰に役立つと思いますか。

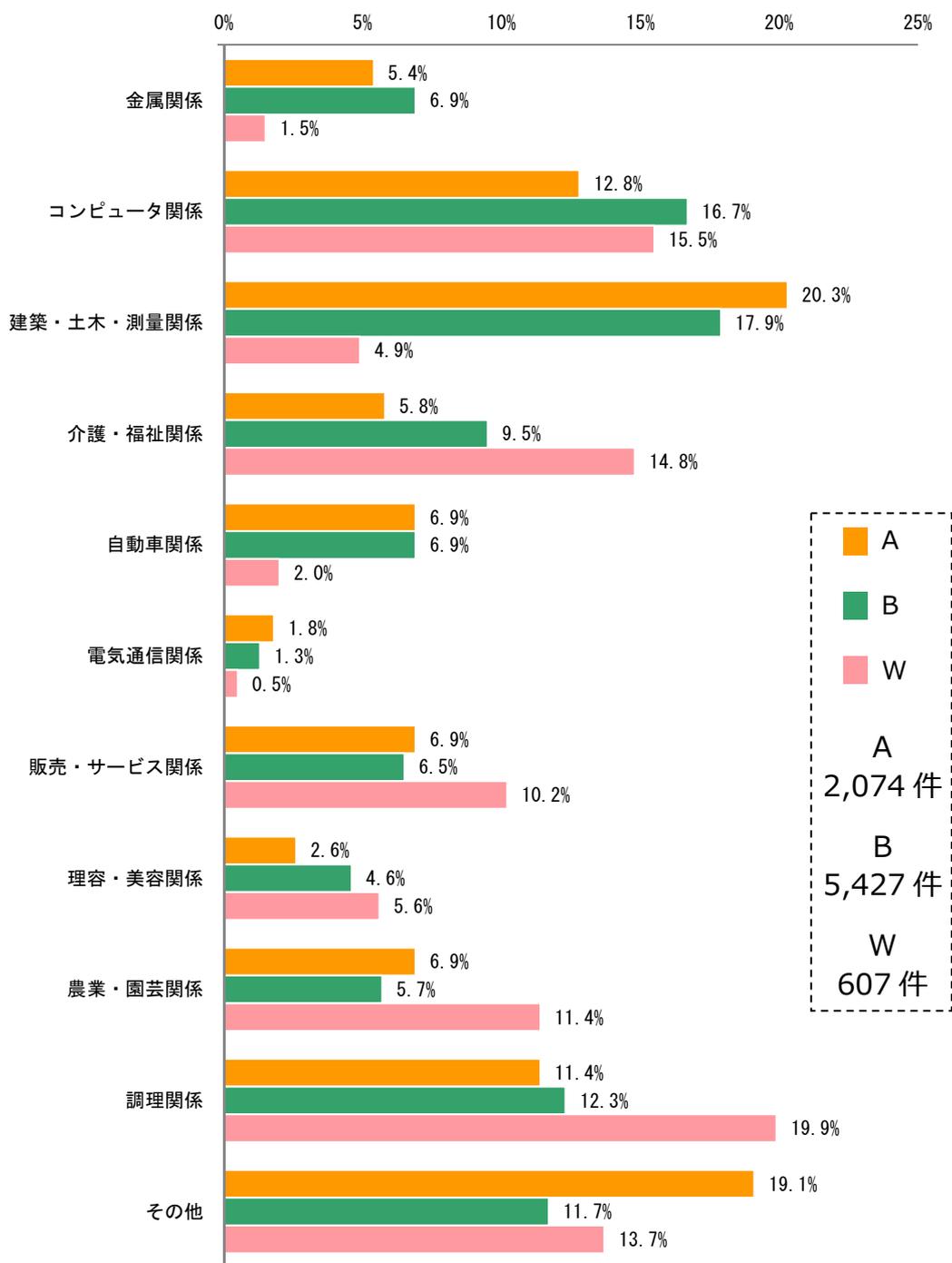


(4) 職業訓練を受けなかった人に聞きます。職業訓練を受けなかった理由はどれですか。



(5) (4) で「受けた職業訓練がなかった。」と答えた人に聞きます。どのような訓練があれば、受けたと思いましたか。

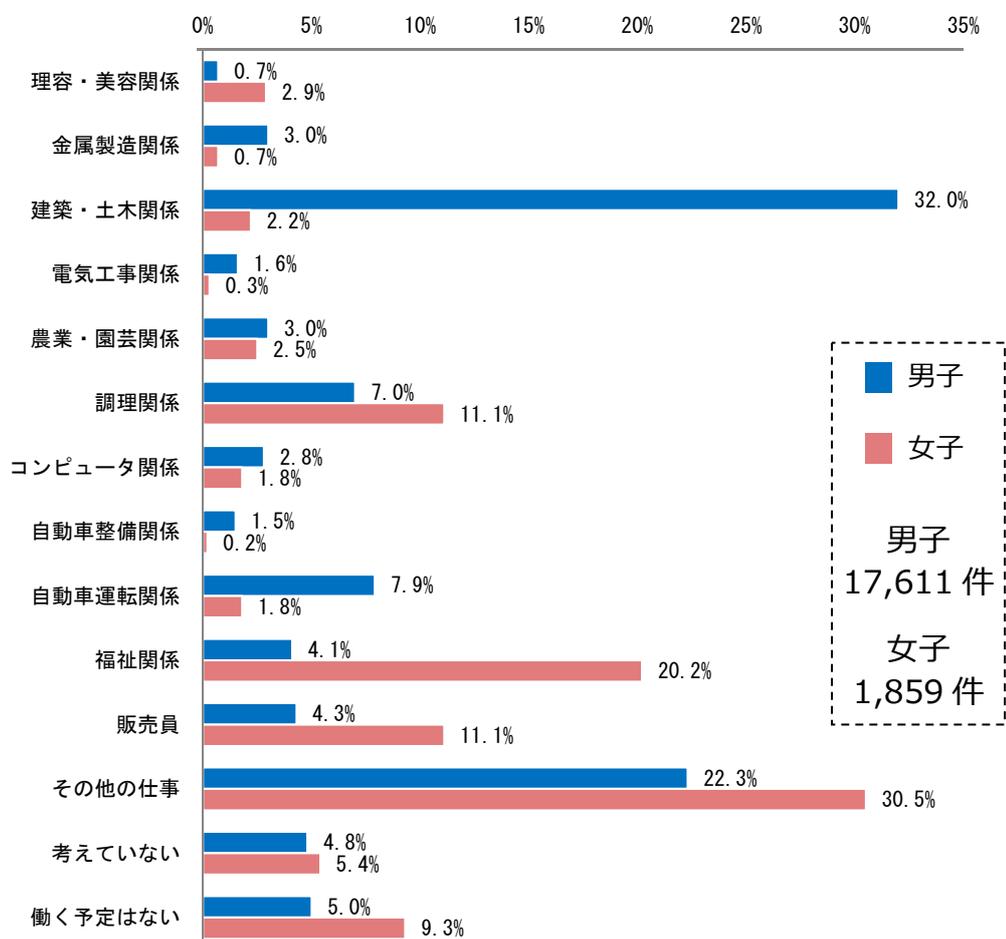
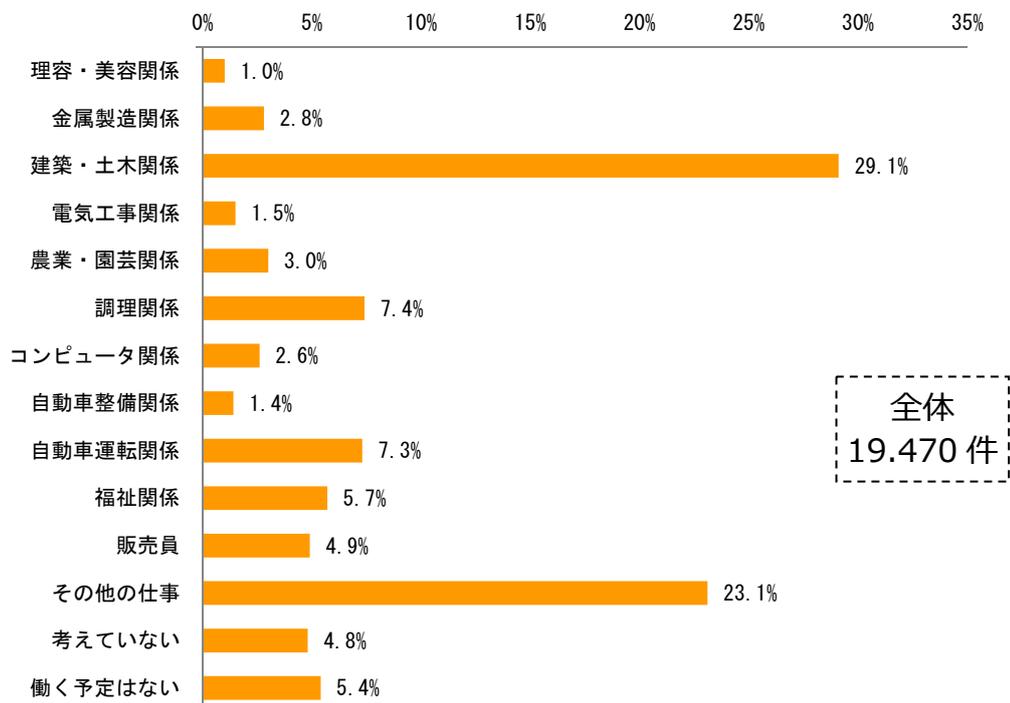


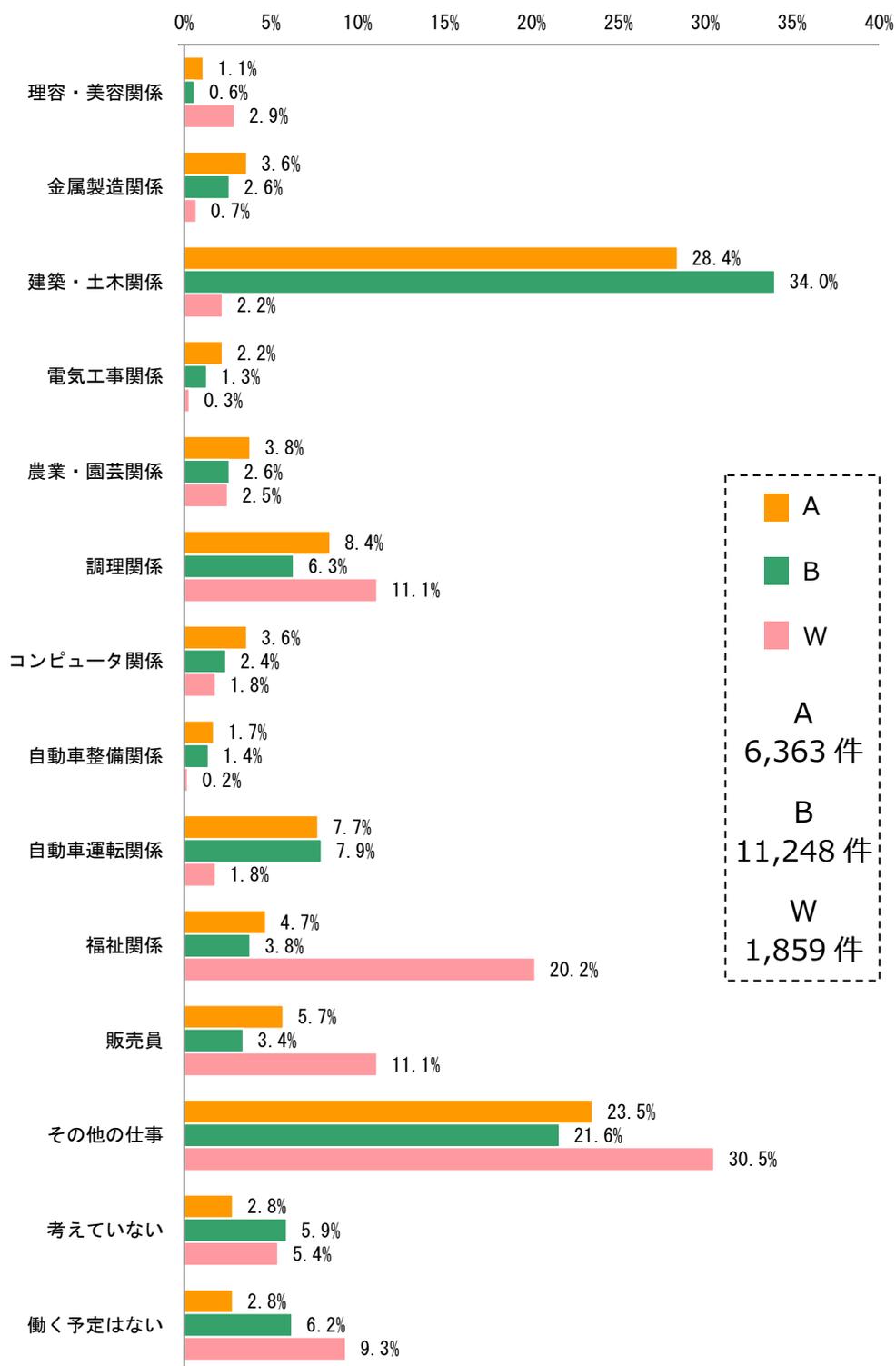


職業訓練について、「受けた」と回答した者に社会復帰に役立つと思うかを質問したところ、いずれの類型においても7割以上の者が「役立つ」と回答した。一方で、職業訓練を受けなかった者にその理由を質問したところ、いずれの類型においても、4割以上の者が「受けない職業訓練がなかった」と回答した。また、「受けない職業訓練がなかった」と回答した者に対して、受けない職業訓練の種目を質問したところ、男女ともに「コンピュータ関係」(男子・女子ともに15.5%)、「調理関係」(男子12.1%、女子19.9%)と回答する者が多くいたほか、男子では「建築・土木・測量関係」(18.5%)、女子では「介護・福祉関係」(14.8%)と回答する者も目立った。

8. 出所後の就労について

(1) 出所後に就きたい（就くつもり）の仕事はどれですか。

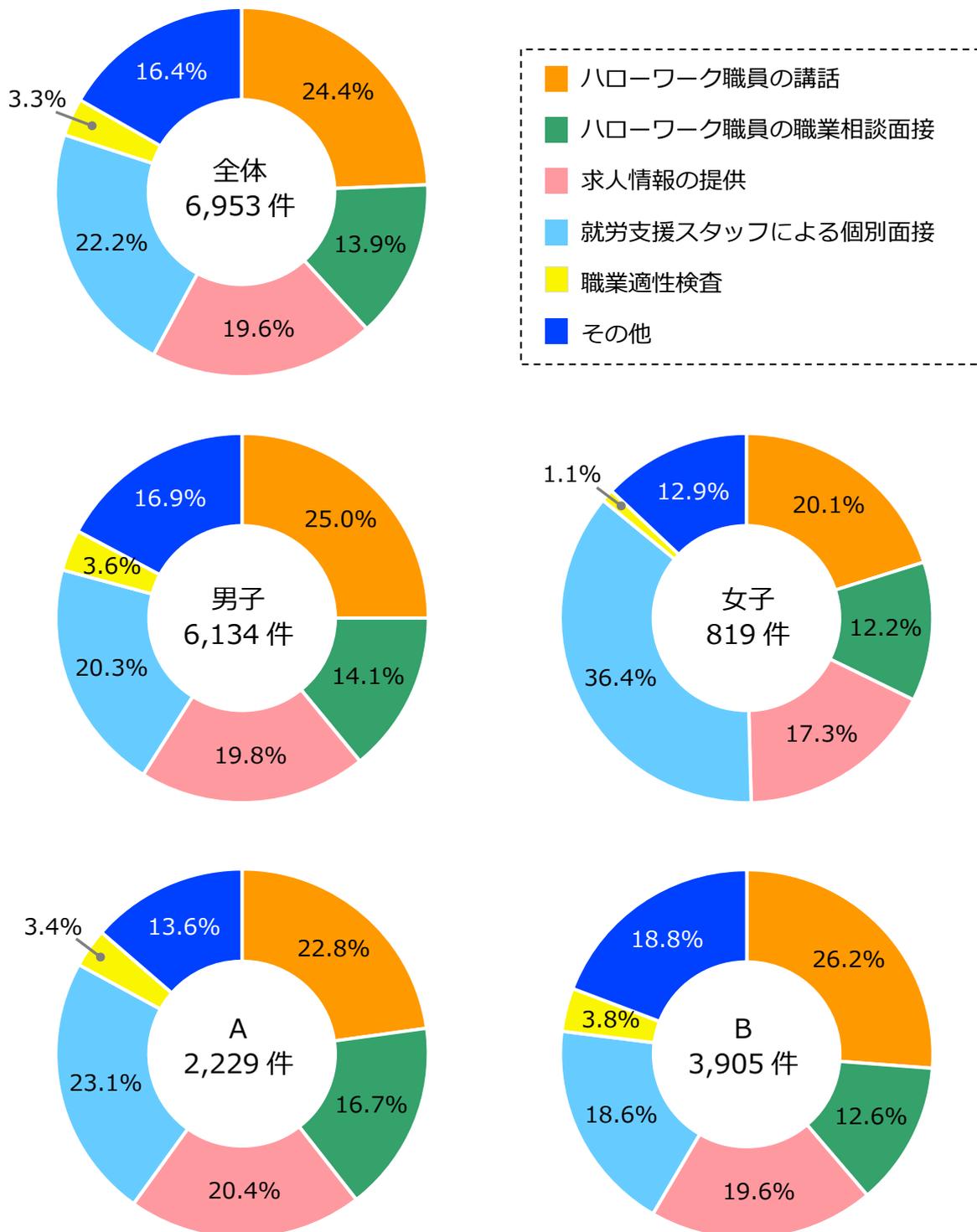




出所後に就きたい(就くつもり)の仕事について質問したところ、男子では「建築・土木関係」(32.0%)、女子では「福祉関係」(20.2%)と回答した者が突出して多かった。

9. 就労支援について

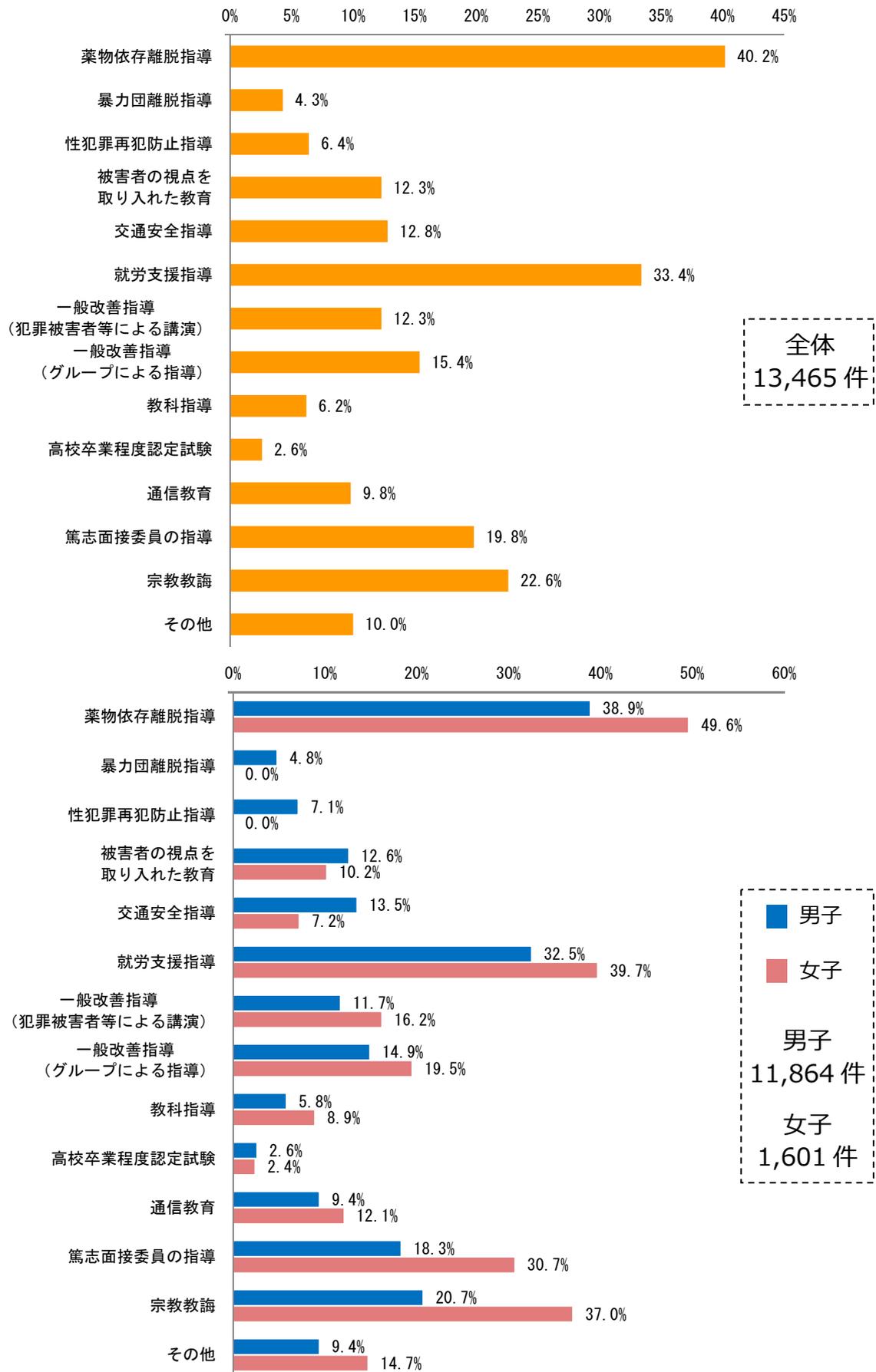
就労支援を受けた人に聞きます。受けた就労支援のうち、あなたが一番役に立ったと思ったものはどれですか。

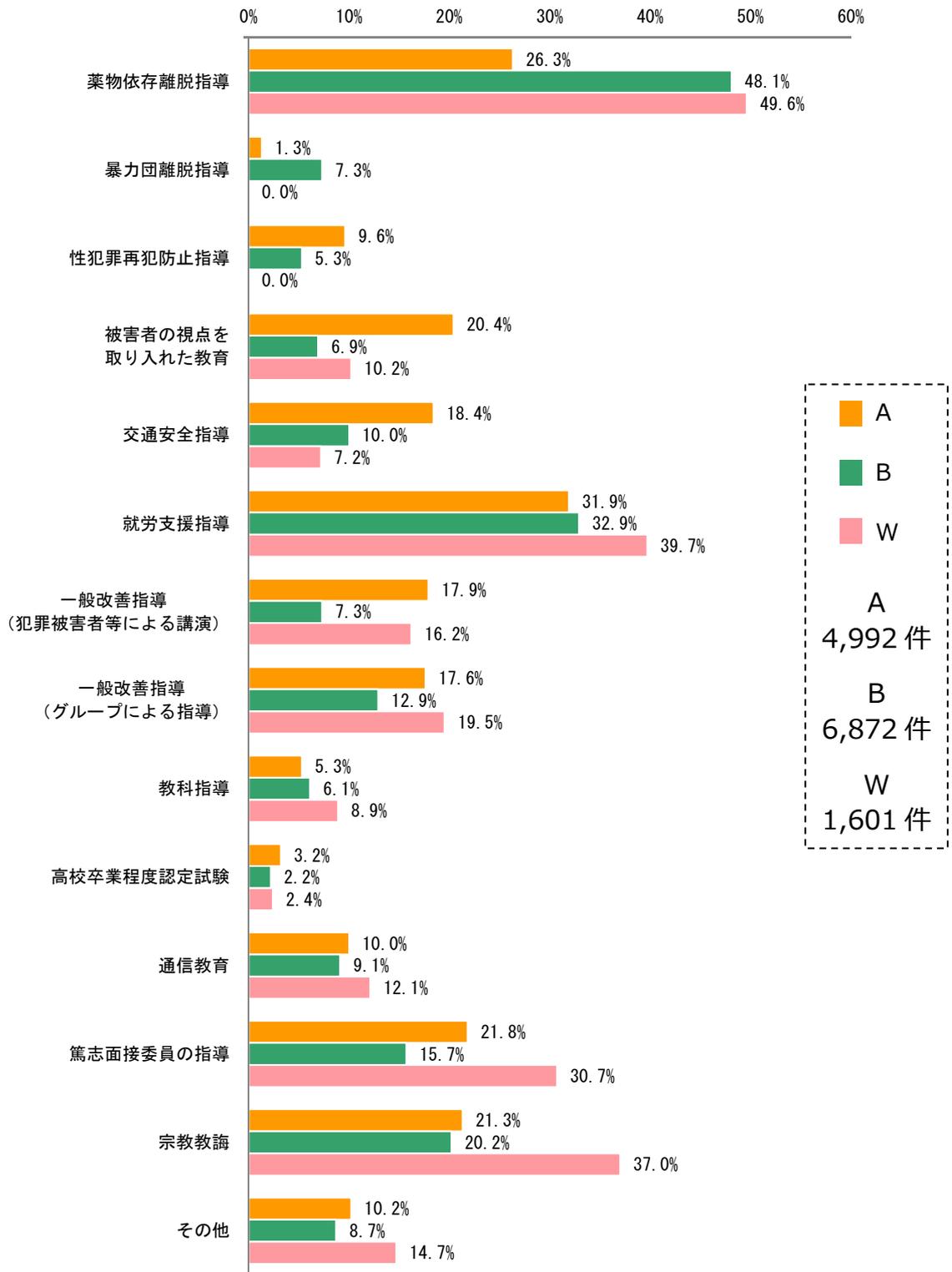


就労支援を受けた人に、一番役に立ったものについて質問したところ、全ての類型において「就労支援スタッフによる個別面接」、「ハローワーク職員の講話」を挙げた者が、それぞれ2割以上であった。

10. 教育関係について

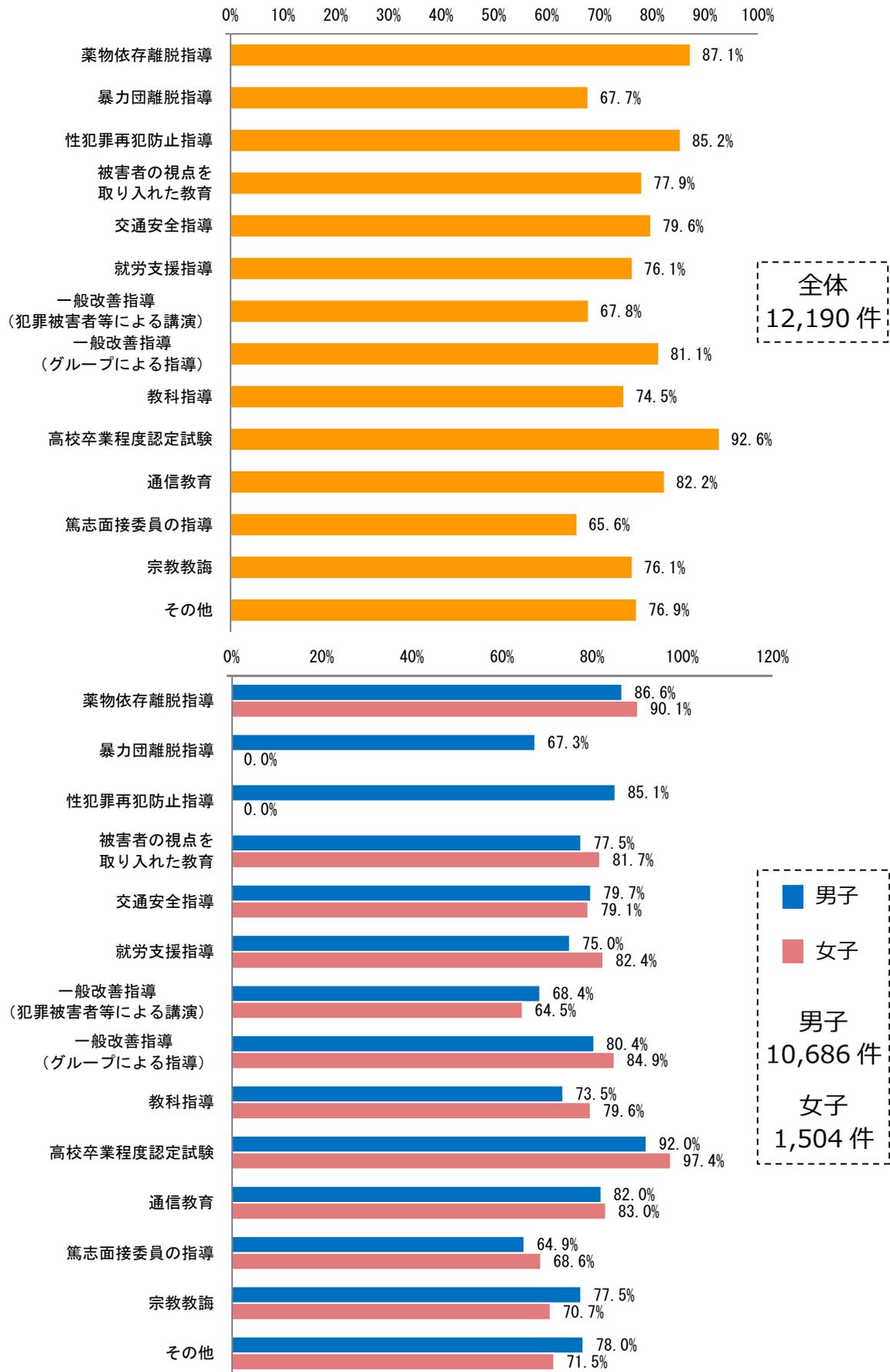
(1) 各種の教育（改善指導等）のうち、あなたが受けたものはどれですか。【すべて選択】

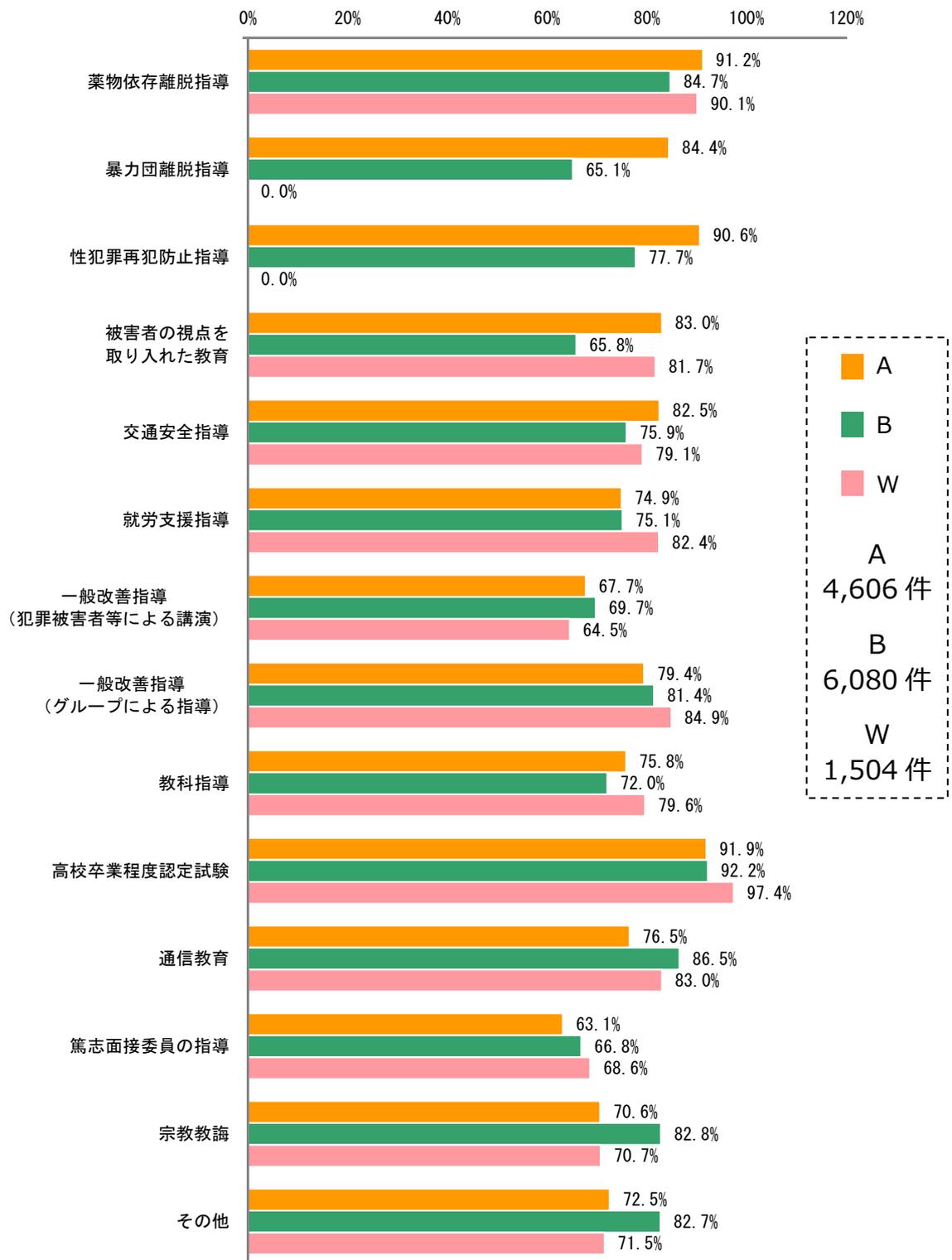




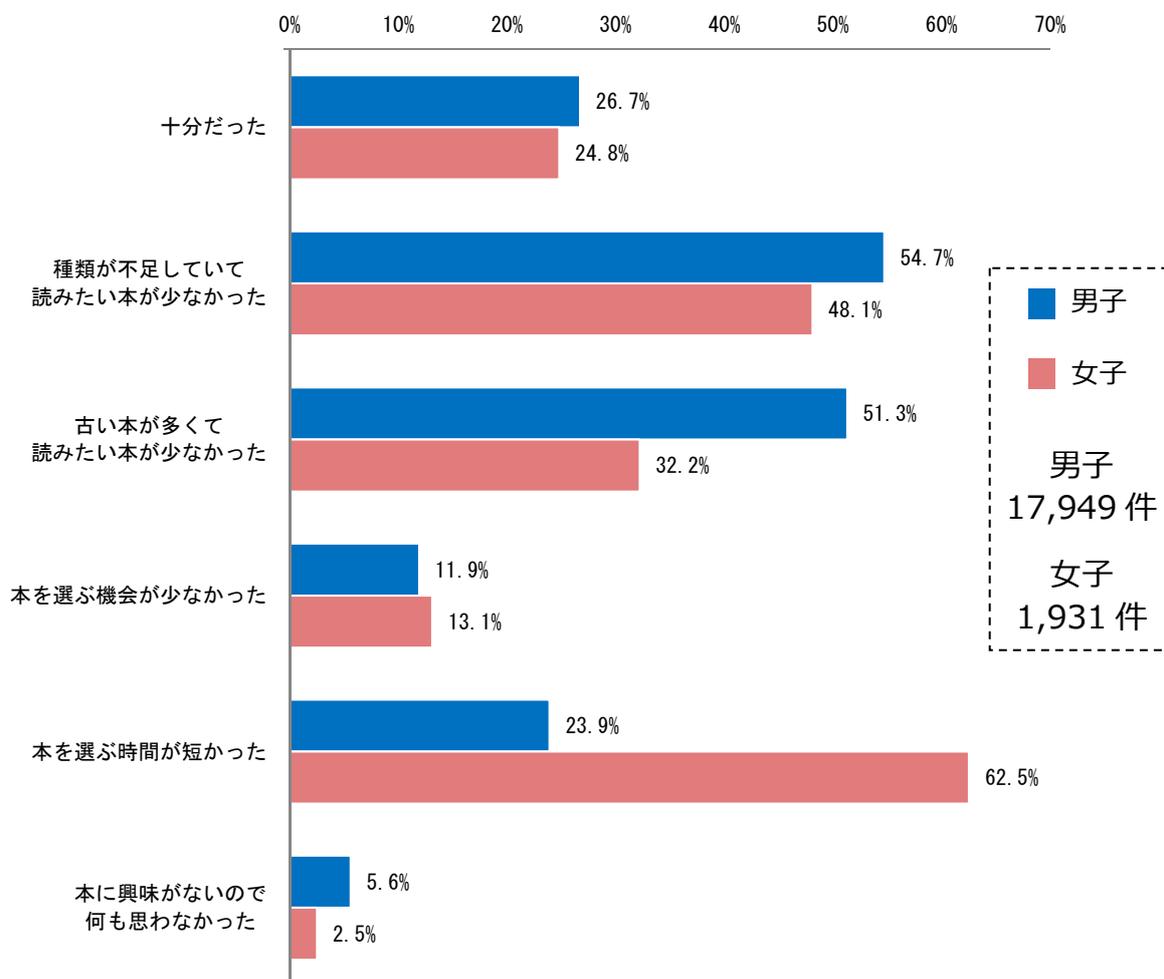
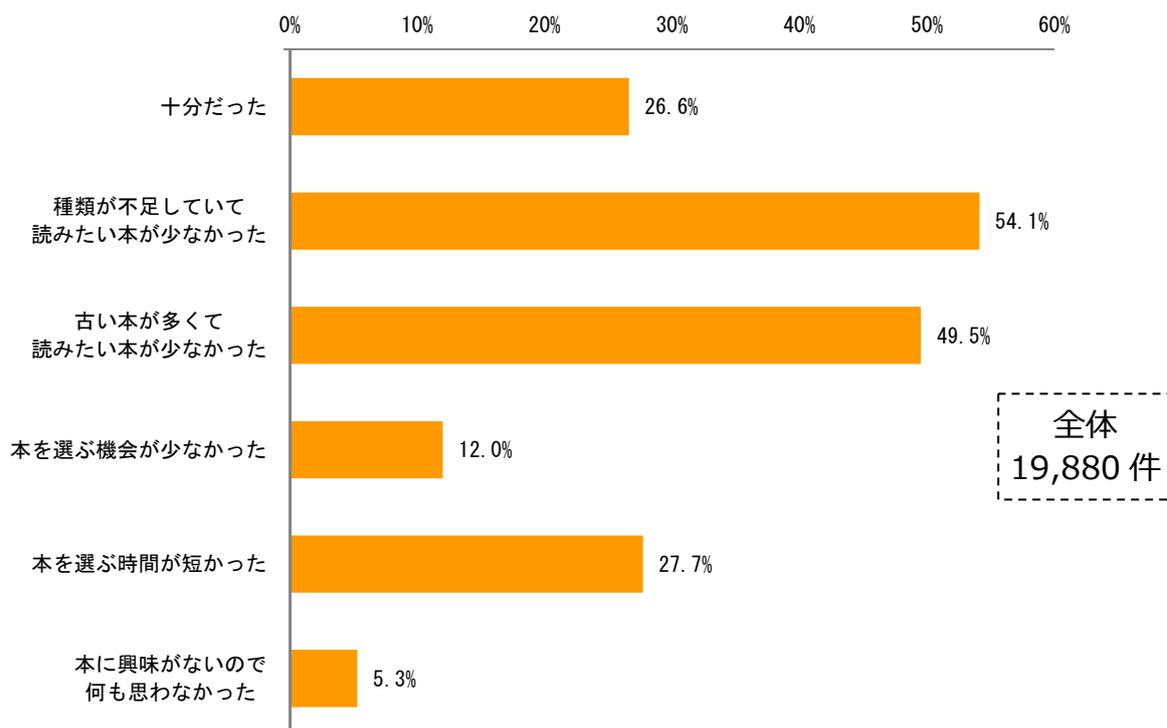
(2) (1) で「受けた」と答えた教育（改善指導等）のうち、あなたが役に立ったと思ったものはどれですか。【すべて選択】

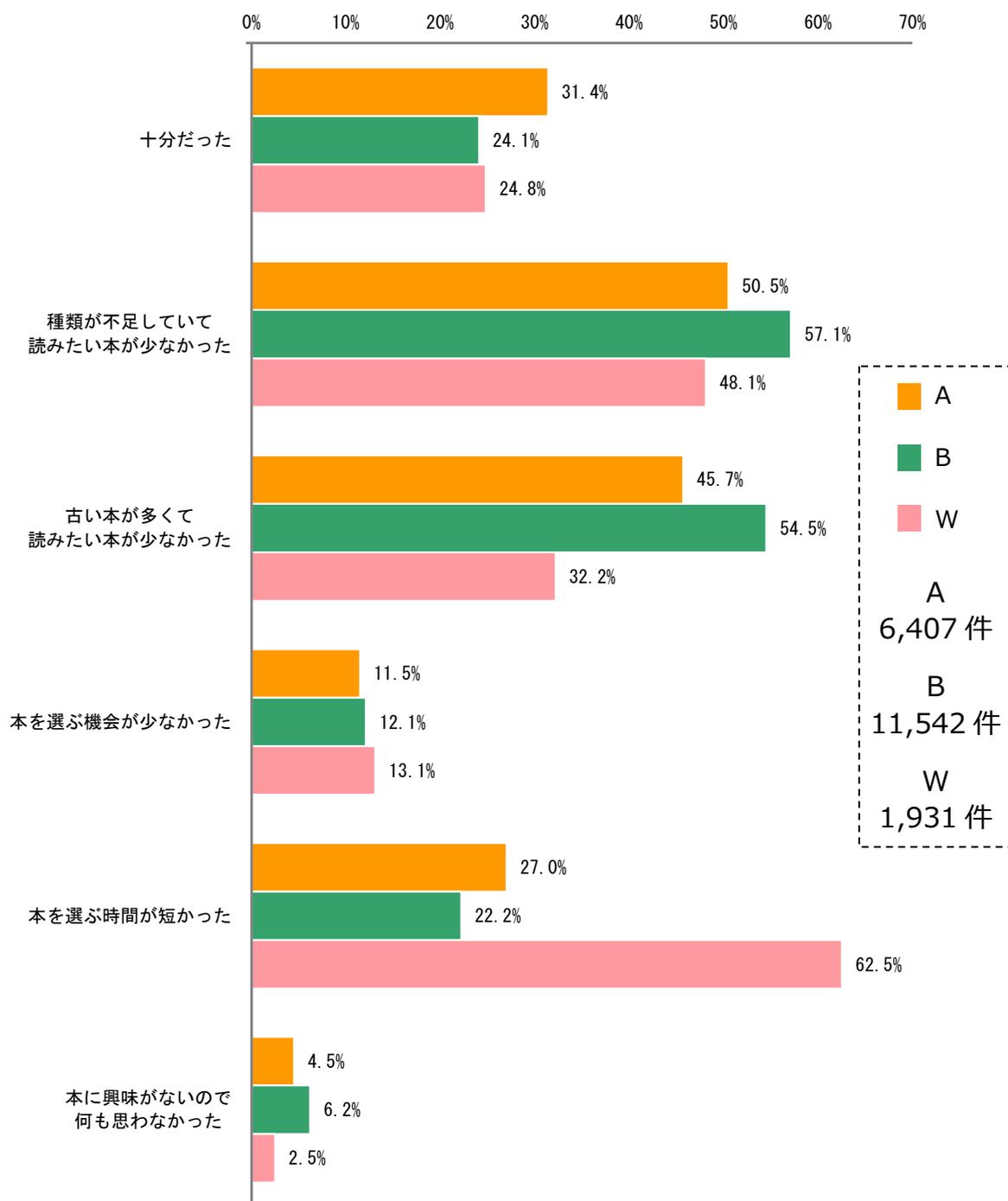
※ グラフは受講者に占める割合。





(3) 図書（官本）について、どのように感じましたか。【2つまで選択】





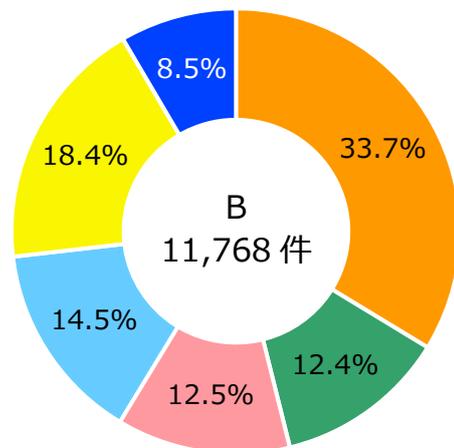
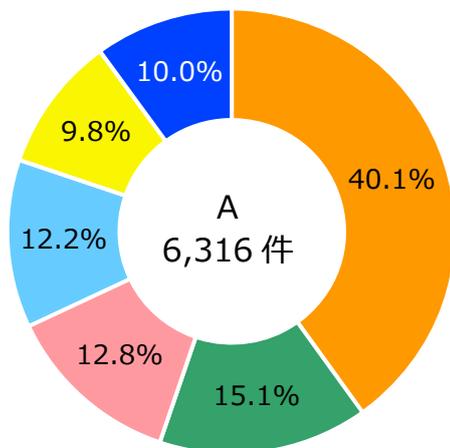
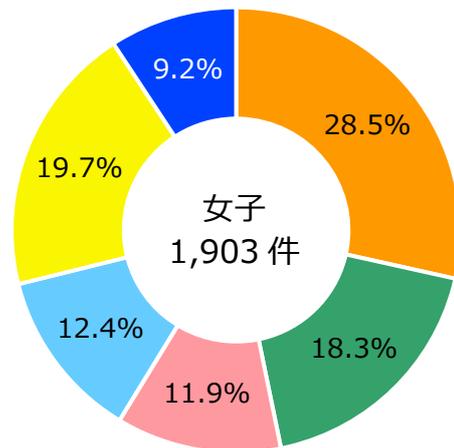
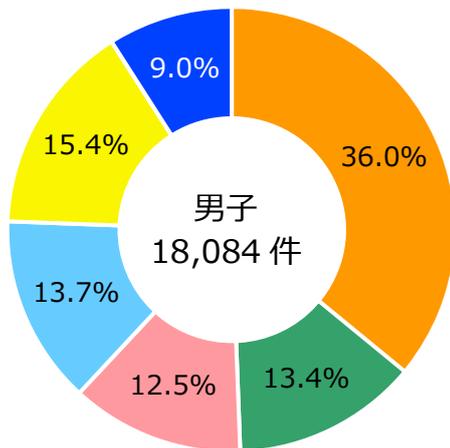
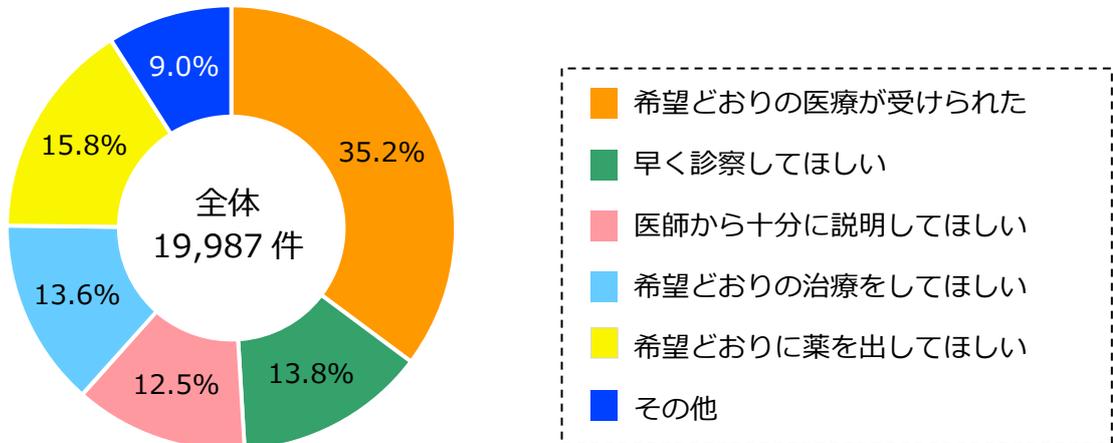
各種教育について質問したところ、いずれの教育についても「役に立った」と回答した者が多くを占めた。特に「高校卒業程度認定試験」については9割以上の者が「役に立った」と回答した。

図書（官本）についての質問では、「種類が不足していて読みたい本が少なかった」、「古い本が多くて読みたい本が少なかった」と回答した者が約半数であった。また、女子においては、62.5%の者が「本を選ぶ時間が短かった」と回答した。

※「暴力団離脱指導」、「性犯罪再犯防止指導」については女子には実施していない。

11. 医療関係について

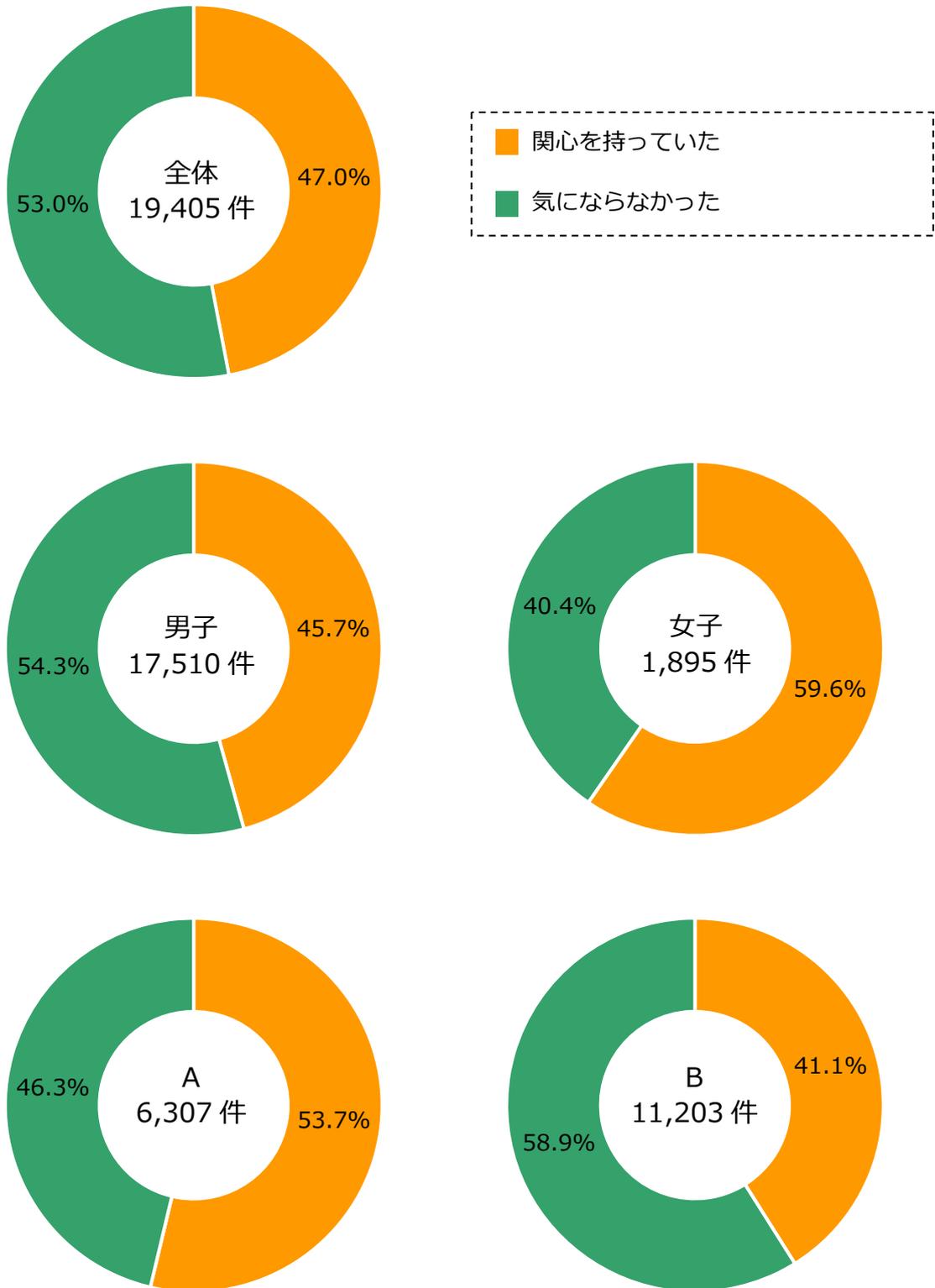
施設内の医療について、どのように思いましたか。



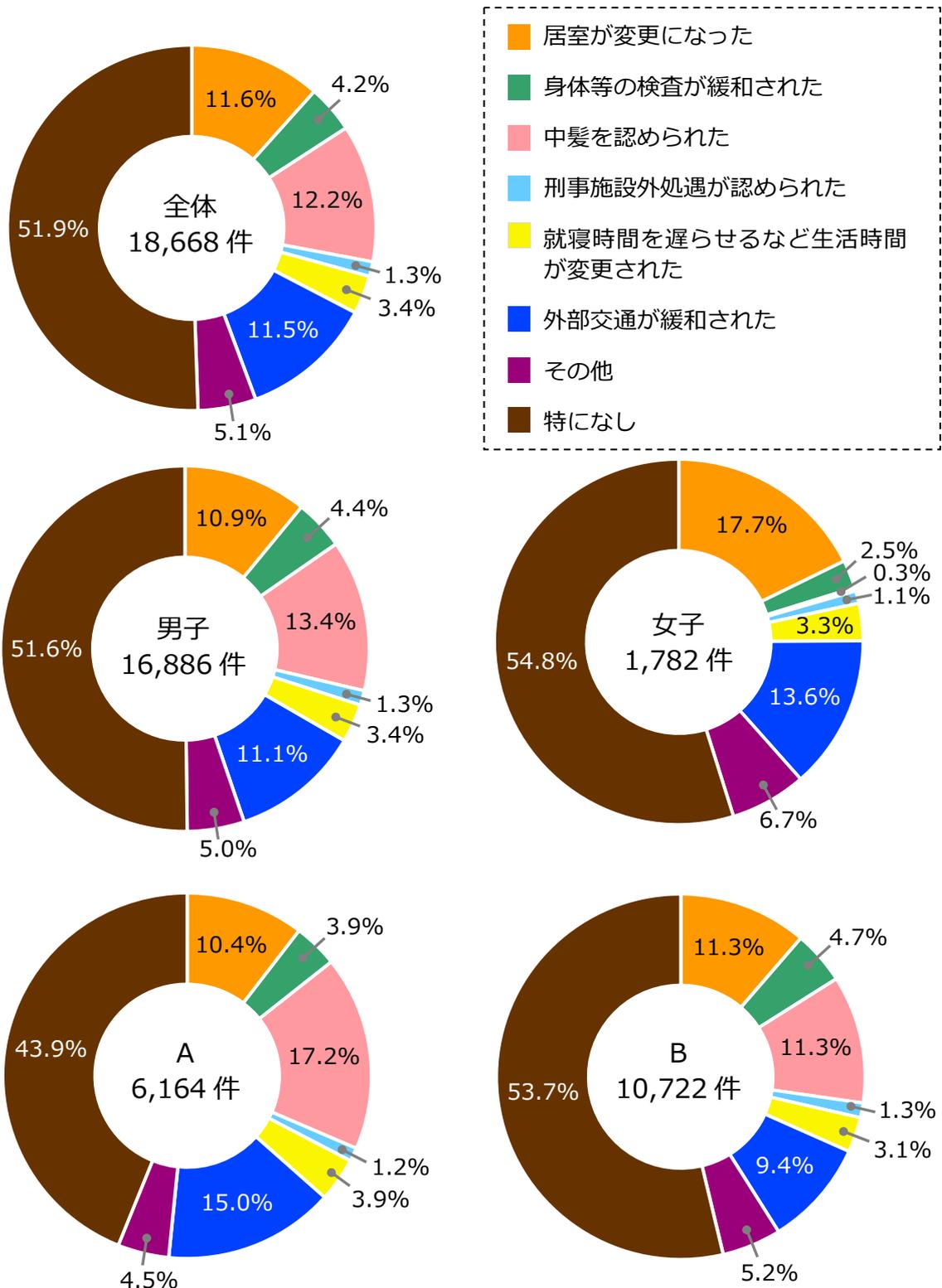
刑事施設内における医療について質問したところ、「希望どおりの医療が受けられた」と回答した者は、全体の35.2%であり、男子（36.0%）が女子（28.5%）を上回った。

12. 制限区分について

(1) 制限区分について、関心を持っていましたか。



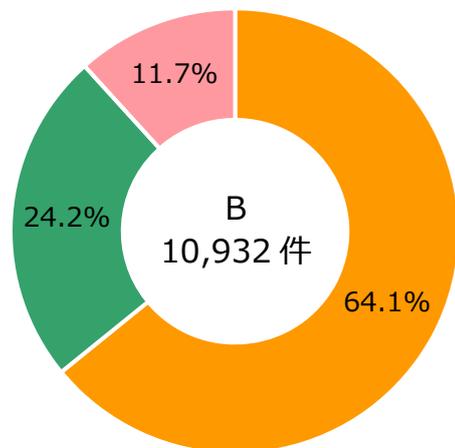
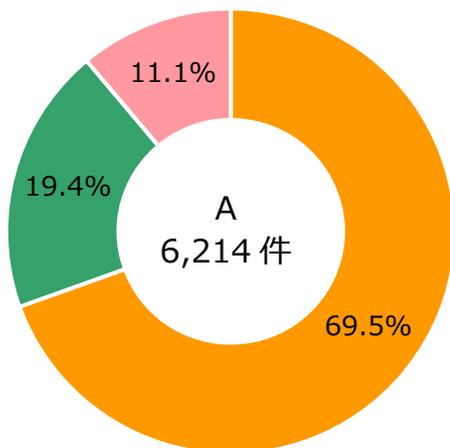
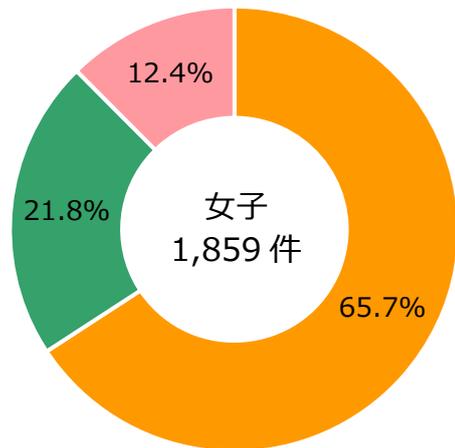
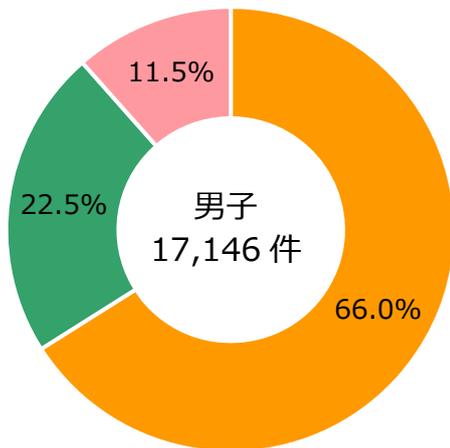
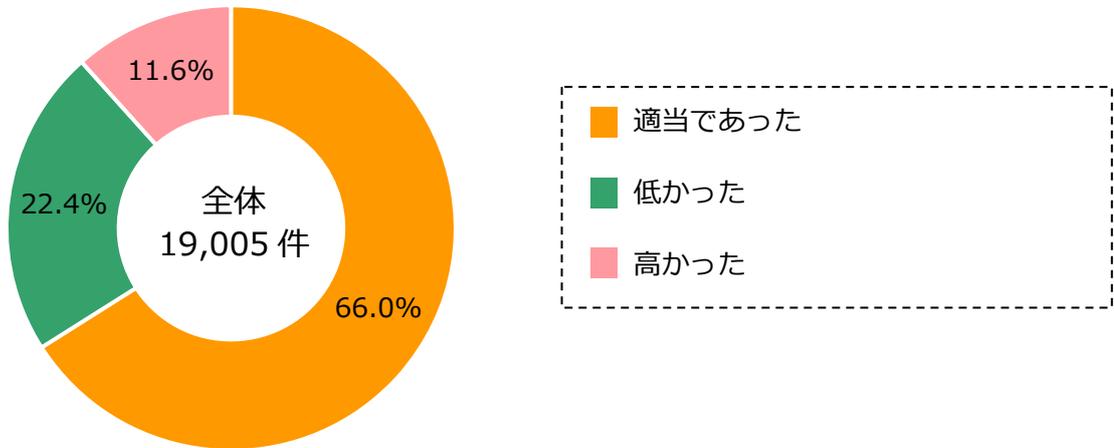
(2) あなたの制限区分に応じて変更となった処遇の中で一番良かったと思うものは何ですか。



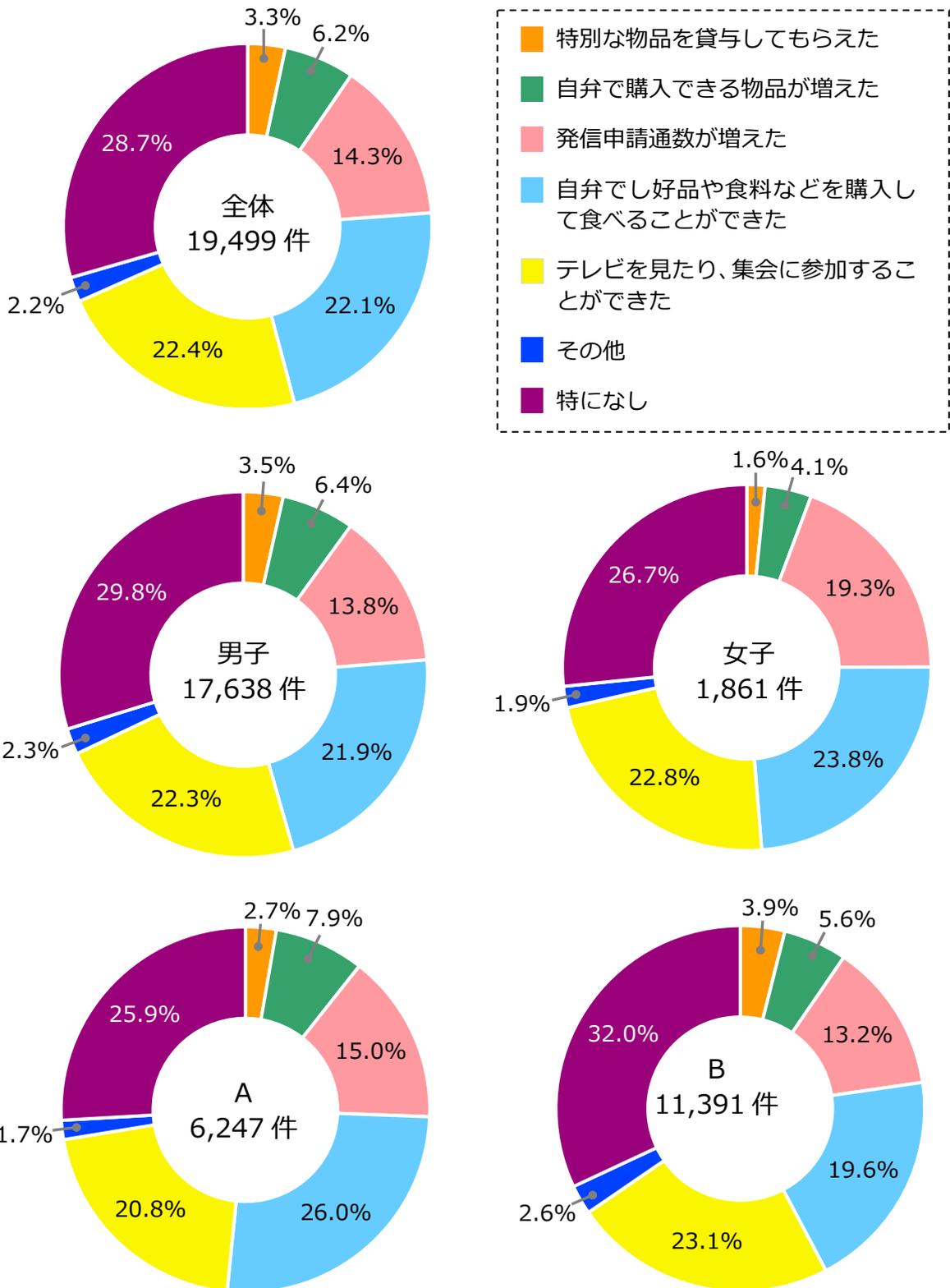
制限区分についての関心について質問したところ、処遇指標がAの者や女子については、過半数の者が「関心を持っていた」と回答している一方で、処遇指標がBの者については、約6割の者が「気にならなかった」と回答した。また、制限区分に応じて変更となった処遇の中で一番良かったと思うものを質問したところ、「中髪を認められた」、「居室が変更になった」、「外部交通が緩和された」と回答した者が多かった。

13. 優遇区分について

(1) 受刑態度によって指定されていた優遇区分について、どのように感じましたか。



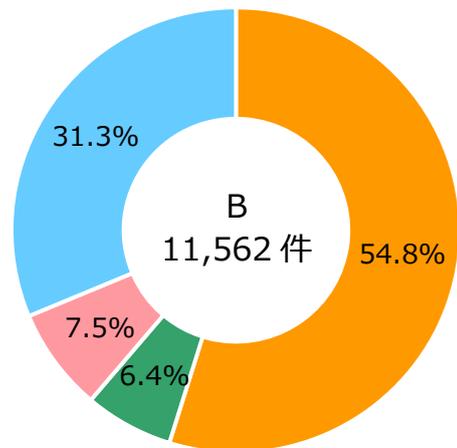
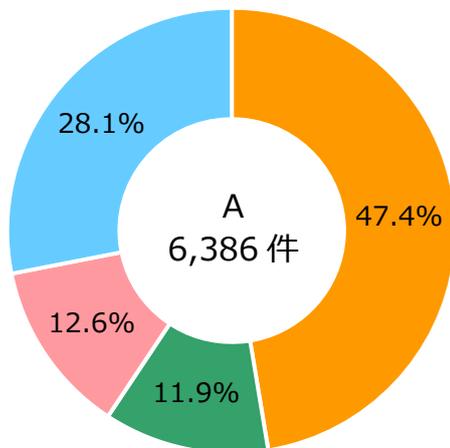
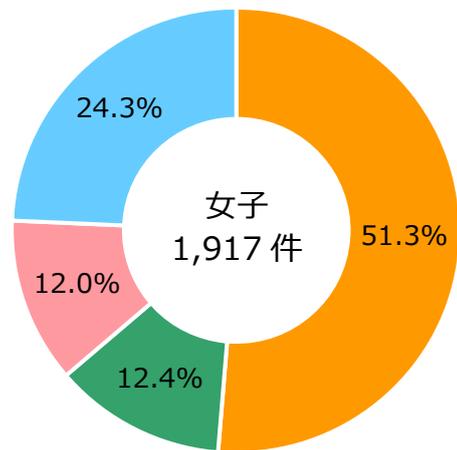
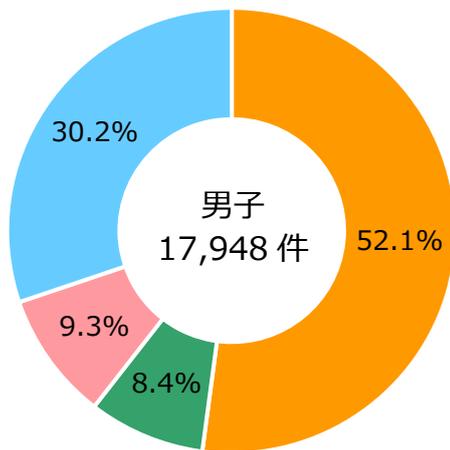
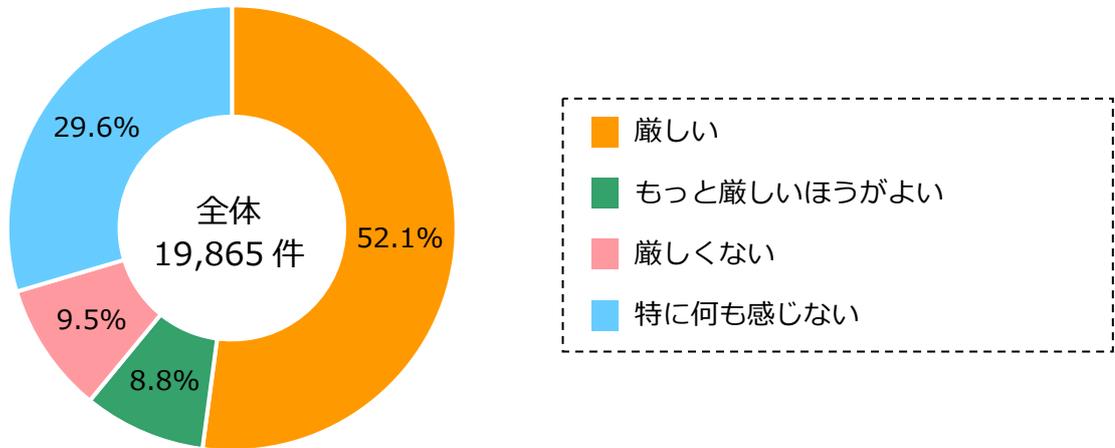
(2) 優遇措置として一番良かったと思うものは何ですか。



指定された優遇区分について質問したところ、いずれの類型においても6割以上の者が「適当であった」と回答した。また、優遇措置として一番良かったものについて質問したところ、いずれの類型においても「テレビを見たり、集会に参加することができた」、「自弁でし好品や食料などを購入して食べる事ができた」、「発信申請通数が増えた」と回答した者が多かった。

14. 施設の規則について

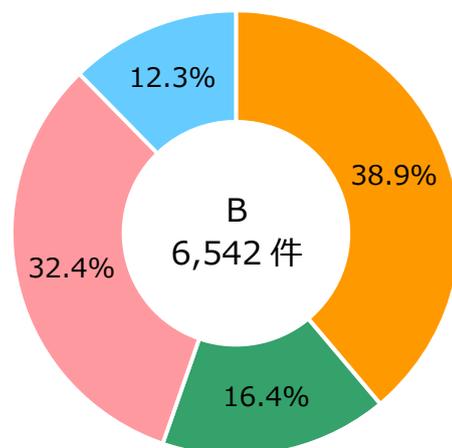
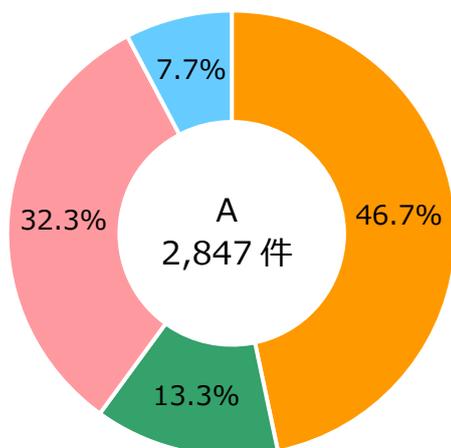
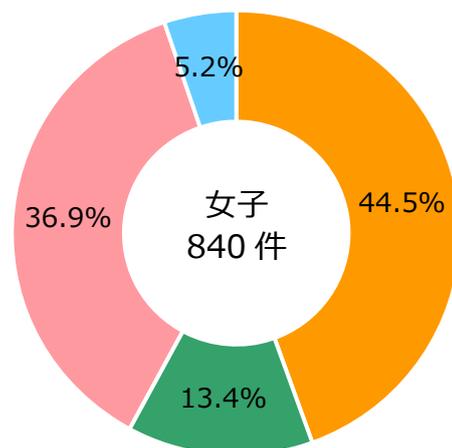
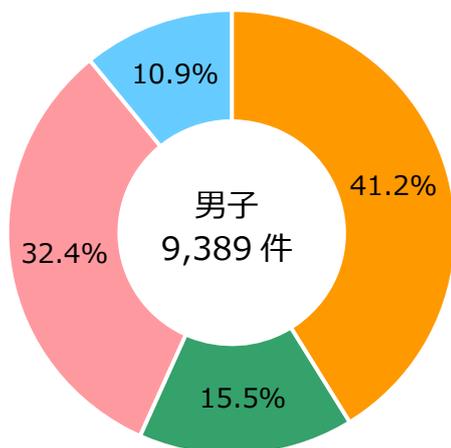
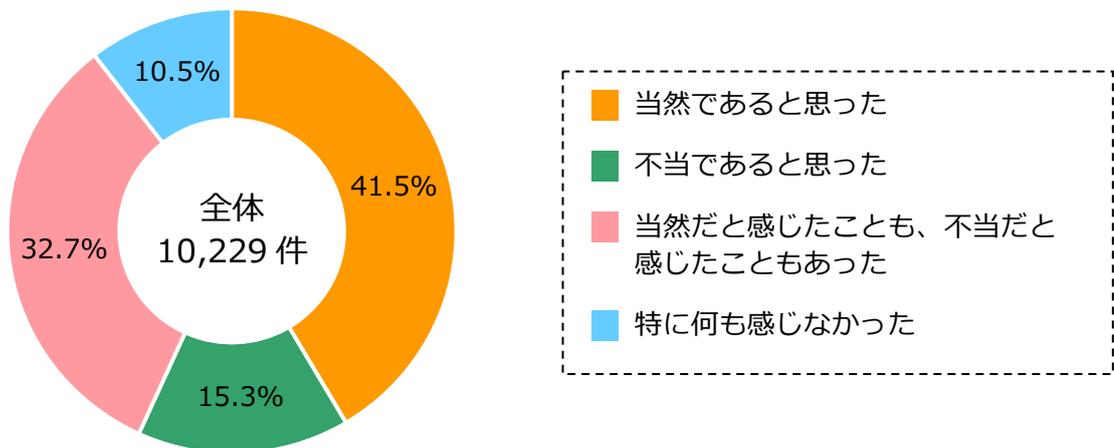
施設の規則についてどう思いましたか。



矯正施設における規則について質問したところ、いずれの類型においても約半数の者が「厳しい」と回答した。

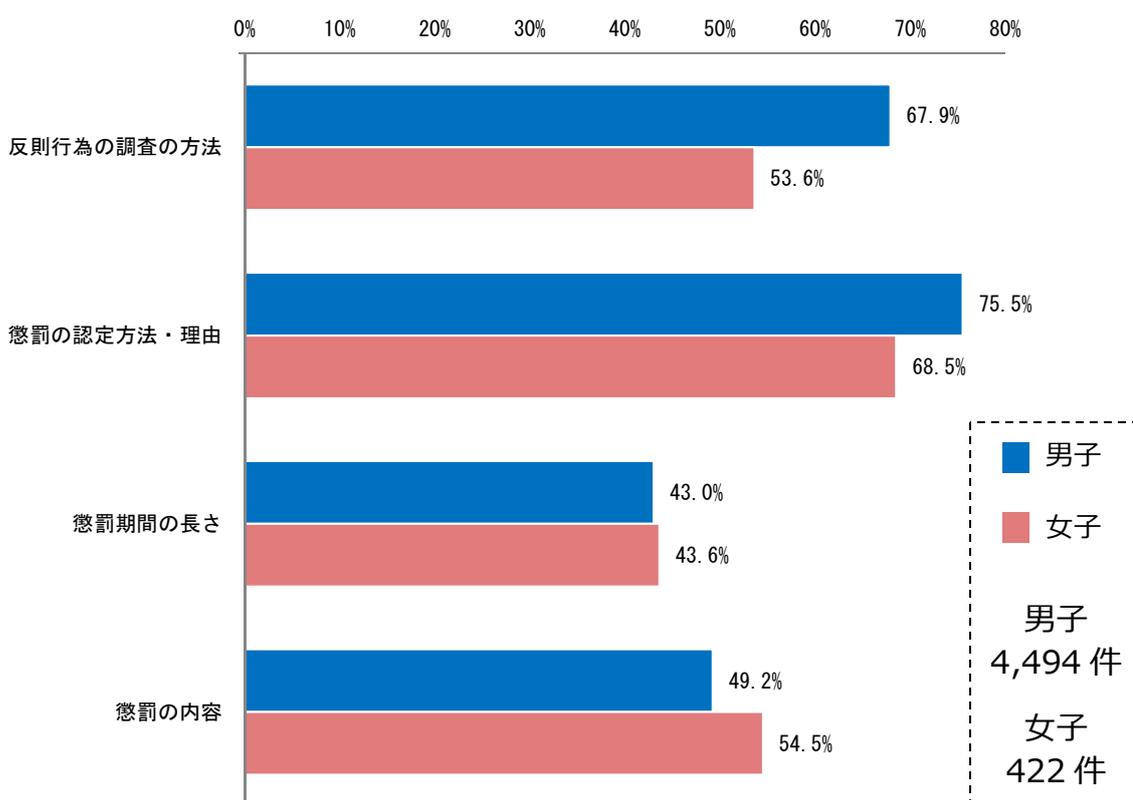
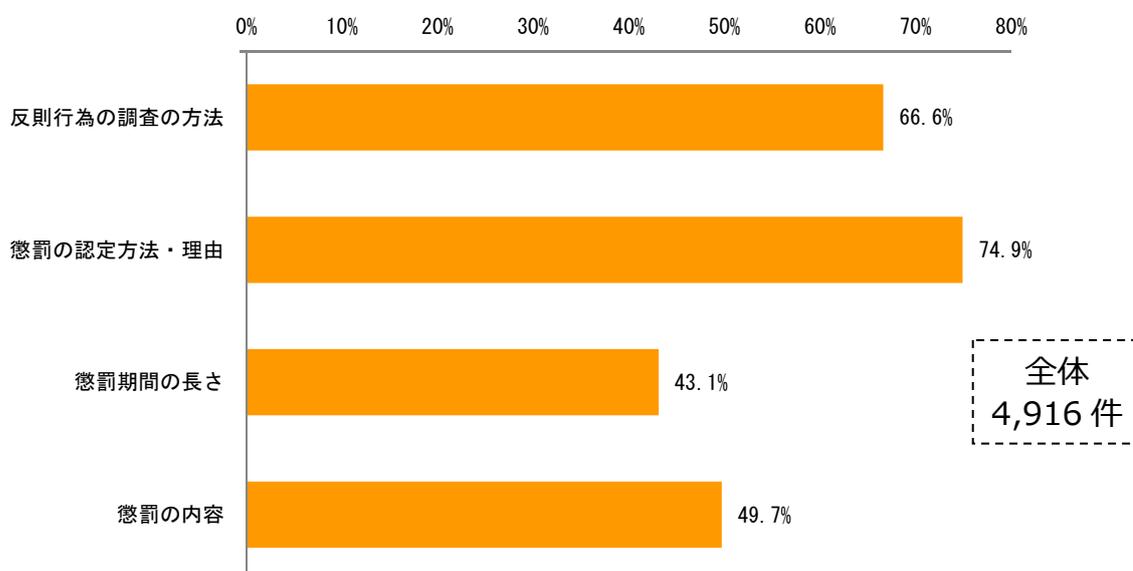
15. 懲罰関係について

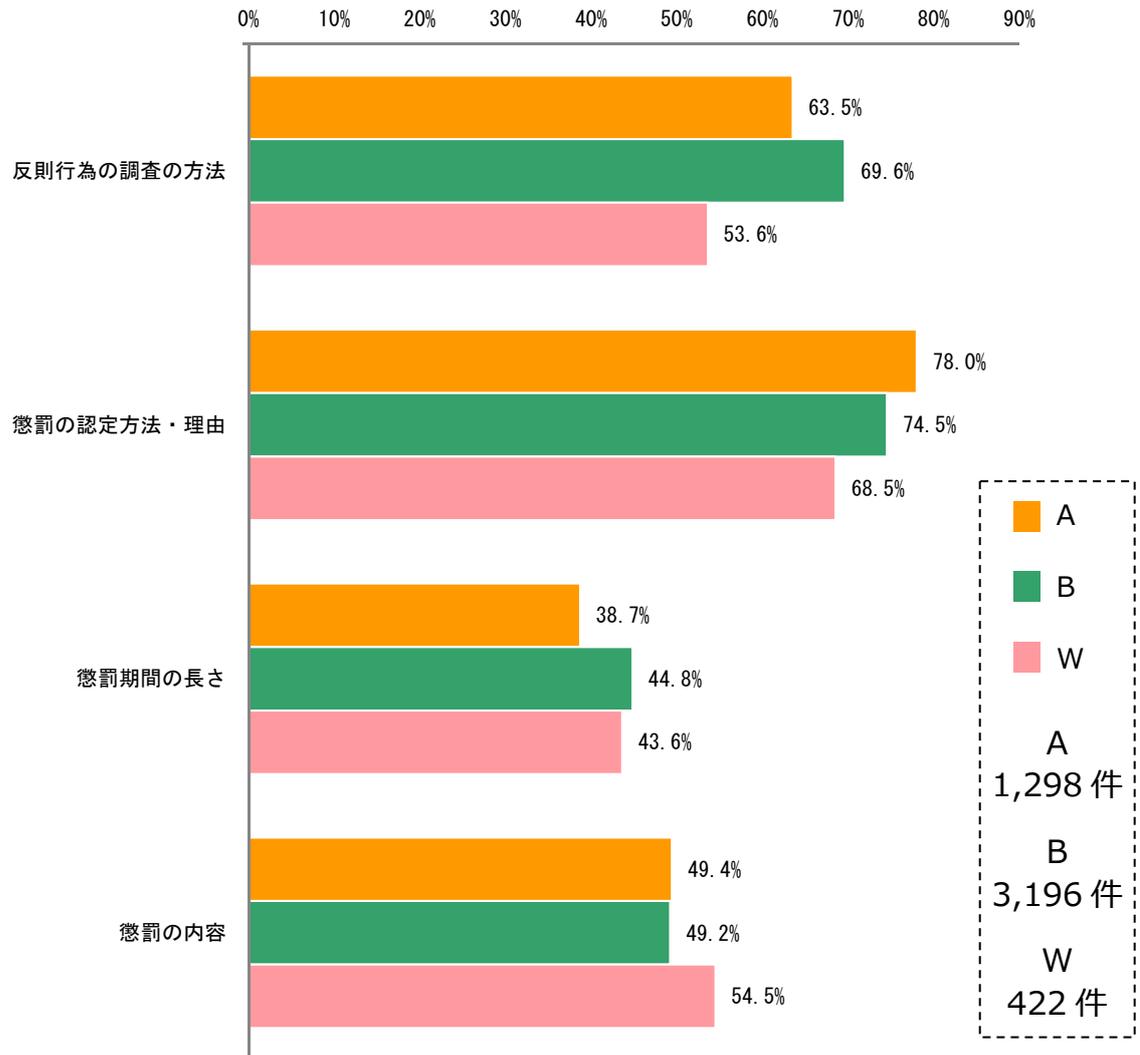
(1) 懲罰を受けたことがある人に聞きます。懲罰についてどう感じましたか。



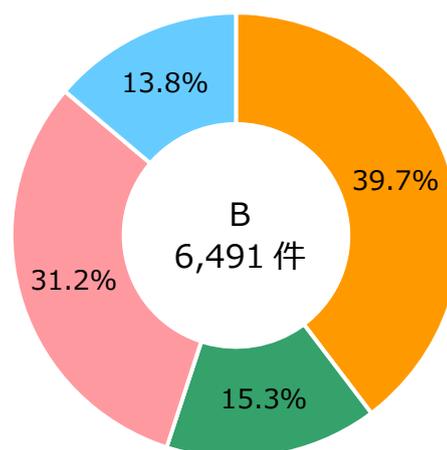
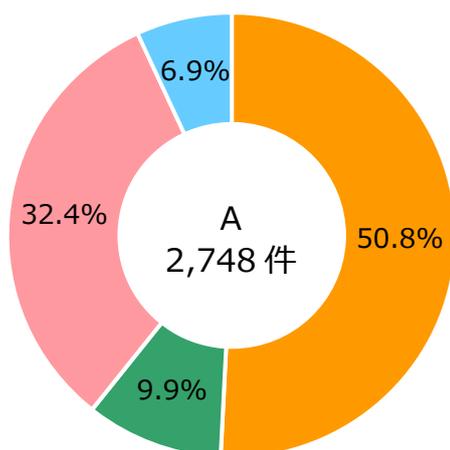
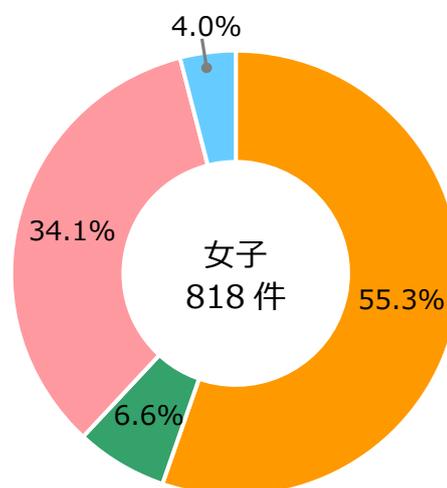
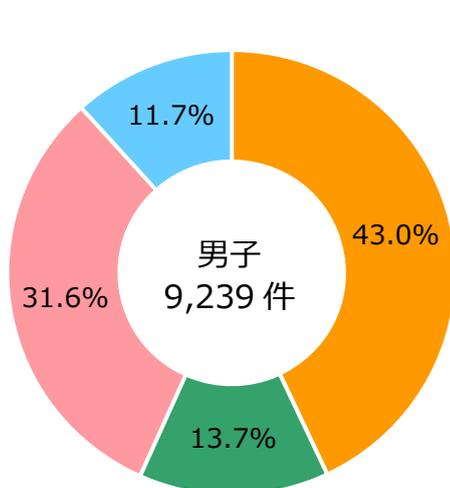
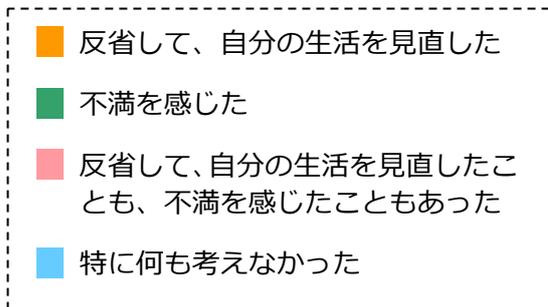
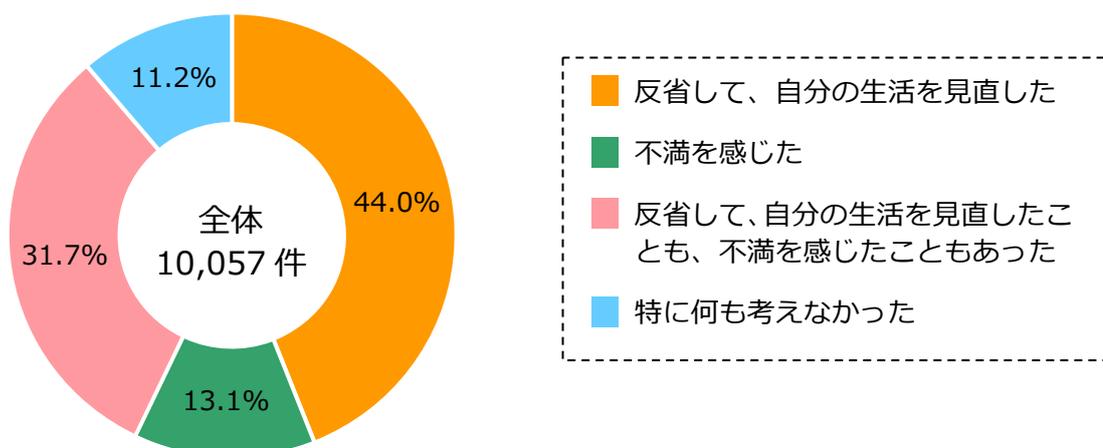
(2) (1) で「不当であると思った。」又は「当然だと感じたことも、不当だと感じたこともあった」と答えた人に聞きます。不当だと思っている内容はどれですか。

【すべて選択】





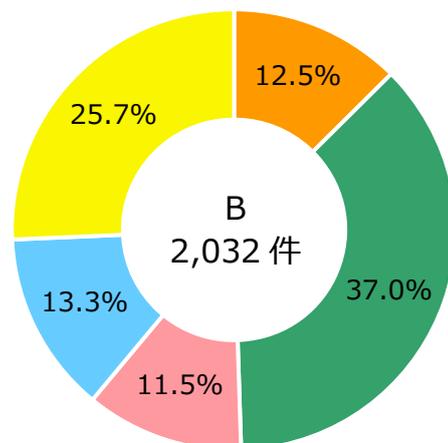
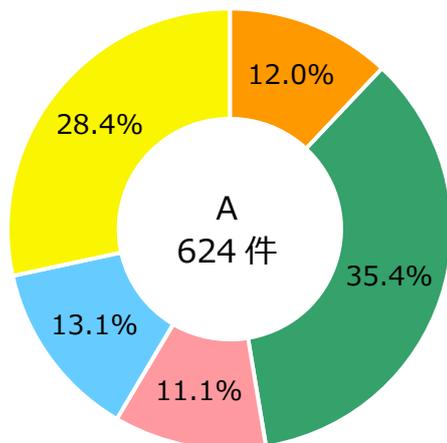
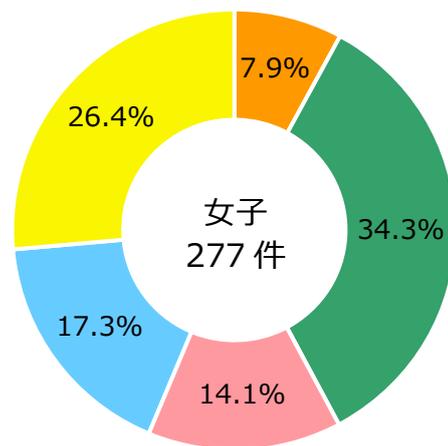
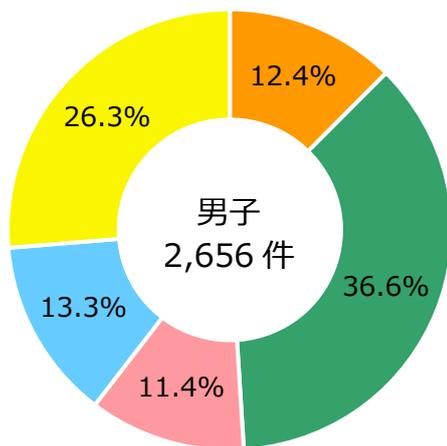
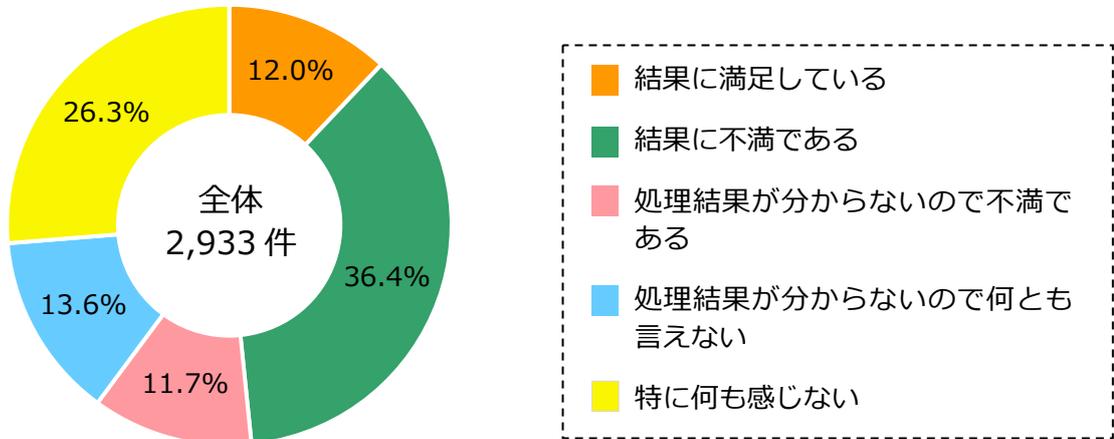
(3) 懲罰を受けて、どのように考えましたか。



懲罰について不当に思った点について質問したところ、「懲罰の認定方法・理由」(74.9%)や「反則行為の調査の方法」(66.6%)といった回答が「懲罰の内容」(49.7%)を上回った。懲罰を受けて考えたことについては、いずれの類型においても「反省して、自分の生活を見直した」と回答した者が最も多かったが、その傾向は男子よりも女子の方が強い。

16. 不服申立て関係について

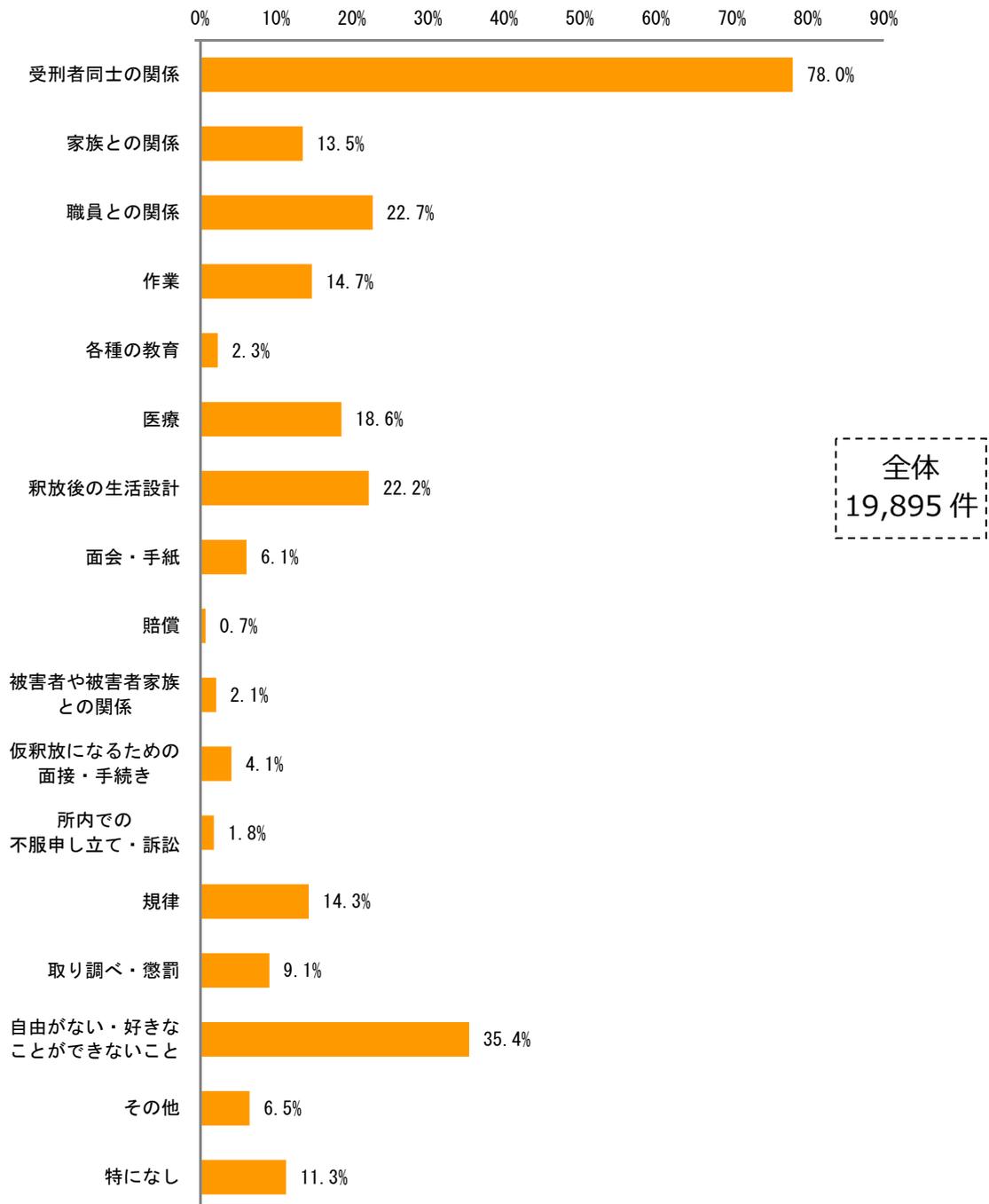
不服申立てをしたことがある人に聞きます。不服申立ての結果についてどう思いますか。

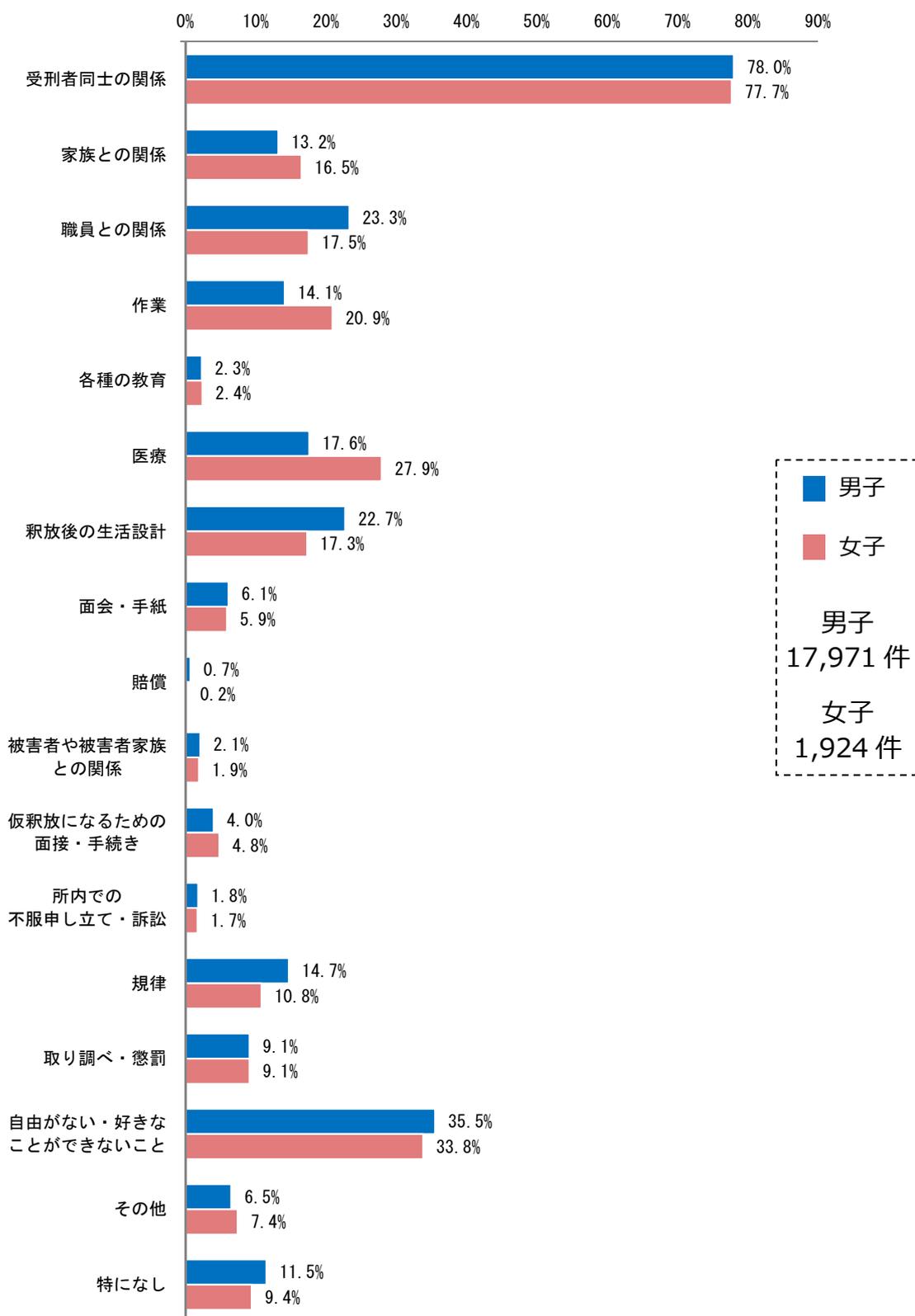


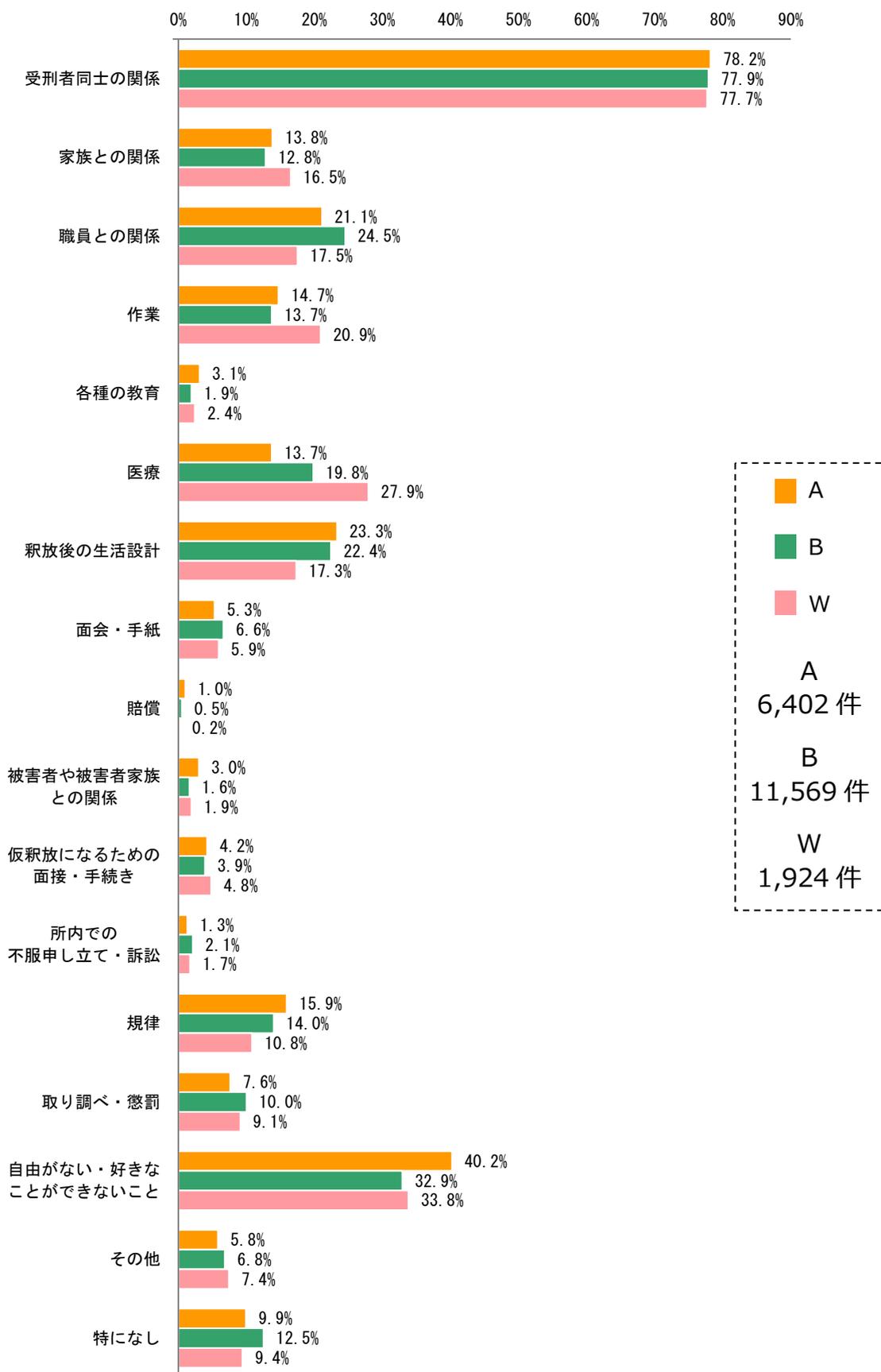
不服申し立ての結果については、いずれの類型においても、3割以上の者が「結果に不満である」と回答した。

17. 受刑生活関係について

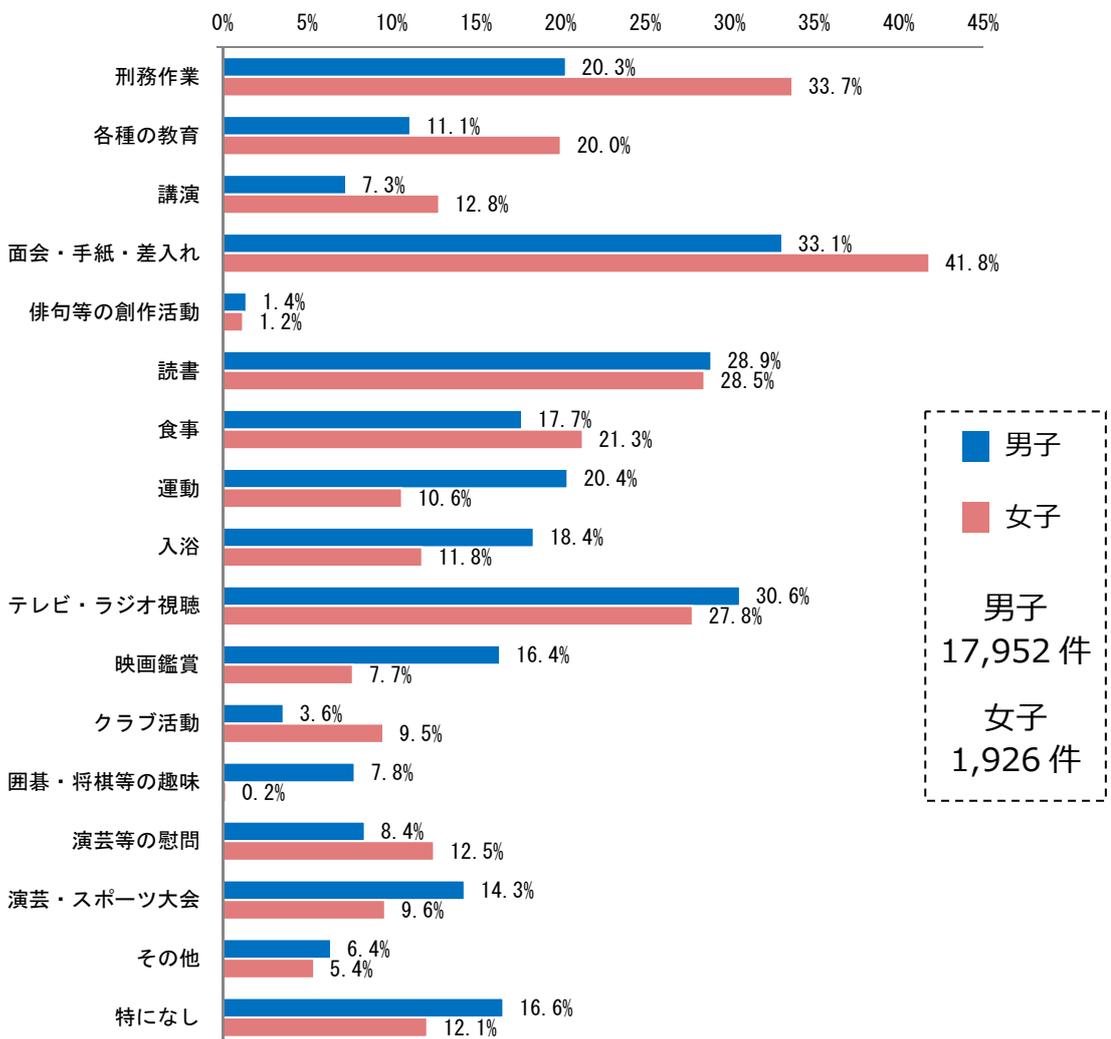
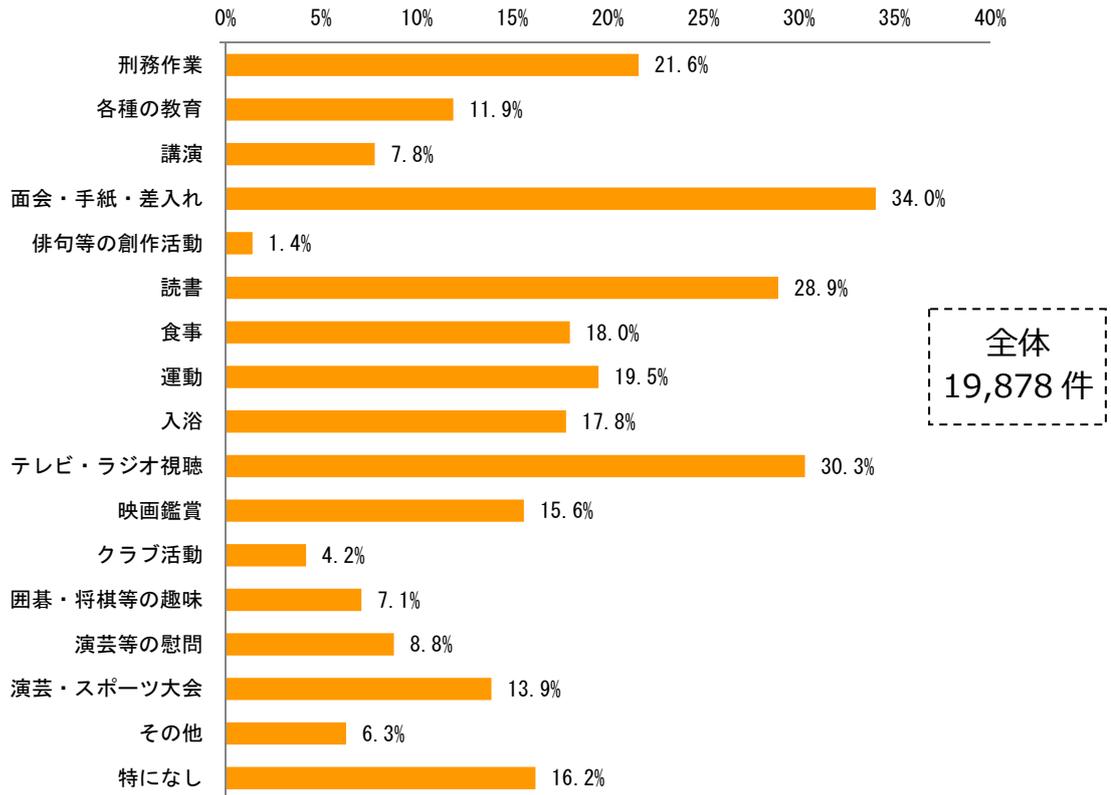
(1) 受刑生活で苦勞したと思うことはどれですか。【3つまで選択】

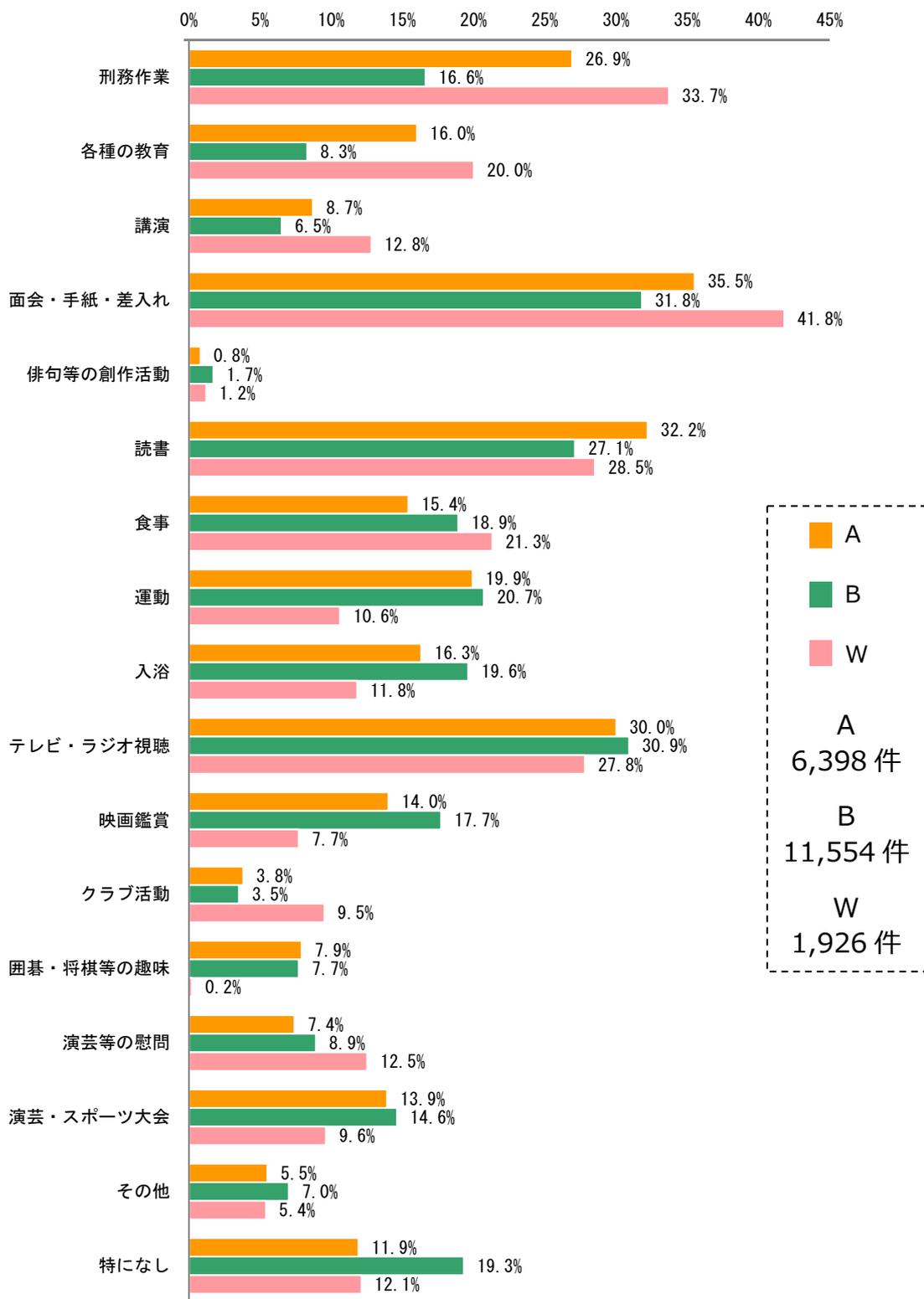




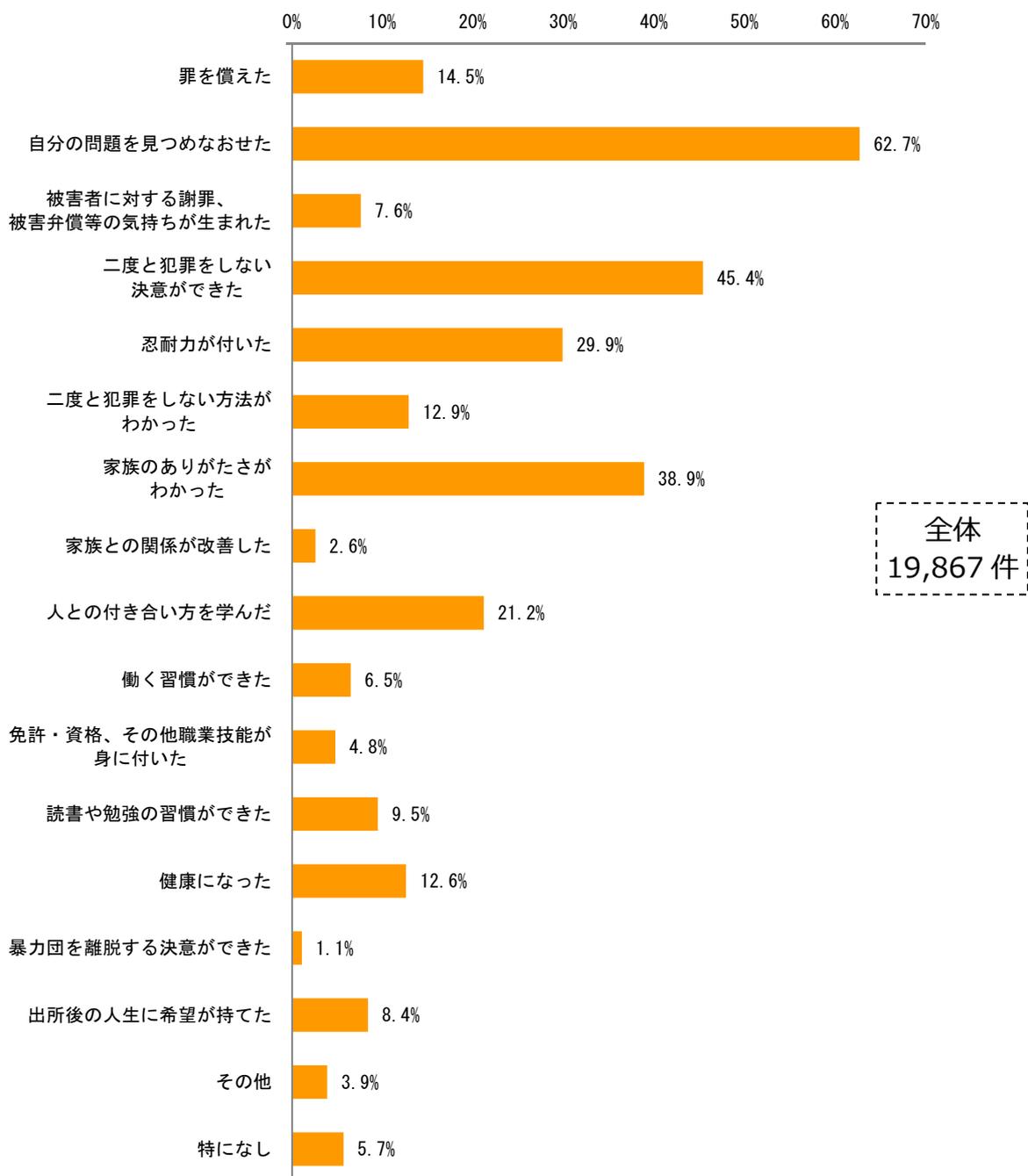


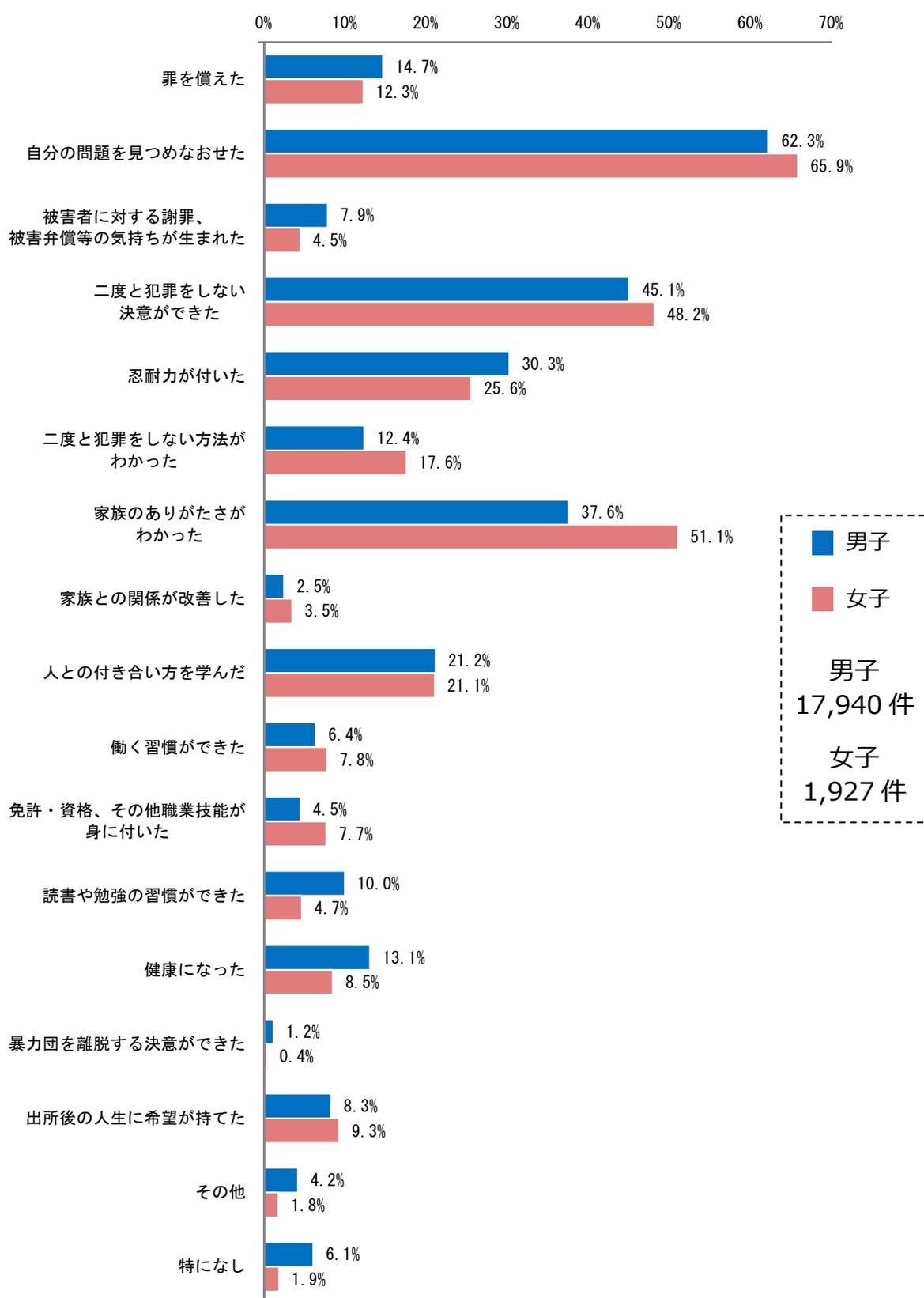
(2) 受刑生活で良かったことはどれですか。【3つまで選択】

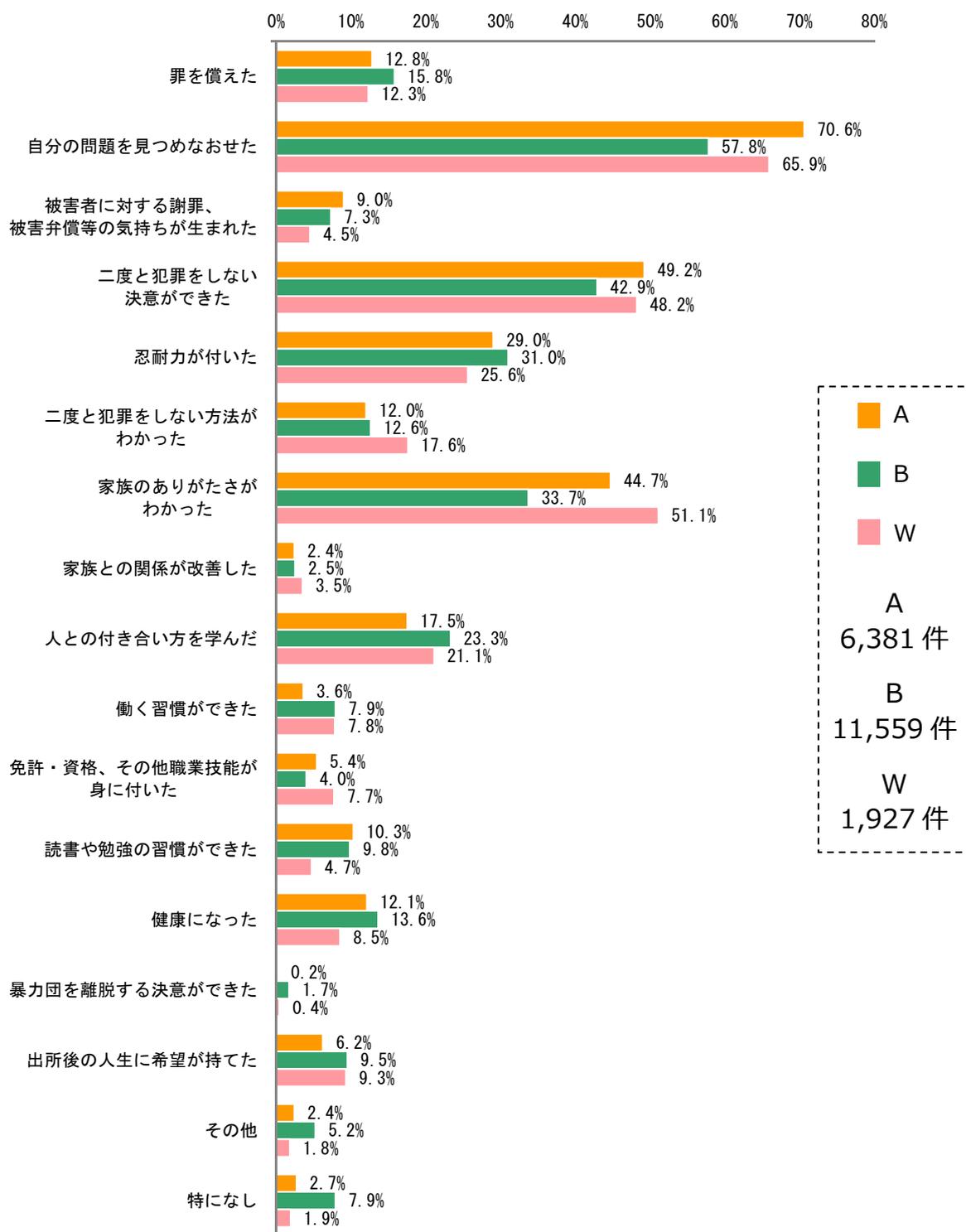




(3) 今回の受刑生活で得られたものはどれですか。【3つまで選択】



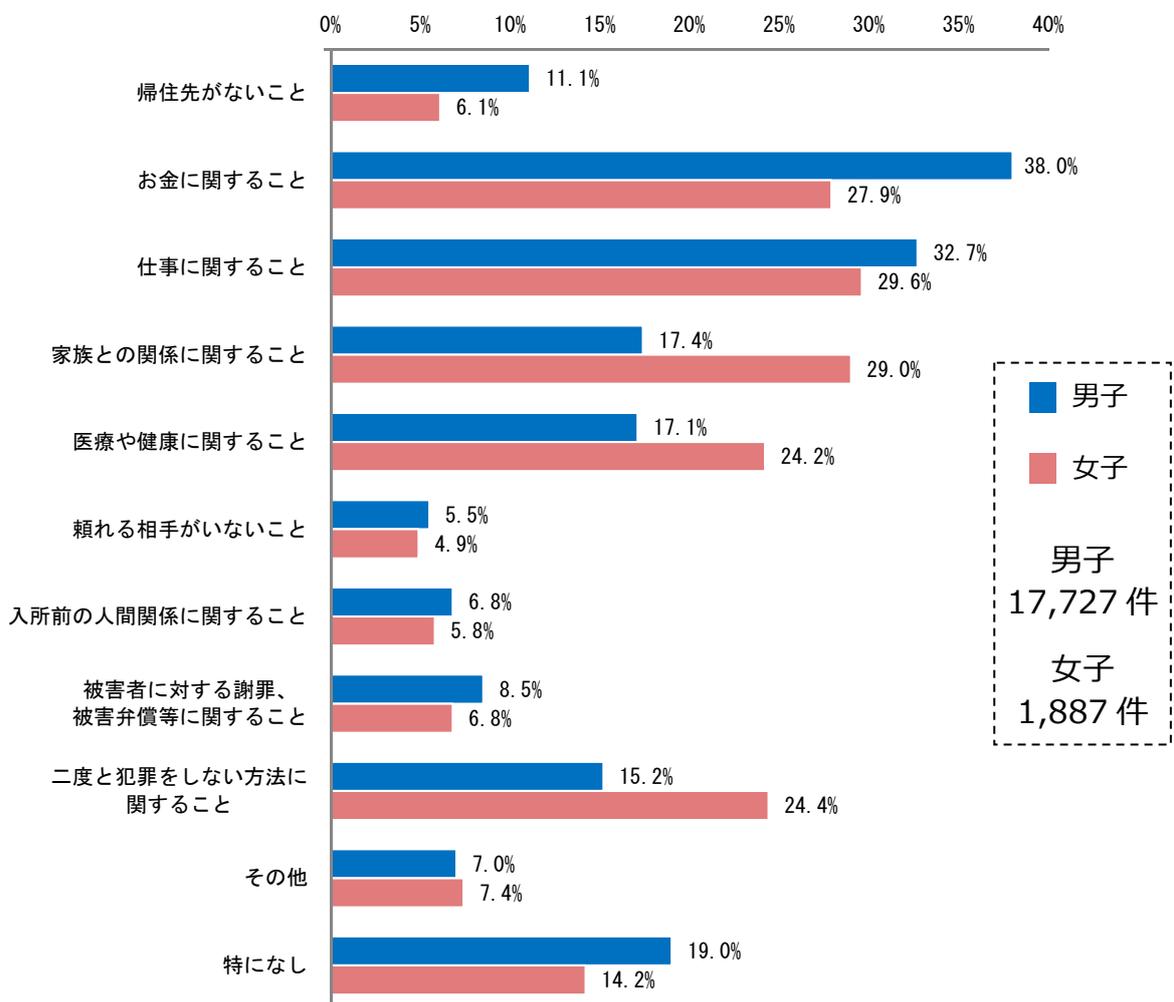
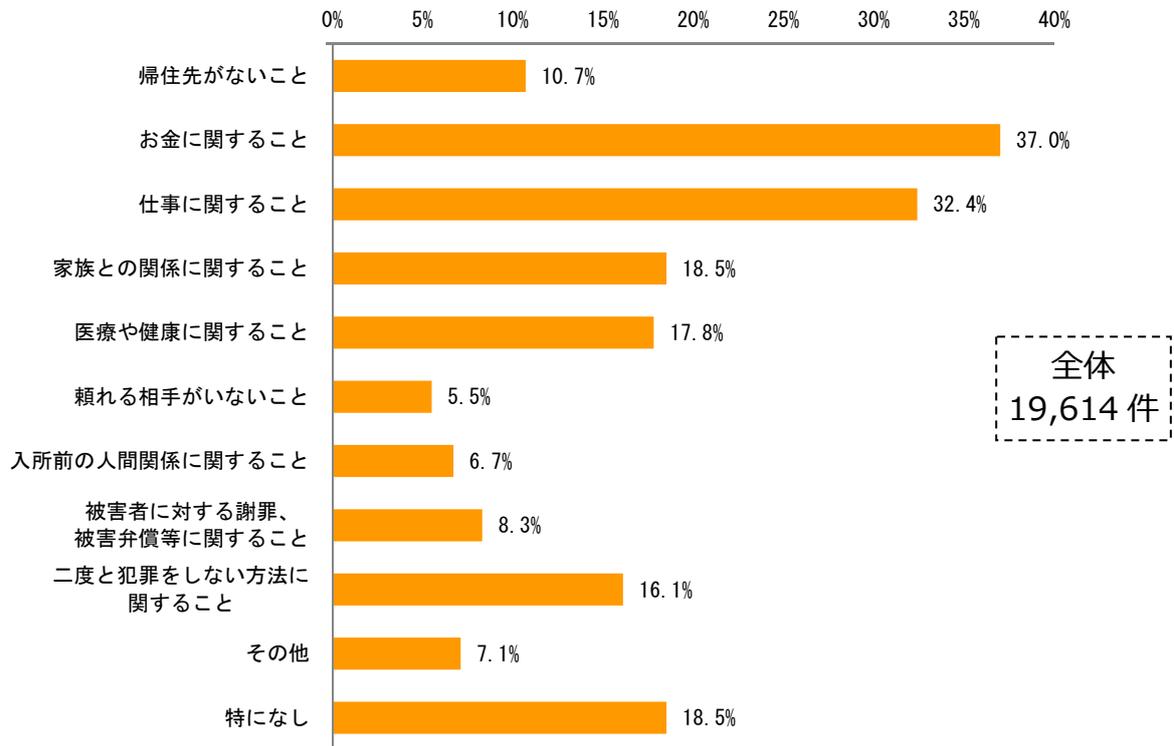


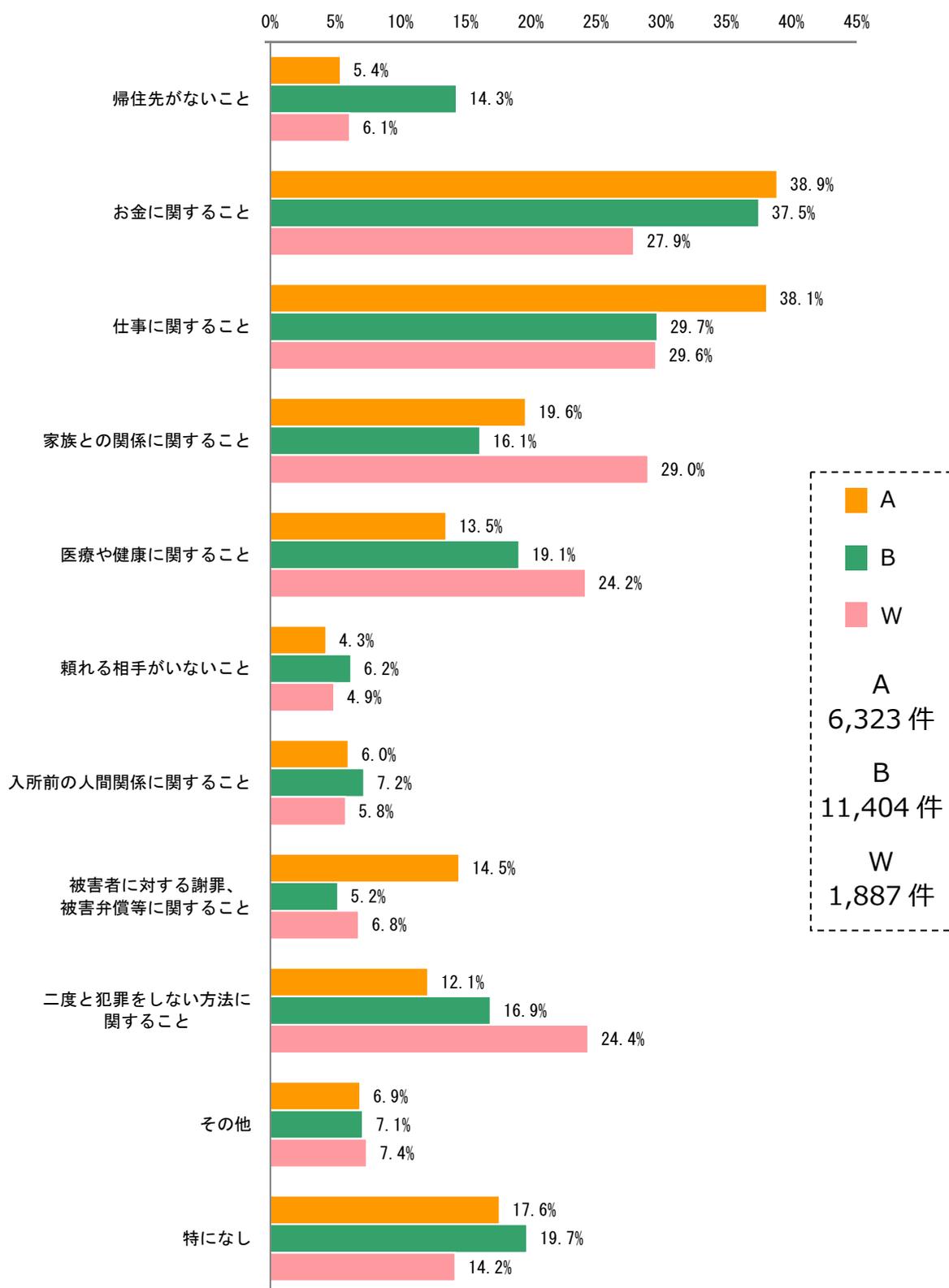


受刑生活で苦勞したと思うことについて質問したところ、全ての類型において約8割の者が「受刑者同士の関係」を挙げた。受刑生活で良かったことについて質問したところ、全体的に回答はばらついていてものの「面会・手紙・差入れ」(34.0%)、「テレビ・ラジオ視聴」(30.3%)、「読書」(28.9%)と回答する者が多かったほか、女子では「刑務作業」(33.7%)を挙げた者も多かった。また、今回の受刑生活で得られたものについて質問したところ、「自分の問題を見つめ直せた」と回答した者が約6割と最も多かったほか、女子では「家族のありがたさがわかった」(51.1%)と回答した者も多かった。

18. 出所後の生活について

出所後の生活について不安に感じることはありますか。【2つまで選択】

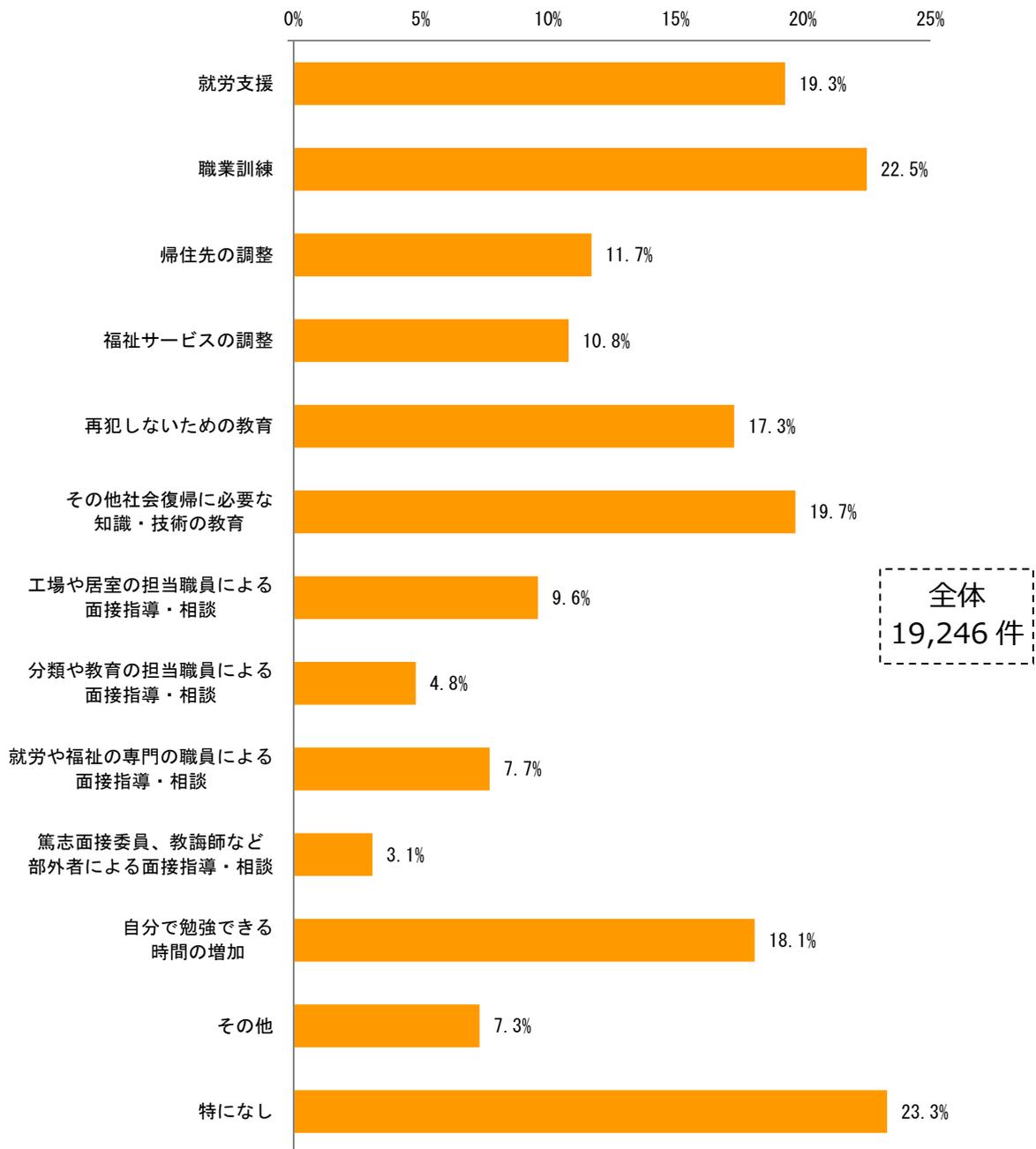


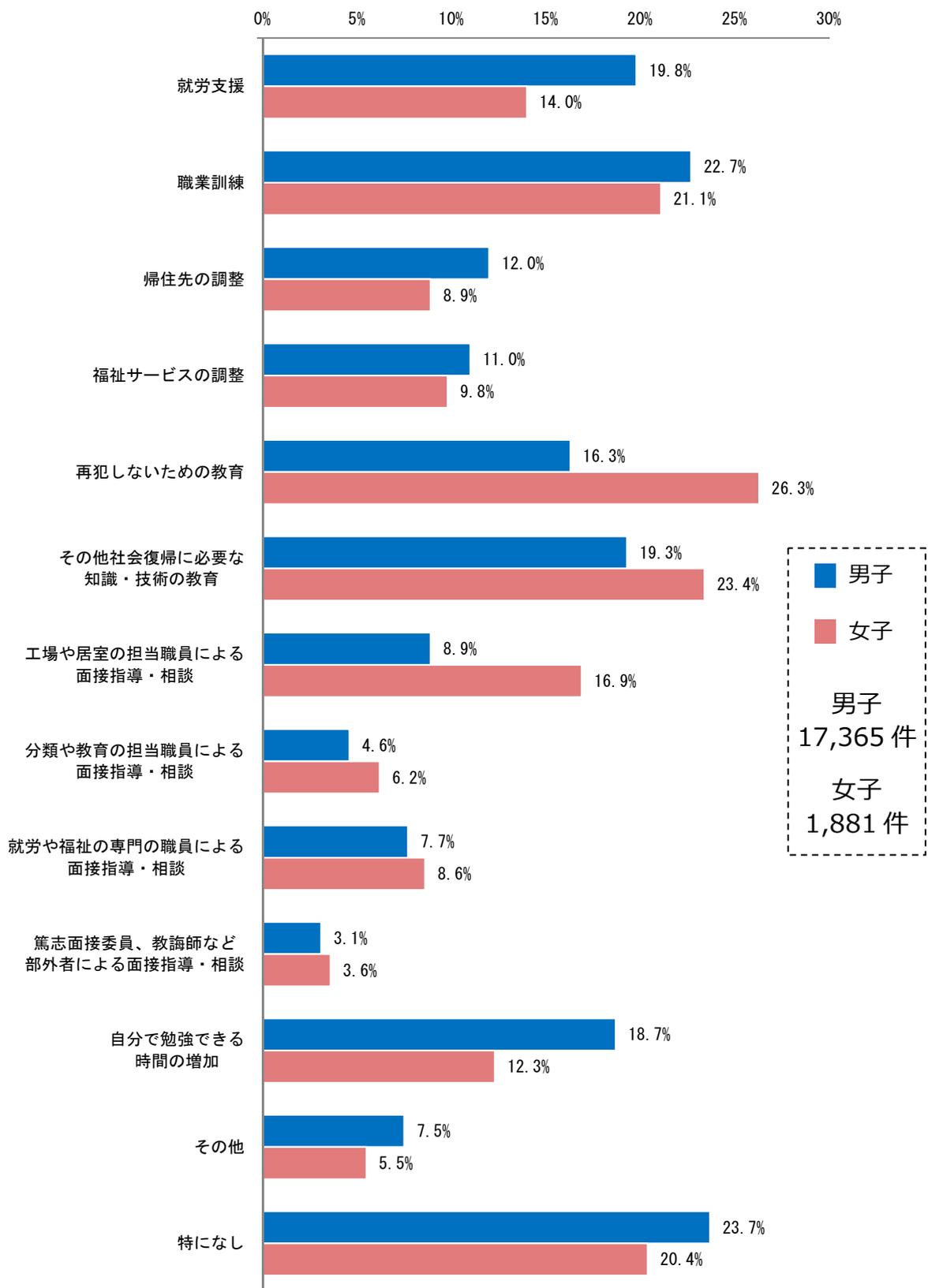


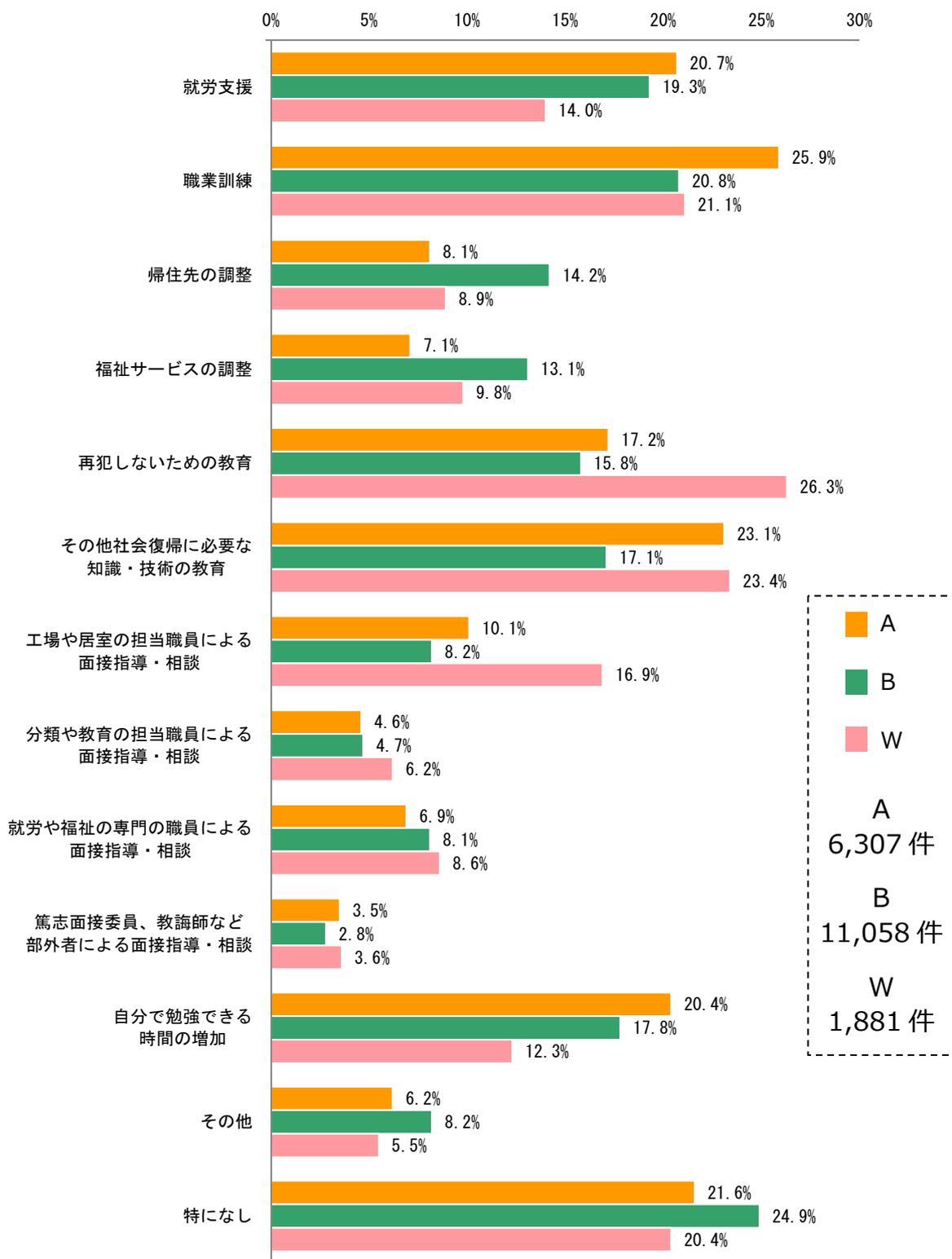
出所後の生活で不安に感じる事について質問したところ、「お金に関する事」(37.0%)や「仕事に関する事」(32.4%)といった出所後の経済的基盤に関する不安について回答する者が多かった。また、女子では「家族との関係に関する事」(29.0%)と回答する者も多かった。

19. 刑務所でしてほしいことについて

出所後の生活のために刑務所でしてほしいことは何ですか。【2つまで選択】







出所後の生活のために刑事施設でしてほしいことについて質問したところ、「職業訓練」(22.5%)や「就業支援」(19.3%)といった就労に関する指導・支援のほか、「その他社会復帰に必要な知識・技術の教育」(19.7%)や「自分で勉強できる時間の増加」(18.1%)、「再犯しないための教育」(17.3%)といった教育を求める回答も多かった。